

別冊 2

# 土木工事技術の難易度 評価要領

平成28年4月

佐賀県

地域交流部  
農林水産部  
県土整備部

## 目 次

1	土木工事技術的難易度評価要領・・・・・・・・・・・・・・・・P	1
2	別紙－1 工事技術的難易度評価手順・・・・・・・・・・・・P	2
3	別紙－2 工事区分表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P	4
4	別紙－3 工事難易度評価の小項目別運用表・・・・・・・・P	7
5	別紙－4 工事区分別工事難易度対応表・・・・・・・・・・・・P	12
6	難易度様式1 工事技術的難易度評価・・・・・・・・・・・・P	14
7	工事難易度評価の小項目別運用表評価事例紙集・・・・・・・・P	16

# 土木工事技術の難易度評価要領

## 佐賀県土木工事技術的難易度評価要領

### (目的)

第1条 本要領は、佐賀県土木工事検査要領第9条に基づき、工事技術的難易度評価（以下「評価」という。）に関する事項を定めるものである。

### (対象工事)

第2条 評価の対象とする工事は、地域交流部、農林水産部及び県土整備部における土木工事及びその他これらに類する工事とする。

### (評価の時期)

第3条 評定の時期は、工事の完成時とする。

### (評定者)

第4条 評価を行う者（以下「評価者」という。）は、総括（主任）監督員とする。

### (評価の方法)

第5条 評価は、工事ごとに行い、評価に当たっては主任（一般）監督員及び検査員の意見をきくものとする。

- 2 評価は、難易度様式1「工事技術的難易度評価表（電気通信設備は難易度様式2，港湾・空港工事【土木工事以外】は難易度様式3）に記録するものとする。
- 3 前項の評価は、別紙—1「工事技術的難易度評価手順」の方法により行うものとする。

### 附 則

この要領は、平成15年8月1日から施行する。

この要領は、平成16年4月1日から施行する。

この要領は、平成26年9月1日から施行する。

この要領は、平成27年4月1日から施行する。

この要領は、平成28年4月1日から施行する。



## 工事技術的難易度評価手順

1. 工事技術的難易度評価表「難易度様式」の記入は、次の手順により行うものとする。

### 手順1 工事区分

工事区分は、評価対象工事に含まれる難易度の最も高い工事区分を記入する。なお、技術的難易度に用いる工事区分は、別紙－2「工事区分表」による。

### 手順2 小項目の評価

各小項目の評価は、別紙－3「工事技術的難易度評価の小項目別運用表」(施設、電気・通信・受変電設備は別紙－3の2、港湾工事【土木工事以外】は別紙－3の3、建築工事は別紙－3の4、建築(設備)工事は別紙－3の5)の評価対象事項欄を基に、各小項目の評価をA、B、Cで行い、難易度様式1に記入する。

### 手順3 大項目の評価

各大項目の評価は、手順2の各小項目ごとの評価結果から表－1の判定基準に基づき、大項目の評価をA、B、Cで行い、難易度様式1に記入する。

表－1 大項目判定基準

大項目評価	小項目評価
A	対象大項目に対応する各小項目にA判定が1つ以上ある。
B	対象大項目に対応する各小項目評価にB判定が1つ以上あり、かつ、A判定がない。
C	対象大項目に対応する各小項目にA若しくはB判定がない。

### 手順4 工事の技術的難易度判定

工事の技術的難易度判定は、大項目の評価結果から表－2(施設、電気・通信・受変電設備は表－2の2、港湾工事【土木工事以外】は表－2の3、建築工事・建築(設備)工事は表2－4)の判定基準に基づき、当該対象工事の「易、やや難、難」の判定を行うものとする。

なお、難易度の判定を行う際に、難易度様式に示される特別考慮因子が存在する場合には、特別考慮要因のA、Bの判定も数に含めるものとする。

表－2 「易、やや難、難」判定基準

「易、やや難、難」の判定	大項目評価
難	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大項目の評価にA判定が2つ以上ある。</li> <li>・大項目の評価にA判定が1つあり、かつ、B判定が4個以上ある。</li> <li>・大項目の評価にA判定が1つあり、かつ、B判定が3個以下の場合にも、工事特性により、「難」と判定してもよい。</li> </ul>
やや難	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大項目の評価にA判定が1つ以上あり、かつ、B判定が3個以下である。</li> <li>・大項目の評価にA判定がなく、かつB判定が1つ以上ある。</li> </ul>
易	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大項目の評価にA若しくは、B判定項目がない。</li> </ul>

表-2の2 「易、やや難、難」判定基準(施設、電気・通信・受変電設備工事)

「易、やや難、難」の判定	大項目評価
難	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大項目の評価にA判定が2つ以上ある。</li> <li>・大項目の評価にA判定が1つあり、かつ、B判定が3個以上ある。</li> <li>・大項目の評価にA判定が1つあり、かつ、B判定が2個以下の場合にも、工事特性により、「難」と判定してもよい。</li> </ul>
やや難	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大項目の評価にA判定が1つ以上あり、かつ、B判定が2個以下である。</li> <li>・大項目の評価にA判定がなく、かつB判定が1つ以上ある。</li> </ul>
易	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大項目の評価にA若しくは、B判定項目がない。</li> <li>・大項目の評価にA判定がなく、かつB判定が1つ以上の場合にも、工事特性により、「易」と判定してもよい。</li> </ul>

表-2の3 「易、やや難、難」判定基準(港湾工事【土木工事以外】)

「易、やや難、難」の判定	大項目評価
難	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大項目の評価にA判定が2つ以上ある。</li> <li>・大項目の評価にA判定が1つあり、かつ、B判定が3個以上ある。</li> </ul>
やや難	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大項目の評価にA判定が1つ以上あり、かつ、B判定が2個以下である。</li> <li>・大項目の評価にB判定が2つ以上あり、かつA判定がない。</li> </ul>
易	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大項目の評価にA若しくは、B判定項目がない。</li> <li>・大項目の評価にB判定が1つあり、かつA判定がない。</li> </ul>

表-2の4 「易、やや難、難」判定基準(建築・建築(設備)工事)

「易、やや難、難」の判定	大項目評価
難	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大項目の評価にA判定が2つ以上ある。</li> <li>・大項目の評価にA判定が1つあり、かつ、B判定が4個以上ある。</li> <li>・大項目の評価にA判定が1つあり、かつ、B判定が3個以下の場合にも、工事特性により、「難」と判定してもよい。</li> </ul>
やや難	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大項目の評価にA判定が1つ以上あり、かつ、B判定が3個以下である。</li> <li>・大項目の評価にA判定がなく、かつB判定が1つ以上ある。</li> </ul>
易	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大項目の評価にA若しくは、B判定項目がない。</li> </ul>

#### 手順5 工事の技術的難易度の評価

工事の技術的難易度の評価は、手順4の判定結果から別紙-4「工事区分別の技術的難易度対応表」(施設、電気・通信・受変電設備、港湾工事【土木工事以外】、建築工事、建築(設備)工事は別紙-4の2)の当該対象工事の工事区分に対応する工事難易度「I～VI」の評価を行い、難易度様式1に記録する。

## 工事区分表

工事分類	構造物分類(構造形式・工法分類)	工事分類CD
河川・排水路	築堤工	1101
	護岸工	1102
	柵渠	1103
	床止め・床固め	1104
	堰・水門	1105
	山岳トンネル工法	1106
	シールド工法	1107
	開削工法	1108
	推進工法	1109
	樋門・樋管	1110
	伏せ越し	1111
	揚排水機場	1112
	河川浚渫	1113
	維持管理	1114
海岸	海岸堤防	1201
	護岸	1202
	突堤・離岸堤	1203
	養浜	1204
	海岸浚渫	1205
	維持管理	1206
	ブロック類製作	1207
	浚渫 防波堤(ブロック) 岸壁 捨石 ケーソン製作	1208
	防波堤(ケーソン式) 岸壁(杭式棧橋)	1209
	沈埋トンネル	1210
砂防・地滑り・治山	砂防ダム・堰堤	1301
	流路工	1302
	水抜きボーリング	1303
	擁壁工	1304
	集水井	1305
	排水トンネル	1306
	杭打工	1307
	アンカー工	1308
	維持管理	1309
	道路・農道・林道	山岳トンネル工法
トンネルシールド工法		1402
トンネル開削工法		1403
トンネル沈理工法		1404
共同溝シールド工法		1405
共同溝開削工法		1406
共同溝推進工法		1407
橋梁上部RC橋		1408
橋梁上部PC橋		1409
橋梁上部鋼橋		1410
橋梁上部床版工(鋼橋)		1411
橋梁下部RC橋脚・橋台		1412
橋梁下部鋼製橋脚・橋台		1413
橋梁下部合成構造橋脚・橋台		1414
小規模橋脚		1415
セメントコンクリート舗装		1416
アスファルト舗装		1417

## 工事区分表

工事分類	構造物分類(構造形式・工法分類)	工事分類CD
道路・農道・林道	切土工	1418
	盛土工	1419
	斜面安定・法面工	1420
	カルバート工	1421
	擁壁工	1422
	維持管理	1423
	ブロック舗装	1424
	排水工	1425
	電線共同溝・CAB	1426
	情報BOX	1427
	シェッド	1428
ほ場整備・農地造成	区画整理	1501
	暗渠排水	1502
	客土	1503
	改良山成	1504
	階段畑	1505
	土壌処理等	1506
水路工・畑かん施設	開水路	1601
	暗渠工(函渠工)	1602
	管水路RC管、VP管	1603
	管水路DCIP管、FRPM管、SP管	1604
	管水路コルゲート管	1605
	サイフォン工	1606
	水路橋大規模RC構造	1607
	水路橋大規模PC構造	1608
	水路橋小規模	1609
	水管橋大規模	1610
	水管橋小規模	1611
	揚水機場(加圧)	1612
	末端パイプライン	1613
	散水施設	1614
	調整水槽PCタンク	1615
	調整水槽RCタンク	1616
ため池	谷池	1701
	皿池	1702
	盛土(築堤)	1703
	取水施設	1704
	洪水吐	1705
	土浚渫	1706
建築工事	建築(倉庫、車庫等)	1801
	建築(庁舎、研修施設)	1802
	建築(美術館、研究施設等)	1803
建築工事(電気)	電気(倉庫、車庫等)	1901
	電気(庁舎、研修施設)	1902
	電気(美術館、研究施設等)	1903
建築工事(機械)	機械(倉庫、車庫等)	2001
	機械(庁舎、研修施設)	2002
	機械(美術館、研究施設等)	2003

## 工事区分表

工事分類	構造物分類(構造形式・工法分類)	工事分類CD
施設機械	水路用ゲート	2101
	堰ゲート	2102
	ゴム引布製起伏ゲート	2103
	ダム放流ゲート	2104
	ダム取水ゲート	2105
	ポンプ設備	2106
	除塵設備	2107
	電気設備	電気設備(河川本川・堤防)
電気設備(樋門・樋管、用排水機、堰)		2202
電気設備(海岸一般)		2203
電気設備(砂防一般)		2204
電気設備(堤体本体)		2205
電気設備(ダム周辺)		2206
電気設備(道路付帯施設)		2207
電気設備(トンネル)		2208
電気設備(橋梁、共同溝)		2209
通信設備		通信設備(河川本川・堤防)
	通信設備(樋門・樋管、用排水機、堰)	2302
	通信設備(海岸一般)	2303
	通信設備(砂防一般)	2304
	通信設備(堤体本体)	2305
	通信設備(ダム周辺)	2306
	通信設備(道路付帯施設)	2307
	通信設備(トンネル)	2308
	通信設備(橋梁、共同溝)	2309
	受変電設備	受変電設備(河川本川・堤防)
受変電設備(樋門・樋管、用排水機、堰)		2402
受変電設備(海岸一般)		2403
受変電設備(砂防一般)		2404
受変電設備(堤体本体)		2405
受変電設備(ダム周辺)		2406
受変電設備(道路付帯施設)		2407
受変電設備(トンネル)		2408
受変電設備(橋梁、共同溝)		2409
ダム		重力式ダム
	アーチ式ダム	2502
	ロックフィルダム	2503
	アースダム	2504
	表面遮水壁フィルダム	2505
	複合ダム	2506
	維持管理	2507
	公園	基盤整備
植栽		2602
施設整備		2603
グラウンド整備		2604
自然育成		2605
維持管理		2606

工事難易度評価の小項目別運用表

大項目	小項目	評価対象事項(代表的事項等)
1. 構造物条件	①形状	対象構造物の形状の複雑さ(土被り厚やトンネル線形等を含む)
	②その他	既設構造物の補強、撤去等特殊な工事対象
2. 技術的特性	①工法等	工法、使用機械、使用材料等
	②その他	施工方法に関する技術提案等
3. 自然条件	①湧水・地下水	湧水の発生、掘削作業等に対する地下水位の影響等
	②軟弱地盤	支持地盤の状況
	③作業用道路・ヤード	河川内・海域・急峻な地形条件下等、工事用道路・作業スペース等の制約
	④気象・海象	雨・雪・風・気温・波浪等の影響
	⑤その他	地すべり等の地質条件、急流河川における水流、海域における潮流等の影響、動植物に対する配慮等
4. 社会条件	①地中障害物	地下埋設物等の地中内の作業障害物
	②近接施工	工事の影響に配慮すべき鉄道営業線・供用中道路・架空線・建築物等の近接物
	③騒音・震動	周辺住民等に対する騒音・震動の配慮
	④水質汚濁	周辺水域環境に対する騒音・震動の配慮
	⑤作業用道路・ヤード	生活道路を利用した資機材搬入等の工事用道路の制約、路面覆工下・高架下等の作業スペースの制約
	⑥現道作業	現道上での交通規制を伴う作業
	⑦その他	騒音・震動・水質汚濁以外の環境対策、廃棄物処理等
5. マネジメント特性	①他工区調整	隣接工区との工程調整
	②住民対応	近接住民との対応
	③関係機関対応	関係行政機関・公益事業者等との調整
	④工程管理	工期・工程の制約・変更への対応(工法変更等に伴うものを含む)
	⑤品質管理	品質管理の煩雑さ、複雑さ(高い品質管理精度の要求等を含む)
	⑥安全管理	高所作業、夜間作業、潜水作業等の危険作業
	⑦その他	災害時の応急復旧等

## [評価方法]

以下の3ランクの評価を行う。

A:特に困難な、または特に高度な技術を要する「条件・状況」

B:困難な、または高度な技術を要する「条件・状況」

C:一般的に生ずる、または通常の技術で対応可能な「条件・状況」

工事難易度評価の小項目別運用表(土木工事に係る施設、電気・通信・受変電設備工事)

大項目	小項目	評価対象事項(代表的事項等)
1. 設備条件	①設備種別	主な設備の種別(低圧設備、高圧設備等)
	②設備規模	主な設備の規模(照明灯数、線路亘長、設備容量等)
	③その他	既設設備の改造・転用、特殊な対象設備等
2. 設備技術的特性	①設備仕様	省エネ仕様、監視制御仕様、耐震仕様、リサイクルへの配慮等
	②施工方法	工法、使用材料等
	③その他	設備の運用に係る付加技術等
3. 設備設置条件	①設置環境	湿度、温度、高度等
	②設置構造物	設置構造物の形状の複雑さ、設置箇所の条件等
	③その他	設置に際し特に配慮すべき特殊要因等
4. 社会条件	①地中障害物	地下埋設物等の地中内の作業障害物
	②近接施工	工事の影響に配慮すべき鉄道営業線・供用中道路・架空線・建築物等の近接物
	③騒音・振動	周辺住民等に対する騒音・振動の配慮
	④水質汚濁	周辺水域環境に対する騒音・振動の配慮
	⑤作業用道路・ヤード	生活道路を利用しての資機材搬入等の工事用道路の制約、路面覆工下・高架下等の作業スペースの制約
	⑥現道作業	現道上での交通規制を伴う作業
	⑦その他	騒音・振動・水質汚濁以外の環境対策、廃棄物処理等
5. マネジメント特性	①他工区調整	隣接工区との工程調整
	②住民対応	近隣住民との対応
	③関係機関対応	関係行政機関・公益事業者等との調整
	④工程管理	工期・工程の制約・変更への対応(工法変更等に伴うものを含む)
	⑤品質管理	品質管理の複雑さ、複雑さ(高い品質管理精度の要求等を含む)
	⑥安全管理	高所作業、夜間作業、潜水作業等の危険作業
	⑦その他	災害時の応急復旧等

[評価方法]

以下の3ランクの評価を行う。

A:特に困難な、または、特に高度な技術を要する「条件・状況」

B:困難な、または、高度な技術を要する「条件・状況」

C:一般的に生ずる、または、通常の技術で対応可能な「条件・状況」

工事難易度評価の小項目別運用表(港湾工事【土木工事以外】)

大項目	小項目	評価対象事項(代表的事項等)
1. 構造物条件	①規模	対象構造物の水深・高さ、延長、施工(断)面積、全断面・部分断面の施工、施工深度、陸上等からの離岸距離、ケーソンの回航距離等の規模
	②形状	対象構造物の形状の複雑さ(特殊ケーソン)、法線の曲線等
	③その他	既設構造物の補強、撤去等特殊な工事
2. 技術的特性	①工法等	工法、使用船舶・機械、使用材料等
	②その他	施工方法に関する技術提案等
3. 自然条件	①湧水・地下水	湧水の発生、掘削作業等に対する地下水位の影響等
	②軟弱地盤	土質条件、支持地盤の状況
	③作業用道路・ヤード	海域・河川内・急峻な地形条件下等、工事用道路・作業スペース等の制約
	④気象・海象	波浪、うねり、視界、透明度、雨・雪・風・気温等の影響、潮待ちの有無等
	⑤その他	海域における潮流、地すべり等の地質条件、急流河川における水流等の影響、動植物等に対する配慮等
4. 社会条件	①地中障害物	埋設物等の障害物
	②近接施工	工事の影響に配慮すべき養殖漁業、鉄道営業線・供用中道路・架空線・建築物等の近接物、空港の制限区域
	③騒音・振動	周辺住民等に対する騒音・振動の配慮
	④水質汚濁	周辺水域環境に対する騒音・振動の配慮
	⑤工事区域	航路の切り回し、船舶航行等による作業の規制
	⑥作業用道路・ヤード	港湾施設の供用による制約、生活道路を利用した資機材搬入等の工事用道路の制約、路面覆工下・高架下等の作業スペースの制約等
	⑦供用規制	供用中の港湾施設等の利用の規制を伴う作業、現道上での交通規制を伴う作業
	⑧その他	騒音・振動・水質汚濁以外の環境対策、廃棄物処理、粉塵対策等
5. マネジメント特性	①他工区調整	隣接工区との工程調整、作業等調整
	②住民対応	漁業者・海事関係者・近隣住民・プレジャーボート所有者等との対応
	③関係機関対応	関係行政機関・公益事業者、関係民間団体・企業との調整
	④工程管理	工期・工程の制約・変更への対応(工法変更等に伴うものを含む)
	⑤品質管理	品質管理の複雑さ、複雑さ(高い品質・出来形管理精度の要求等を含む)
	⑥安全管理	作業船の回航、作業船避難場所の確保、潜水作業の絞対策等の危険作業、高所作業、夜間作業
	⑦その他	災害時の応急復旧等

[評価方法]

以下の3ランクの評価を行う。

A: 特に困難な、または、特に高度な技術を要する「条件・状況」

B: 困難な、または、高度な技術を要する「条件・状況」

C: 一般的に生ずる、または、通常の技術で対応可能な「条件・状況」



工事難易度評価の小項目別運用表(建築工事)

大項目	小項目	評価対象事項(代表的事項等)
1. 建物条件	①規模	建物の面積
	②構造	建物の構造種別、特殊構造
	③形状建	物の形状の複雑さ
	④その他	建物構造の補強等、特殊な工事対象
2. 技術特性	①工法等	建物の総階数、工法、使用材料等
	②その他	施工方法に関する新技術採用等、改修の場合は既存との競合度合いを考慮
3. 自然条件	①支持地盤	地下階数、地下階深度、杭に及ぼす支持地盤の影響等
	②山留め・止水	湧水の発生、掘削作業時等に対する地下水位の影響等
	③気象・海象	施工の制約を受ける特殊な気象・海象条件
	④その他	地すべり等の地質条件等、改修の場合は施工計画上詳細調査が必要な場合等
4. 社会条件	①仮設条件	工事用道路、作業スペース等の制約
	②地中障害物	地下埋設物等の地中内の作業障害物
	③近接施工	工事に影響する架空線・建築物等の近接物
	④騒音・振動	周辺住民等に対する騒音・振動の配慮
	⑤水質汚濁	周辺水域環境に対する水質汚濁の配慮
	⑥その他	ガス・水道・電線路等の移設、電波障害対策
5. マネジメント特性	①他工区調整	隣接工区、他工事との工程調整
	②住民対応	近隣住民との対応
	③関係機関対応	関係行政機関等との調整
	④工程管理	工期・工程の制約への対応
	⑤品質管理	品質管理の複雑さ、複雑さ(特殊仕様への対応等を含む)
	⑥安全管理	高所作業、夜間作業等の危険作業、公衆災害の防止
	⑦その他	災害時の応急復旧、特殊な廃棄物への対応等

## [評価方法]

以下の3ランクの評価を行う。

A:特に困難な、または、特に高度な技術を要する「条件・状況」

B:困難な、または、高度な技術を要する「条件・状況」

C:一般的に生ずる、または、通常の技術で対応可能な「条件・状況」

## 工事難易度評価の小項目別運用表(建築(設備)工事)

大項目	小項目	評価対象事項(代表的事項等)
1. 設備システム種別条件	①システム種別	システムの種別
	②システム規模	システムの規模
	③その他	既存システムへの影響度
2. 技術特性	①工法等	建物の総階数、工法、使用材料等
	②その他	施工方法に関する新技術採用等、改修の場合は既存との競合度合いを考慮
3. 設備システム複合条件	①システム間複合度	システムの多さと複合度合い
	②システム複雑度	重要システムの複雑さ
	③その他	特殊なシステムの採用、改修の場合は施工計画に詳細調査が必要な場合等
4. 社会条件	①仮設条件	工所用道路、作業スペース等の制約
	②地中障害物	地下埋設物等の地中内の作業障害物
	③近接施工	工事に影響する架空線・建築物等の近接物
	④騒音・振動	周辺住民等に対する騒音・振動の配慮
	⑤水質汚濁	周辺水域環境に対する水質汚濁の配慮
	⑥その他	ガス・水道・電線路等の移設、電波障害対策
5. マネジメント特性	①他工区調整	隣接工区、他工事との工程調整
	②住民対応	近隣住民との対応
	③関係機関対応	関係行政機関等との調整
	④工程管理	工期・工程の制約への対応
	⑤品質管理	品質管理の複雑さ、複雑さ(特殊仕様への対応等を含む)
	⑥安全管理	高所作業、夜間作業等の危険作業、公衆災害の防止
	⑦その他	災害時の応急復旧、特殊な廃棄物への対応等

## [評価方法]

以下の3ランクの評価を行う。

A: 特に困難な、または、特に高度な技術を要する「条件・状況」

B: 困難な、または、高度な技術を要する「条件・状況」

C: 一般的に生ずる、または、通常の技術で対応可能な「条件・状況」

注) \* 1: 照明制御、火災報知設備方式、空調方式、給水方式について評価する。

### 工事区分別工事難易度対応表

手順4の「易、やや難、難」判定結果から、工事区分に応じ、以下の工事難易度Ⅰ～Ⅵとして評価する。  
 なお、特に難易度を高める特別な要因がある場合、難易度を高める要因が特に多岐にわたる場合等には、各工事区分の「難」より上位のランクに評価する。

工事分類	工事区分(構造物分類・構造形式・工法分類)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ
1.河川・排水路	築堤、護岸、床止め・床固め、河川浚渫、維持管理	易	やや難	難			
	樋門・樋管、水路トンネル(推進工法)、伏せ越し、揚排水機場		易	やや難	難		
	堰・水門、水路トンネル(山岳トンネル工法、シールド工法、開削工法)			易	やや難	難	
2.海岸	海岸堤防、護岸、養浜、海岸浚渫、維持管理	易	やや難	難			
	突堤・離岸堤		易	やや難	難		
4.砂防・地滑り・治山	流路工、水抜きボーリング、擁壁工、維持管理	易	やや難	難			
	砂防ダム・堰堤、集水井、排水トンネル、杭打工、アンカー工		易	やや難	難		
5.道路・農道・トンネル	小規模橋脚、舗装、切土工、盛土工、斜面安定・法面工、カルバート工、擁壁工、排水工、情報BOX、シット、維持管理	易	やや難	難			
	共同溝(推進工法、開削工法)、橋梁上部工、橋梁下部工、電線共同溝・CAB		易	やや難	難		
	トンネル(山岳トンネル工法、シールド工法、開削工法)、共同溝(シールド工法)トンネル(沈埋工法)			易	やや難	難	
6.ほ場整備・農地造成	区画整理、暗渠排水、客土、改良山成、階段畑、土壌処理等	易	やや難	難			
7.水路工・畑かん施設	開水路、暗渠工(函渠工)、管水路、水路橋(小規模)、水管橋(小規模)、揚水機場(加圧)、末端パイプライン、散水施設、調整水槽(RCタンク)	易	やや難	難			
	サイフォン工、水路橋(大規模)、水管橋(大規模)、調整水槽(PCタンク)		易	やや難	難		
8.ため池	皿池、盛土(築堤)、取水施設、洪水吐、泥土浚渫	易	やや難	難			
	谷池		易	やや難	難		
13.ダム	維持管理	易	やや難	難			
	転流トンネル(転流トンネルは5.道路トンネルで評価)			易	やや難	難	
	堤体工				易	やや難	難
14.公園	基盤整備、植栽、施設整備、グランド整備、自然育成、維持管理	易	やや難	難			

※工事区分「その他」については、類似の工事区分との関係等から類推する。

**設備区分別の技術的難易度対応表(施設電気通信設備工事、港湾工事【土木工事以外】、建築工事、建築(設備)工事)**

手順4の「易、やや難、難」判定結果から、設備区分に応じ、以下の工事難易度Ⅰ～Ⅵとして評価する。

なお、特に難易度を高める特別な要因がある場合、難易度を高める要因が特に多岐にわたる場合等には、各工事区分の「難」より上位のランクに評価する。

また、特に小規模な施設、施工条件等全般にわたり平易な場合等については、「易」の1ランク下に評価できるものとする。

設備区分	構造物分類等	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ
11.施設機械	水路用ゲート、ゴム引き布製起伏ゲート、除塵設備	易	やや難	難			
	堰ゲート、ダム放流ゲート、ダム取水ゲート、ポンプ設備			易	やや難	難	
12.電気・通信・受変電設備	河川本川・堤防、海岸一般、砂防一般、ダム周辺、道路附帯施設	易	やや難	難			
	樋門・樋管、用排水機、堰、トンネル		易	やや難	難		
	堤体本体、橋梁、共同溝			易	やや難	難	
3.港湾、港湾海岸	ブロック類製作工	易	やや難	難			
	浚渫、防波堤(ブロック)、岸壁(杭式棧橋除く)、捨石、ケーソン製作		易	やや難	難		
	防波堤(ケーソン式)、岸壁(杭式棧橋)			易	やや難	難	
	沈埋トンネル				易	やや難	難
9.建築工事	簡易(倉庫、車庫等)	易	やや難	難			
	一般(庁舎、研修施設等)		易	やや難	難		
	特殊(美術館、研究施設等)			易	やや難	難	
10.建築(設備)工事	簡易(倉庫、車庫等)	易	やや難	難			
	一般(庁舎、研修施設等)		易	やや難	難		
	特殊(美術館、研究施設等)			易	やや難	難	

※「〇〇一般」には、中継所施設を含むものとする。

## 工事技術的難易度評価表

入札契約方式				発注機関						
工 事 名				契約金額						
請負業者名				工期(最終)	平成	年	月 日 ~ 平成	年	月	日
評価項目				評 価 内 容						
大 項 目	評価	小 項 目	評価							
1. 構造物条件		①形状								
		②その他								
2. 技術的特性		①工法等								
		②その他								
3. 自然条件		①湧水・地下水								
		②軟弱地盤								
		③作業用道路・ヤード								
		④気象・海象								
		⑤その他								
4. 社会条件		①地中障害物								
		②近接施工								
		③騒音、振動								
		④水質汚濁								
		⑤作業用道路・ヤード								
		⑥現道作業								
		⑦その他								
5. マネジメント特性		①他工区調整								
		②住民対応								
		③関係機関対応								
		④工程管理								
		⑤品質管理								
		⑥安全管理								
		⑦その他								
6. 特別考慮要因		-								
工事区分				大項目評価数		「易、やや難、難」評価			技術的難易度評価 (I~VI)	
				(A)		大項目評価数による判定				
				(B)		※工事特性による判定				
				(C)		最終評価				

※大項目の評価にA判定が1つあり、かつB判定が3個以下の場合にも、工事特性により、「難」と判定しても良い。

## 工事技術的難易度項目別評価表

大項目	評価	小項目	評価
1. 構造物条件		①形状	
		②その他	
2. 技術的特性		①工法等	
		②その他	
3. 自然条件		①湧水・地下水	
		②軟弱地盤	
		③作業用道路・ヤード	
		④気象・海象	
		⑤その他	
4. 社会条件		①地中障害物	
		②近接施工	
		③騒音、振動	
		④水質汚濁	
		⑤作業用道路・ヤード	
		⑥現道作業	
		⑦その他	
5. マネジメント特性		①他工区調整	
		②住民対応	
		③関係機関対応	
		④工程管理	
		⑤品質管理	
		⑥安全管理	
		⑦その他	
6. 特別考慮要因		—	
工事区分(建物性能分類)			
「易、やや難、難」の評価			
工事難易度評価(I～VI)			

**工事難易度評価の小項目別運用表  
評価事例集**

工事分類	構造物分類(構造形式・工法分類)	ページ
①河川・排水路		
	築堤工	..... P 16
	護岸工	..... P 16
	柵渠	..... P 17
	床止め・床固め	..... P 17
	堰・水門	..... P 17
	山岳トンネル工法	..... P 18
	シールド工法	..... P 18
	開削工法	..... P 19
	推進工法	..... P 19
	樋門・樋管	..... P 20
	伏せ越し	..... P 20
	揚排水機場	..... P 20
	河川浚渫	..... P 21
	維持管理	..... P 21
	自然条件・社会条件・マネジメント特性	..... P 22
②海岸		
	海岸堤防	..... P 28
	護岸	..... P 28
	突堤・離岸堤	..... P 28
	養浜	..... P 28
	海岸浚渫	..... P 28
	維持管理	..... P 28
③港湾		
	ブロック類製作	..... P 29
	浚渫 防波堤(ブロック) 岸壁 捨石 ケーソン製作	..... P 29
	防波堤(ケーソン式) 岸壁(杭式棧橋)	..... P 29
	沈埋トンネル	..... P 29
	自然条件・社会条件・マネジメント特性	..... P 30
④砂防・地滑り・治山		
	砂防ダム・堰堤	..... P 33
	流路工	..... P 33
	水抜きボーリング	..... P 33
	擁壁工	..... P 34
	集水井	..... P 34
	排水トンネル	..... P 34
	杭打工	..... P 34
	アンカー工	..... P 34
	維持管理	..... P 35
	自然条件・社会条件・マネジメント特性	..... P 36



工事分類	構造物分類(構造形式・工法分類)	ページ
⑤道路・農道・林道		
	山岳トンネル工法	***** P 40
	トンネルシールド工法	***** P 40
	トンネル開削工法	***** P 41
	トンネル沈理工法	***** P 41
	共同溝シールド工法	***** P 41
	共同溝開削工法	***** P 42
	共同溝推進工法	***** P 42
	橋梁上部RC橋	***** P 43
	橋梁上部PC橋	***** P 43
	橋梁上部鋼橋	***** P 44
	橋梁上部床版工(鋼橋)	***** P 44
	橋梁下部RC橋脚・橋台	***** P 45
	橋梁下部鋼製橋脚・橋台	***** P 45
	橋梁下部合成構造橋脚・橋台	***** P 46
	小規模橋脚	***** P 46
	セメントコンクリート舗装	***** P 46
	アスファルト舗装	***** P 47
	切土工	***** P 47
	盛土工	***** P 47
	斜面安定・法面工	***** P 48
	カルバート工	***** P 48
	擁壁工	***** P 48
	維持管理	***** P 49
	ブロック舗装	***** P 49
	排水工	***** P 49
	電線共同溝・CAB	***** P 49
	情報BOX	***** P 50
	シェッド	***** P 50
	自然条件・社会条件・マネジメント特性	***** P 51
⑥ほ場整備・農地造成		
	区画整理	***** P 58
	暗渠排水	***** P 58
	客土	***** P 58
	改良山成	***** P 58
	階段畑	***** P 59
	土壌処理等	***** P 59
	自然条件・社会条件・マネジメント特性	***** P 60

工事分類	構造物分類(構造形式・工法分類)	ページ
⑦水路工・畑かん施設		
	開水路	..... P 61
	暗渠工(函渠工)	..... P 61
	管水路RC管、VP管	..... P 61
	管水路DCIP管、FRPM管、SP管	..... P 62
	管水路コルゲート管	..... P 62
	サイフォン工	..... P 62
	水路橋大規模RC構造	..... P 62
	水路橋大規模PC構造	..... P 63
	水路橋小規模	..... P 63
	水管橋大規模	..... P 64
	水管橋小規模	..... P 64
	揚水機場(加圧)	..... P 64
	末端パイプライン	..... P 64
	散水施設	..... P 65
	調整水槽PCタンク	..... P 65
	調整水槽RCタンク	..... P 65
	自然条件・社会条件・マネジメント特性	..... P 66
⑧ため池		
	谷池	..... P 70
	皿池	..... P 70
	盛土(築堤)	..... P 70
	取水施設	..... P 70
	洪水吐	..... P 70
	土浚渫	..... P 71
	自然条件・社会条件・マネジメント特性	..... P 72
⑨建築工事		
	建築(倉庫、車庫等)	..... P 75
	建築(庁舎、研修施設)	..... P 75
	建築(美術館、研究施設等)	..... P 76
	自然条件・社会条件・マネジメント特性	..... P 77
⑩建築(設備)工事		
	電気(倉庫、車庫等)	..... P 78
	電気(庁舎、研修施設)	..... P 78
	電気(美術館、研究施設等)	..... P 79
	設備システム複合条件・社会条件・マネジメント特性	..... P 80
	機械(倉庫、車庫等)	..... P 81
	機械(庁舎、研修施設)	..... P 81
	機械(美術館、研究施設等)	..... P 82
	設備システム複合条件・社会条件・マネジメント特性	..... P 83

工事分類	構造物分類(構造形式・工法分類)	ページ
⑪施設機械		
	水路用ゲート	..... P 84
	堰ゲート	..... P 84
	ゴム引布製起伏ゲート	..... P 84
	ダム放流ゲート	..... P 85
	ダム取水ゲート	..... P 85
	ポンプ設備	..... P 85
	除塵設備	..... P 86
	設備設置条件・社会条件・マネジメント特性	..... P 87
⑫電気・通信・受変電設備		
	電気設備(河川本川・堤防)	..... P 88
	電気設備(樋門・樋管、用排水機、堰)	..... P 88
	電気設備(海岸一般)	..... P 88
	電気設備(砂防一般)	..... P 88
	電気設備(堤体本体)	..... P 88
	電気設備(ダム周辺)	..... P 88
	電気設備(道路付帯施設)	..... P 88
	電気設備(トンネル)	..... P 88
	電気設備(橋梁、共同溝)	..... P 88
	通信設備(河川本川・堤防)	..... P 89
	通信設備(樋門・樋管、用排水機、堰)	..... P 89
	通信設備(海岸一般)	..... P 89
	通信設備(砂防一般)	..... P 89
	通信設備(堤体本体)	..... P 89
	通信設備(ダム周辺)	..... P 89
	通信設備(道路付帯施設)	..... P 89
	通信設備(トンネル)	..... P 89
	通信設備(橋梁、共同溝)	..... P 89
	受変電設備(河川本川・堤防)	..... P 90
	受変電設備(樋門・樋管、用排水機、堰)	..... P 90
	受変電設備(海岸一般)	..... P 90
	受変電設備(砂防一般)	..... P 90
	受変電設備(堤体本体)	..... P 90
	受変電設備(ダム周辺)	..... P 90
	受変電設備(道路付帯施設)	..... P 90
	受変電設備(トンネル)	..... P 90
	受変電設備(橋梁、共同溝)	..... P 90
	設備設置条件・社会条件・マネジメント特性	..... P 91

工事分類	構造物分類(構造形式・工法分類)	ページ
⑬ダム		
	重力式ダム	..... P 92
	アーチ式ダム	..... P 92
	ロックフィルダム	..... P 92
	アースダム	..... P 93
	表面遮水壁フィルダム	..... P 93
	複合ダム	..... P 93
	維持管理	..... P 93
	自然条件・社会条件・マネジメント特性	..... P 94
⑭公園		
	基盤整備	..... P 98
	植栽	..... P 98
	施設整備	..... P 98
	グラウンド整備	..... P 98
	自然育成	..... P 98
	維持管理	..... P 98
	自然条件・社会条件・マネジメント特性	..... P 99

河川・排水路1

築堤工

項目	評価	事例
<b>1. 構造物条件</b>		
①規模	A	築堤平均高さ 10m以上
	A	築堤土量 30,000m <sup>3</sup> 以上
	B	築堤平均高さ 5m以上
	B	築堤土量 10,000m <sup>3</sup> 以上又は延長 200m以上
②形状	B	築堤断面形状が複雑
	B	大型L型擁壁の構築
	B	法勾配が1:1.5以上
	B	築堤護岸、県道橋、県道と町道が混在
	B	アンダーパスの存在
③その他	B	既設構造物の補強
	B	既存の樋管、樋門等の撤去
<b>2. 技術的特性</b>		
①工法等	B	ばらつきが大きい盛立材料
	B	土質改良を伴った盛立材料
	B	火山灰質等の特殊な盛立材料
	B	自然石のブロック積
	B	GPS利用の転圧管理
	B	圧密促進工法(袋詰サンドレーン、グラベルレーン等)
	B	静的締固砂杭工法による地盤改良
	B	深層混合処理工法
	B	中詰土と被覆土からなる二重構造の築堤
	B	地盤改良長 20m以上
	B	水上施工による浮島、沈み島
	B	パイロット事業等(新技術)の実施
	B	厚層盛土工法
	②その他	B

護岸工

項目	評価	事例
<b>1. 構造物条件</b>		
①規模	A	護岸平均高さ 10m以上
	A	護岸面積 10,000m <sup>2</sup> 以上
	A	盛土工 30,000m <sup>3</sup> 以上
	B	護岸平均高さ 5m以上
	B	護岸面積 3,000m <sup>2</sup> 以上又は延長 200m以上
	B	盛土工 10,000m <sup>3</sup> 以上
	B	矢板長 20m以上
②形状	A	線形R=20m以下
	B	締切りを伴う低水護岸
	B	大型連結ブロック張で複断面での施工
	B	多自然護岸として不規則な形状創出
	B	施工箇所が本支川の合流部
	B	舟上げ斜路、舟付場、既設構造物との取付け複雑
③その他	B	牛枠、木工沈床等の伝統工法を採用
	B	既設構造物の補強
<b>2. 技術的特性</b>		
①工法等	A	台船等による水上施工
	B	耐震対策工法
	B	岩掘削に静的破碎剤を使用
	B	2つの支川の排水を確保しながらの施工
	B	パイロット事業等(新技術)の実施
②その他	B	間伐材を利用しての工事で工法提案
	B	床止めの構造につき提案
	B	基礎処理(止水グラウト)に関し工法提案
	B	環境を考慮した低水護岸

### 河川・排水路1

#### 柵渠

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	B	内空断面積 9m <sup>2</sup> 以上かつ延長 500m以上
②形状	B	線形の曲線比率が 30%以上
	B	落差工の段数、箇所が多く形状複雑
	B	既設構造物の補強
2. 技術的特性		
①工法等	B	地盤改良工に高度、特殊技術で対応
	B	パイロット事業等(新技術)の実施

#### 床止め・床固め

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	A	計画高水量 500m <sup>3</sup> /s以上
	B	計画高水量 200m <sup>3</sup> /s以上
②形状	B	本体が階段式である
	B	本体が緩傾斜である
	B	本体が石積である
③その他	B	既設構造物の補強
2. 技術的特性		
①工法等	B	半川締め切りによる仮設工
	B	パイロット事業等(新技術)の実施
②その他	B	水替工法の提案
	B	スランプ5cmのコンクリートのポンプ打設施工

#### 堰・水門

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	A	現河川に3門以上設ける
	A	ゲート高さ 10m以上
	B	ゲート高さ 5m以上
②形状	B	魚道の設置
③その他	B	既設構造物の補強
	B	水中施工が伴うもの
2. 技術的特性		
①工法等	B	河川の切り回しが3回程度以上
	B	堰本体のブロック施工での二重締め切り仮設
	B	マスコンで夏場での施工
	B	パイロット事業等(新技術)の実施

河川・排水路1

山岳トンネル工法

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	A	内空平均面積 100m <sup>2</sup> 以上
	A	片押し掘削延長 3,000m以上
	B	内空平均面積 80m <sup>2</sup> 以上
②形状	A	土被りが1D程度以下
	A	超扁平大断面掘削
	A	在来トンネルに近接施工し、眼鏡トンネルを施工
	B	斜杭
	B	立杭
③その他	B	R=70m程度の曲線施工
	A	海底又は河底
	B	既設トンネル覆工コンクリート裏面空洞対策工
2. 技術的特性		
①工法等	A	断層破砕帯で大量の湧水が発生し、対策が困難
	A	高い地熱、温泉、有毒ガス等がある地山で対策が困難
	A	膨張性が著しい地山で変状対策が困難
	B	小段層劣化帯の掘進にあたりFIT工法を採択
	B	地山を先行補強する長尺鋼管フォアライニング工法、パイルーフ工法
	B	市街地等で火薬掘削ができなく、フロッターヘッド使用も制限
	B	活線拡幅工
	B	出水対策工の施工
	B	側壁導杭、底設導杭の施工
	B	パイロット事業等(新技術)の実施
②その他	B	ファイバーコンクリートによる鉄筋の省略、工期短縮

シールド工法

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	A	φ8m以上
	B	φ4m以上、φ2.5m未満
②形状	A	土被りが1D程度以下
	A	最大勾配 20%程度以上
	B	縦断勾配 5%程度以上
	B	トンネル平面曲率半径 R/D ≤ 1.3
	B	眼鏡型、3型、矩形、拡幅等、変形断面の掘削
③その他	B	親子シールドによる掘削
	B	地中障害物対応型シールド掘削
2. 技術的特性		
①工法等	A	地中接合
	A	既設トンネルの拡幅(拡大)工法の提案
	B	地中拡幅
	B	長距離シールド施工 2,000m程度以上
	B	中折れシールド機によるカーブ施工
	B	パイロット事業等(新技術)の実施
②その他	B	セグメント運搬に自動搬送車を提案
	B	流動化材による埋め戻しの提案

河川・排水路1

開削工法

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	A	開削深さ(基礎面から地表までの平均高さ) 30m以上
	B	開削深さ(基礎面から地表までの平均高さ) 20m以上
②形状	A	円形立杭に角度をもって到達するシールド通過部の箱抜
	A	地下街及び地下駐車場
	B	線形 R=500m
	B	U型擁壁一部張出構造
	B	特殊断面部を有する
	B	分岐部施工のため複雑な構造
③その他	B	既設埋設部の試掘調査後、詳細設計作成
2. 技術的特性		
①工法等	A	既存構造物の動態観測しながらの大規模開削
	B	ディブウェル工法の適用
	B	パイロット事業等(新技術)の実施
	B	仮設(ソイルセメント壁、アンカー山留、泥水固化壁、逆巻工法、中間支持杭)
	B	円形立杭の確保の為、連壁を20角形で水平多軸機にて施工
	B	横断用水路を吊防護して躯体工施工
	B	ダウンサホルハンマー工法等を併用した矢板施工
	B	逆巻工法の採用
	B	切梁施工で残置が必要な躯体工施工
②その他	B	矧足配管によるコンクリート打設方法の提案

推進工法

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	B	スパン長(対口式元押し推進工法 40m)程度以上
	B	スパン長(中押し推進 400m)程度以上
	B	スパン長(密閉型推進 600m)程度以上
	B	小口径推進工法である(管口径700mm程度以下)
③その他	B	転石等の障害物の存在
	B	既設埋設管等の存在
2. 技術的特性		
①工法等	B	カーブ推進(方向制御、姿勢制御)
	B	硬質塩化ビニール管等、新材料の採用
	B	施工困難な地盤条件(滞水性、崩壊性)に対応する工法
	B	施工困難な地盤条件(砂礫地盤、岩盤等)に対応する工法
	B	長距離推進工法
	B	パイロット事業等(新技術)の実施
②その他	B	地中障害物対策に関する技術提案
	B	残土処理に関する技術提案



河川・排水路1

樋門・樋管

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	A	掘削深さが10m以上
	B	掘削深さが5m以上
	B	内空断面積10m <sup>2</sup> 以上
	B	管体の長さ30m以上
②形状	A	3連以上
	B	継ぎ手を有する樋管
	B	断面形状の複雑なコンクリート構造物
	B	自動制御に係る各種センサーの配置及び連結
	B	樋門の落差工の段数が数多く形状複雑
	B	魚道等の構造複雑
③その他	B	現堤防の開削
	B	旧樋管の基礎杭引き抜き撤去
	B	高耐圧ポリエチレン樹脂樋管
	B	柔構造樋管
	B	複数の既設樋管の部分改築
	B	仮水路の段取替に工事の制約
	B	既設構造物の取付補強
2. 技術的特性		
①工法等	B	地盤改良工に高度、特殊技術で対応
	B	地盤改良深度20m以上
	B	管体に特殊材料使用(遮蔽袋付ダクトイル鑄鉄管)
	B	管体に特殊材料使用(高耐圧ポリエチレン管等)
	B	内側に鋼板を巻き立てて函体補強
	B	鋼管基礎杭(30m以上の杭施工)実施
	B	パイロット事業等(新技術)の実施
②その他	B	樋管の自動制御に関し新技術の提案
	B	柔構造樋管であり動態観測に配慮した施工提案

伏せ越し

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	A	掘削深さが10m以上
	B	掘削深さが5m以上
	B	口径2,000mm以上
②形状	B	逆サイホン構造
③その他	B	河川の掘削
2. 技術的特性		
①工法等	B	パイロット事業等(新技術)の実施

揚排水機場

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	B	ポンプ口径2,000mm程度以上
	B	排水機場複数設置
	B	管理運転ゲート工、吐出樋門工
	B	除塵機工、導水路工流入口
	B	排水ポンプ機械室等の設置、構造大規模
	B	
②形状	B	管理運転ゲート工、吐出樋門工
	B	除塵機工、導水路工流入口
	B	排水ポンプ機械室等の設置、構造複雑
2. 技術的特性		
①工法等	B	パイロット事業等(新技術)の実施
	B	基礎地盤の改良等
	B	30m以上の杭施工

## 河川・排水路1

### 河川浚渫

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規程	B	水深 5m以上
	B	浚渫量 20,000m <sup>3</sup> 以上
③その他	B	ヘドロ等の浚渫、仮置き、水切りの処理要
	B	橋梁下部工、護岸基礎根入れ、矢板護岸、異形ブロック周辺
2. 技術的特性		
①工法等	B	パイロット事業等(新技術)の実施
	B	中継ぎポンプ利用による長距離圧送(3km程度以上)
	B	浚渫ロボット
	B	浚渫土の分級、再利用
②その他	B	浚渫土のリサイクル技術提案
	B	排砂池の濁水処理施設を設置

### 維持管理

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規程	B	盛土量 5,000m <sup>3</sup> 以上
	B	除草面積 50万m <sup>2</sup> 以上
②形状	B	法勾配 1:1.5以上の急勾配法面での作業
③その他	B	既設モルタル吹付け等の補強と撤去吹替えの特殊条件
2. 技術的特性		
①工法等	B	施工場所と高水敷との高低差が大きく仮設関係困難
	B	既設モルタル吹付けの建全部を残し、SFモルタルの吹付けタイプを変更
	B	水理条件の制約
	B	河口堰貯水池に滞留したゴミの集積と陸揚げ作業に技術を要する
②その他	B	既設構造物(天然石ブロック)の再利用
	B	草刈、剪定クズ等の再利用に関する技術提案
	B	圧送距離が長い場合、スランブロス対策として混和剤の提案

## 河川・排水路2

項 目	評価	事 例
3. 自然条件		
①湧水・地下水	B	地下水位が高く掘削時の止水重要
	B	湧水あり。掘削時及び法面処理時対応
	B	水替工による周辺の地下水位低下により地盤沈下、井戸枯等の恐れあり
	B	湧水によりオープン工法を土留工法に変更
	B	湧水対策として止水工を実施
	B	地下水が高くウエルポイント施工
	B	湧水が多く作業に制約
	B	湧水発生し掘削、法留石積み作業に影響
	B	仮締切施行内における多量の浸透水の水替えが必要
	B	地下水位が高く床掘時の法面保護に苦慮
	B	地下水や湧水の影響で低水護岸の法留基礎工の床掘に支障
	B	掘削地盤が玉石混じり土砂のため伏流水が多い
	B	地形が川表の高水敷きある水路のため漏水有り
	B	感潮域の軟弱地盤で湧水処理の必要
②軟弱地盤	A	超軟弱地盤(有明粘土、ヘドロ等)
	B	支持層の変化が複雑で対応工法に工夫を要す
	B	不良箇所点在
	B	軟弱層20~25m
	B	厚い粘性土層である
	B	有明海特有の潟土での施工
	B	軟弱地盤上での盛土工事
	B	モニタリング施工、軟弱地盤上での盛土に際し、沈下観測しながらの施工
	B	転石層があり杭打ち施工が困難
	B	軟弱高水敷上での地盤改良
	B	固結工(薬液注入)実施
	B	堤脚水路の基礎が軟弱で置き換え施工実施
	B	不等沈下防止のため深層混合処理の実施
	B	軟弱支持層の地盤改良に困難
	B	作業基盤用の表層改良実施
	B	砂質土での法勾配確保に置換土処理実施
	B	ブロック据付箇所が軟弱のためトンネルずりを利用し置き換え施工
	B	築堤時すべり破壊に対応する軟弱地盤固化工法に高度な技術を要す
	B	施工箇所が圧密により地盤沈下を生じるため、プレロードを実施
③作業用道路・ヤード	B	河川内工事のため搬入路に制限多し(高水敷が狭い)
	B	河川内に工事用道路(仮橋)の必要性が生じた
	B	河川内の施工で作業スペースに制約
	B	河川内工事で堤防天端を一部交通規制
	B	急峻な地形条件のもとでの施工
	B	岩盤のため仮締切に制約有り、作業ヤード狭い
	B	一方向からしか作業が出来ない状況
	B	作業ヤードが狭く、大規模な仮設(構台工)が必要
	B	本堤と霞堤に挟まれた狭隘な場所で、支川の流水の処理も実施
	B	迂回路無し
	B	揚土仮置スペースが狭小
	B	水替及び地盤改良時のヤード狭小
	B	狭隘な堤防小段等での施工
	B	堤防天端の作業で狭い
	B	幅4.5mの高水敷きでの作業
	B	高水敷が狭く作業ヤードを十分確保できない状況
	B	道路と河川にはさまれた狭い施工ヤードの確保
	B	採取土運搬に軟弱高水敷を地盤改良して使用
	B	工事用道路、作業ヤードに地形的制約有り
	B	工事用地に限られておりヤード及び進入路とも厳しい条件
④気象・海象	A	緊急災害復旧工事であり、雨及び出水など条件の悪い中で実施
	B	冬期間における積雪、低温の状況下で施工を行う必要(積雪1m程度以上、気温-5℃程度以下)
	B	豪雨時の対応を適切に予測、対策
	B	出水期(梅雨)の工事であり、治水上安全でかつ流出しない仮設が必要
	B	出水期間の工事であり仮設等の一時撤去等の制約あり
	B	小雨でも出水し現場内が浸水の恐れ有り
	B	小雨でも出水により仮締切が決壊する可能性有り

## 河川・排水路2

項 目	評価	事 例	
④気象・海象	B	高水敷高までの仮締切のため中小洪水で越水の恐れ有り	
	B	天候及び河川水位状況を監視しながらの作業	
	B	多雨期のダム放流に伴う水位の上昇があるため、放流等の情報収集の徹底	
	B	出水により仮締切堤の流出	
	B	堤外水路の施行は小降雨でも水位上昇のため作業不能	
	B	数回の警戒水位を超える出水対応	
	B	頻繁な出水による冠水被害対応	
	B	出水期工事であり仮締切工で対応したが想定以上の出水による影響を受けた	
	B	堤外排水路及び低水護岸施工時に小降雨による影響大	
	B	梅雨時期をはさみ現場の保守管理に困難を要す	
	B	冬季の雪対策	
	B	融雪出水により本川水位が計画仮締切高を越えた	
	B	強風により河口閉塞を起こし水位上昇	
	B	強風のため施工中は場内での作業全般に注意を要した	
	B	感潮区間であり水中作業が困難	
	B	感潮区間のため潮待ち施工	
	B	感潮区間による仮締切り	
	B	潮間作業のため施工に困難を要す	
	B	河口部のため波浪への配置	
	B	海岸に面しているため波浪の影響を受けやすい	
	⑤その他	A	水位の急激な上昇への迅速な対応(洗掘防止対策)
		B	堤防開削を伴う工事、河川水位等自然条件に配慮しながら工事実施
		B	地滑り及び出水の影響がある
		B	施工区域の一部が下流ダムの貯水位の制約を受ける施工条件であった
		B	灌漑用に一つの堰のゲートを閉めているため水位が高く水中での作業困難
		B	水衝部となり出水に伴い瀬替
B		河川流の集中により仮締切設置が難	
B		河川流の集中により瀬替え	
B		流速が1m/s以上の急流	
B		活火山より噴石、降灰	
B		夜間施工	
B		天然記念物、貴重動植物への配慮	
B		堤防付近の桜の移植	
B	周辺に存在するカワセミの営巣地に配慮した施工		
B	ヨシ原等自然植物への配慮		
4. 社会条件			
①地中障害物	A	不発弾調査、処理の実施	
	B	不発弾の調査を実施	
	B	ガス管、NTT、水道、下水道の埋設物有り、移設に苦慮	
	B	水道、NTT管等が近くに埋設されておりそれを確認しながらの施工	
	B	上水道の移設を含む工事	
	B	河川横断施工で既設護岸に矢板が施工されておりその下を横断させる施工	
	B	立ち退きのガリスタンのタンク撤去	
	B	上水道シールドがあり止水矢板施工に留意	
	B	旧樋管の基礎の状況が不明であり開削後の確認となり早急な施工条件の変更対応	
	B	旧捨石のため矢板打設位置変更	
	B	旧護岸の捨石がありロックオーガーによる掘削	
	B	多量のコンクリート殻等あり	
	②近接施工	B	一部JR橋梁下で施工上規制の厳しい護岸施工
		B	JR鉄橋の直下の施工で重機の制限
		B	供用中道路との近接工事(地方主要道又は日交通量3万台程度以上)
B		供用中の道路肩付近での作業、事故及び飛石等注意	
B		施工箇所上空に高圧架線があり施工に影響を及ぼす	
B		住宅近接(人家密集)	
B		民家などの建築物連担地区での側溝工事	
B		病院に隣接した工事	
B		工事が輻輳し調整を要する他業者との近接施工	
B		近接して市営住宅工事を行っている	
B		橋梁の施工と隣接	
B		既設調圧水槽と樋管本体との連結	
B	工場の排水路があり障害		
B	近接して既に排水機場が完成している		

## 河川・排水路2

項 目	評価	事 例
②近接施工	B	迂回路の線形条件が厳しく施工ヤードの制約
	B	施工済みの樋門部分との近接施工困難
	B	浚渫作業における近接施工(橋梁下部、護岸基礎、異形ブロック周辺等)
③騒音、振動	A	着工前に事業損失調査及び騒音振動調査を実施し慎重に施工
	B	周辺住民への配慮から振動測定及び聞き取り調査等必要
	B	住民に対する騒音、振動の配慮
	B	マンション近接
	B	病院に隣接した工事で極力、騒音振動を出さないように配慮
	B	ホテル近接
	B	料理旅館に近接
	B	養鶏場有り
	B	周辺精密機械工場隣接
	B	住宅商業地の中で工事
	B	騒音振動対策のため特殊工法を採用の必要
	B	無騒音、無振動の地盤改良工法を採用
	B	低騒音、低振動機種での施工
	B	人家近接部であり矢板打設時に低振動機種を使用
	B	ポンプ浚渫船の騒音に対する配慮
	B	振動による工事時間制限有り
④水質汚濁	B	内水面漁協から濁水処理について注文あり
	B	外水面漁協から海苔への影響注文(濁水、コンクリートのあく対策)
	B	シラス漁時期であり濁水処理が困難
	B	ノリ及びシラス漁への配慮が必要
	B	工事区域はシジミの漁業
	B	アオリ漁場のため濁水防止フェンス設置
	B	河川内工事であり鮎等に対して配慮
	B	下流に浄水場があり濁水防止対策に配慮が必要
	B	施工区域周辺に多数井戸があるため事前及び事後調査を行った
	B	河床掘削による井戸枯れのため仮設上水道設置
	B	公共下水の水質基準を守るため水質管理を実施
	B	長良川の水質汚濁対策実施
	B	四万十川の支流に合流
	B	海水にシルトフェンス設置
B	浚渫及び盛土に関して濁水に配慮し特殊な濁水設備を実施	
B	絶滅危惧種の生息地であるため汚濁に注意	
⑤作業用道路・ヤード	B	生活道路を車両通行止めしての工事で資材搬入に際し車両制約
	B	生活道路を利用しての工事用資機材搬入
	B	通学路など生活道路の一時通行止
	B	一般交通を確保しながら築堤盛土を施工
	B	堤防天端は県道と兼用、交通量も多く工事施行に制約有り
	B	民地と出入り口供用
	B	現町道利用により条件として敷鉄板にて対応
	B	町道の切り直し道路
	B	幹線道路を遮断し進入路を確保対して配慮
	B	現道を利用して狭隘なヤード内での作業
	B	JR橋梁下で作業スペースの制約
	B	高圧線下の仮締切矢板作業あり
	B	水管橋が上空にあり
	B	橋梁下での工事で作業スペースの制約
	B	工事が輻輳し調整が要する他作業との近接施工
	B	他工区との共同作業スペースのため制約あり
	B	他工事と出入り口供用
	B	他工事区間の中での施工
	B	堤防天端でサイクルリングロードがあり、作業スペースが狭い
	B	堤防天端で散策者多く作業スペースが狭い
B	ルートがゴルフ場内を通過するため対策工及び協議が必要	
B	公園施設内のため工事区域内に一般の河川利用者等が多い	
B	高水敷の畑耕作への進入路の確保	
B	搬入路が無く工事用道路を借地に対応	
B	耕地(私有)を借地し拡幅及び仮橋等で対応	
B	船着場及び橋梁工事の工事用道路あり	
B	作業ヤードが狭く自主的に民地を借り上げた	

## 河川・排水路2

項 目	評価	事 例
⑤作業用道路・ヤード	B	交通量の多い堤防天端下での作業
	B	狭隘な堤防小段等での施工
	B	既設水門上での作業が多くスペースの制約
	B	浚渫線、排砂管の作業に対する、漁船、船舶との安全対策調整実施
	B	貯水池法面で周辺道路がなく湖面からの資材搬入
⑥現道作業	A	交通規制を伴う夜間作業
	B	兼用道路の切り替えを行いながらの施工
	B	定期バスの路線確保と一般交通の安全確保でのルート切替
	B	主要地方道が横断しており迂回路(2回切替)を設置して対応
	B	堤防天端が兼用道路となっているため迂回路を設定
	B	現道(府県)上で交通整理員を24時間配置しての片側交互通行規制での工事
	B	資材搬入に際し現道等の片側通行規制
	B	堤防道路上で交通規制して作業
	B	工事区域内に市道等があり、作業中は交通止め作業時以外は復旧し共用(日々)
	B	堤防天端が兼用道路で大型車の通行が多い
	B	堤防天端について公共道路供用
	⑦その他	A
A		泥水式シールド掘削土砂の2次処理土の再利用(従来は産業廃棄物として処理)
B		コンクリート等の殻の再利用
B		盛土部の防塵舗装廃棄材を処理
B		焼却灰の処理に配慮
B		工区内の雑木伐採の処理に苦慮
B		旧施設撤去構造物の大量発生と処理
B		伐採材の再利用
5. マネジメント特性		
①他工区調整	B	作業用道路が隣接工区と供用するため調整困難
	B	工事範囲が他工事の作業用道路となるため他工事と調整
	B	搬入路を複数工事で利用
	B	搬入土仮置きヤードが他工事と同一箇所。運搬台数の調整必要
	B	本工事の残土を他工事(築堤)に使用
	B	他工事から発生する建設発生を築堤材としているので工程調整必要
	B	配土先工事との工程調整あり
	B	分割施工であり、制約工程の中で瀬替え等、他工区との調整を求めた
	B	近接の他工事との工程調整困難
	B	災害復旧工事が錯綜しており、施工調整が難
	B	同一現場内で土木工事、機械設備工事、営繕工事等が輻輳するため高度な調整必要
	B	上下流の近接工事との工程調整が困難
	B	JR委託工事等との重複工事
	B	県施設等と一体構造物の隣接工事
②住民対応	A	困難な住民対応が予想されたが住民へのコミュニケーション対応が良く、工事遂行
	B	シジミ、鮎、ノリ漁等の操業区域であり、漁民、漁協との対応、調整
	B	地元漁民との対応(コンクリートによる水質汚染)
	B	漁業関係者の船着き場の調整
	B	水路施工に際し水田所有者等との協議
	B	隣地の耕作者への対応
	B	高水敷の畑耕作者との調整
	B	地元農業水利組合との取水設備等の協議
	B	森林組合等との調整
	B	振動対応として事前、随時にコミュニケーションをはかりつつ実施
	B	近隣住民に工程を事前、随時に説明
	B	休日施工など近隣住民に対し、その都度周知するなど特別な配慮
	B	多自然型護岸座談会を開催、委員による現地指導を受けながら施工
	B	焼却作業において煙害防止のため事前に住民と調整
	B	塵芥処理の時期について地域住民と調整
	B	宅地嵩上げについて地元対策
	B	地域住民との施工時間の調整
B	自主的に事業損失調査等を実施	
B	住宅近接、事業損失調査等	
B	隣接住民の工事反対運動に対する対応、調整	
B	騒音、振動、事業損失などの苦情対応	
B	近接家屋からの排水施設調整	
B	近隣住民から環境対策の徹底の要望に対し対応	

## 河川・排水路2

項 目	評価	事 例	
②住民対応	B	工事用車両の乗り入れ及び振動などの対応	
	B	通行規制を伴う為、チラシ作成、立看板を作成し道路利用者に周知	
	B	生活用道路との調整あり	
	B	スクールゾーンでの安全、通学路変更等の調整	
	B	市街地の施工区間あり、民家への進入路確保	
	B	堤外民地があり通路の確保などの制約	
	B	農耕者通行道の確保が必要	
	B	住宅内道路運搬路使用禁止の措置	
	B	学識経験者及び自然の会などの意見調整	
	B	会社施設(工場、事業所)との調整	
	B	水利組合等との調整	
	B	店舗関係者との調整	
	B	当該施工箇所がゴルフ場として利用されているためゴルフ場との調整	
	B	隣接の小学校、神社及び樹木の取扱い調整	
	B	病院隣接施工による配慮	
	B	用地買収等での住民対応が必要	
	B	借地等での住民対応が必要	
	B	不法工作物等への対応条件が厳しい	
	③関係機関対応	B	JR、JH、NTT、電力、ガス、上下水道、有線放送、国道、町道等の管理者との協議
		B	警察、公安委員会との調整
B		国立公園、国有林、民有保安林が絡む現場で、協議のため関係機関と対応	
B		環境庁(自然公園法)、文化庁(文化財保護法)との調整	
B		林野庁との調整	
B		森林管理署等との調整	
B		教育委員会との調整	
B		港湾協議あり	
B		自衛隊演習場内の工事のため協議	
B		消防署との協議	
④工程管理	B	契約当初より工期、工程条件が厳しい工事条件に対処	
	B	イベント会場等であり、イベント等の行程に合わせて施工を行う必要	
	B	外、内水面漁協からの制約を受け工程厳しい	
	B	鮎釣り解禁を控え、工程短縮の要請	
	B	7月末までの工期であるが田植期前までに概成	
	B	農業用水取水時期までに水路を完成する必要	
	B	上水、農用水の通水量の減少期間内での工事	
	B	借地による施工のため稲作期までに返還、早期完成	
	B	用地問題及び変更への対応	
	B	観光地であることから早期完成の要請	
	B	出水期までの早期完成	
	B	出水対応による工程管理	
	B	冬期間における施工のため工程管理上の制約	
	B	潮待ちが多く工程上の制約	
	B	緊急災害復旧工事における早期完成	
	B	工事搬入路である一般国道の災害及び交通止めによる工程影響	
	B	工法変更に伴う工程調整に困難を要した	
	B	増工、新規工種発生による工程変更が生じた	
	B	変更、一時中止で工程管理への影響に対応	
	B	想定外の地中障害物への工程管理苦慮	
	B	標準断面契約で工期に制約のあるなかつ対応	
	B	概略発注に伴う設計変更等、工程管理	
	B	地質調査、検討、測量、設計が工事に含まれており、工程管理上の制約	
	B	週休二日制モデル工事	
	B	先行工事の遅れにより工期の延期及び施工順序の見直しが必要	
	B	他工事(機械工事、電気工事、上屋建築工事、県発注改修工事等)との工程調整(他工事への影響大)	
	B	隣接工事との工程調整	
	B	点在している工区の工程調整	
	B	文化財発掘調査の為に日数を要し、工程管理対応	
	⑤品質管理	B	暑中及び寒中コンクリートの施工となる箇所があり養生、品質管理重要
B		施工試験、配合試験の実施による品質確保の検証	
B		品質管理法の工夫必要	
B		厚層盛土に対する密度管理	
B		RI機器による土密度管理	

## 河川・排水路2

項 目	評価	事 例
⑤品質管理	B	採取土の採取場所が複数有り、土質の変更が伴うため品質管理が煩雑
	B	地盤改良材の品質管理
	B	軽量盛土、テールアルメ等に厳しい品質の要求
⑥安全管理	B	高さ30mの法面で命綱による危険作業
	B	切土高が高く地山の崩壊などの安全管理
	B	除草、集草作業における法面での危険作業
	B	狭所作業における重機挟まれに対する安全管理
	B	緊急災害復旧工事での安全管理
	B	交通量が多い夜間作業
	B	潜水作業を伴う根固ブロック等の据付
	B	最終仕上げ面が水面下のため潜水作業
	B	降雨の中での工事、作業に対して安全管理が特に必要
	B	崩壊箇所のため、法面の挙動観察等厳しい管理が必要
	B	一部県道等を堤防で締切、付替のため一般交通車両の安全に注意
	B	サイクリングロードの片側通行及び日々復旧
	B	現道切り直し施工
	B	堤防道路上での交通規制を伴う作業
	B	複数の他工区が隣接しているため安全協議会を作り事故防止
	B	有害特定化学物質の除去作業における安全対策、特別産業廃棄物に準じた安全対策
	⑦その他	A
B		災害応急復旧工事
B		集中豪雨の復旧工事に迅速に対応
B		台風後の応急的工事
B		施工内容、ICカード試験フィールド
B		リサイクルモデル工事の一般公開工事
B		建設CALSへの取り組み
B		地元住民の多自然型護岸に対する理解を深めるため「護岸作り(植樹)」イベントを開催
B	見学者対応に積極的に協力	



## 海岸1

### 海岸堤防

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	B	波返工 L=200m程度以上
②形状	B	波返工が既設水門部を除き上流部、下流部に分断
③その他	B	水位観測所の撤去、新設
2. 技術的特性		
①工法等	A	作業船を使い施工
	B	パイロット事業等(新技術)の実施
②その他	B	水位観測所新設において湧き水が多い為、仮設物の構造、工法の提案

### 護岸

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	B	延長 200m程度以上
	B	10ton以上の消波ブロックの設置
②形状	B	線形R=20mの曲線護岸
2. 技術的特性		
①工法等	B	消波ブロック積に特殊技術
	B	パイロット事業等(新技術)の実施

### 突堤・離岸堤

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	B	長さ 50m以上
②形状	B	ブロック+ケーソン構造
	B	マウンドが捨て石等
③その他	B	ブロック堤補強で、大掛かりな取り外し、積み直しの実施
2. 技術的特性		
①工法等	B	海上作業で大型船必要
	B	パイロット事業等(新技術)の実施
②その他	B	大水深条件での施工技術提案

### 養浜

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	B	30,000m <sup>3</sup> 以上
2. 技術的特性		
	B	パイロット事業等(新技術)の実施

### 海岸浚渫

項目	評価	事例
2. 技術的特性		
①工法等	B	パイロット事業等(新技術)の実施

### 維持管理

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
③その他	B	緊急性があるもの
2. 技術的特性		
	B	パイロット事業等(新技術)の実施

## 海岸1

### ブロック類製作

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	B	延長 200m程度以上
	B	10ton以上の消波ブロックの設置
②形状	B	線形R=20mの曲線護岸
2. 技術的特性		
①工法等	B	消波ブロック積に特殊技術
	B	パイロット事業等(新技術)の実施

### 浚渫 防波堤(ブロック) 岸壁 捨石 ケーソン製作

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	B	波返工L=200m程度以上
②形状	B	波返工が既設水門部を除き上流部、下流部に分断
③その他	B	水位観測所の撤去、新設
2. 技術的特性		
①工法等	A	作業船を使い施工
	B	パイロット事業等(新技術)の実施
②その他	B	水位観測所新設において湧き水が多い為、仮設物の構造、工法の提案

### 防波堤(ケーソン式) 岸壁(杭式棧橋)

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	B	長さ 50m以上
②形状	B	ブロック+ケーソン構造
	B	マウンドが捨て石等
③その他	B	ブロック堤補強で、大掛かりな取り外し、積み直しの実施
2. 技術的特性		
①工法等	B	海上作業で大型船必要
	B	パイロット事業等(新技術)の実施
②その他	B	大水深条件での施工技術提案

### 沈埋トンネル

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	B	長さ 50m以上
②形状	B	ブロック+ケーソン構造
	B	マウンドが捨て石等
③その他	B	ブロック堤補強で、大掛かりな取り外し、積み直しの実施
2. 技術的特性		
①工法等	B	海上作業で大型船必要
	B	パイロット事業等(新技術)の実施
②その他	B	大水深条件での施工技術提案

## 海岸2

項目	評価	事例	
3. 自然条件			
①湧水・地下水	B	地下水水位が計画より高く、湧き水が多かったため、掘削、水位観測所の施工困難	
	B	地下水が高く排水設備を設けて作業した	
③作業用道路・ヤード	B	波返工、水位観測所同時施工のためヤードが狭い。前面に漁民の船付場有り制約大	
	B	海岸線でありヤード狭小	
	B	車道片側通行規制で、作業スペースに制約	
④気象・海象	B	波浪の影響	
	B	出水及び潮の干満により影響有り	
	B	強風での作業	
	B	碎波帯部の施行	
	B	波浪及び河川からの濁水流入により施工日の制約有り	
	B	波高制限による作業制約、毎日の波高観測及び予測作業発生	
	B	ブロック、マット据付部における風、波浪、濁りに影響された	
	B	風速、波高、視程等影響あり	
⑤その他	B	防潮林と隣接	
	B	活火山より噴石、降灰	
	B	夜間施工	
	B	天然記念物、貴重動植物への配慮	
4. 社会条件			
①地中障害物	A	不発弾調査、処理の実施	
	B	市道部にガス管、水道等埋設物多い	
	B	構造物施工箇所止水矢板あり	
	B	送水管の土被りが少ないため補強して土砂運搬を行った	
	B	旧捨石のため矢板打設位置変更	
	B	旧護岸の捨石がありロックオーガーによる掘削	
	B	コンクリート殻等あり	
	B		
②近接施工	B	JR近接施工	
	B	一部JR橋梁下で施工上規制の厳しい護岸施工	
	B	JR鉄橋の直下の施工で重機の制限	
	B	供用中道路との近接工事	
	B	施工箇所上空に電力架線があり注意を要す	
	B	住宅近接(人家密集)	
	B	民家などの建築物連担地区での側溝工事	
	B	病院に隣接した工事	
	B	工事が輻輳し調整を要する他業者との近接施工	
	B	近接して市営住宅工事を行っている	
	B	橋梁の施工と隣接	
	B	工場の排水路があり障害	
③騒音、振動	B	迂回路の線形条件が厳しく、施工ヤードの制約	
	B	周辺住民への配慮から振動測定及び聞き取り調査等必要	
	B	住民に対する騒音、振動の配慮	
	B	マンション近接	
	B	病院に隣接した工事で、極力騒音振動を出さないように配慮	
	B	ホテル近接	
	B	料理旅館に近接	
	B	養鶏場有り	
	B	周辺精密機械工場隣接	
	B	工場エリア脇に自動車修理工場、食堂あり	
	B	住宅商業地の中での工事	
	B	騒音振動対策のため特殊工法を採用の必要	
	B	無騒音、無振動の地盤改良工法を採用	
	B	人家近接部であり矢板打設時に低振動機種を使用	
	B	ポンプ浚渫船の騒音に対する配慮	
	B	振動による工事時間制限有り	
	④水質汚濁	B	外水面漁協から海苔への影響注文(濁水、コンクリートのあく対策)
		B	シラス漁時期であり濁水処理が困難
B		ノリ及びシラス漁への配慮が必要	
B		工事区域はシジミの漁業	
B		アオノリ漁場のため濁水防止フェンス設置	
B		海水にシルトフェンス設置	
⑤作業用道路・ヤード	B	浚渫及び盛土に関して、濁水に配慮	
	B	生活道路を車両通行止めしての工事で資材搬入に際し車両制約	
	B	生活道路を利用しての工事用資機材搬入	

## 海岸2

項目	評価	事例	
⑤作業用道路・ヤード	B	通学路など生活道路の一時通行止	
	B	一般交通を確保しながら築堤盛土を施工	
	B	堤防天端は県道と兼用、交通量も多く工事施行に制約有り	
	B	民地と出入り口供用	
	B	現町道利用により条件として敷鉄板にて対応	
	B	町道の切り直し道路	
	B	幹線道路を遮断し進入路を確保	
	B	現道を利用して狭隘なヤード内での作業	
	B	他工区との共同作業スペースのため制約あり	
	B	他工事と出入り口供用	
	B	他工事区間の中での施工	
	B	搬入路が無く工事用道路を借地で対応	
	B	作業ヤードが狭く自主的に民地を借り上げた	
	⑥現道作業	A	交通規制を伴う夜間作業
		B	兼用道路の切り替えを行いながらの施工
		B	現道上で交通整理員を24時間配置しての片側交互通行規制での工事
B		資材搬入に際し国道の片側通行規制	
B		堤防道路上で交通規制して作業	
B		工事区域内に市道があり、作業中は交通止め、作業時以外は復旧し共用(日々)	
B		現道(兼用道路)を交通止しての資材搬入	
⑦その他	B	コンクリート等の殻の再利用	
	B	焼却灰の処理に配慮	
	B	旧施設撤去構造物の大量発生と処理	
5. マネジメント特性			
①他工区調整	B	作業用道路が隣接工区と供用するため調整困難	
	B	工事範囲が他工事の作業用道路となるため他工事と調整	
	B	搬入路を複数工事で利用	
	B	搬入土仮置きヤードが他工事と同一箇所。運搬台数の調整必要	
	B	本工事の残土を他工事(築堤)に使用	
	B	他工事から発生する建設発生を築堤材としているので工程調整必要	
	B	配土先工事との工程調整あり	
	B	分割施工であり、制約工程の中で瀬替え等、他工区との調整を求めた	
	B	自治体工事との工程調整困難	
	B	災害復旧工事が錯綜しており、施工調整が難	
	B	同一現場内で土木工事、機械設備工事、営繕工事等が輻輳するため高度な調整必要	
	B	近接工事との工程調整が困難	
	B	JR委託工事等との重複工事	
B	県施設等と一体構造物の隣接工事		
②住民対応	A	困難な住民対応が予想されたが住民へのコミュニケーション対応が良く、工事遂行	
	B	シジミ、鮎、ノリ漁等の操業区域であり、漁民、漁協との対応、調整	
	B	地元漁民との対応(コンクリートによる水質汚染)	
	B	漁業関係者の船着き場の調整	
	B	振動対応として事前、随時にコミュニケーションをはかりつつ実施	
	B	近隣住民に工程を事前、随意に説明	
	B	休日施工など近隣住民に対し、その都度周知するなど特別な配慮	
	B	多自然型護岸座談会を開催、委員による現地指導を受けながら施工	
	B	焼却作業において煙害防止のため事前に住民と調整	
	B	塵芥処理の時期について地域住民と調整	
	B	地域住民との施工時間の調整	
	B	自主的に家屋調査を実施	
	B	住宅近接、事業損失調査等	
	B	隣接住民の工事反対運動に対する対応、調整	
	B	騒音、振動、事業損失などの苦情対応	
	B	近接家屋からの排水施設調整	
	B	近隣住民から環境対策の徹底の要望に対処	
	B	工事用車両の乗り入れ及び振動などの対応	
	B	通行規制を伴う為、チラシ作成、立看板を作成し道路利用者に周知	
	B	生活用道路との調整あり	
B	スクールゾーンでの安全、通学路変更等の調整		
B	市街地の施工区間あり、民家への進入路確保		
B	堤外民地があり通路の確保などの制約		
B	農耕者通行道の確保が必要		
B	住宅内道路運搬路使用禁止の措置		

## 海岸2

項目	評価	事例
②住民対応	B	学識経験者及び自然の会などの意見調整
	B	会社施設(工場、事業所)との調整
	B	水利組合等との調整
	B	店舗関係者との調整
	B	当該施工箇所がゴルフ場として利用されているためゴルフ場との調整
	B	隣接の小学校、神社及び樹木の取扱い調整
	B	病院隣接施工による配慮
	B	用地買収等での住民対応が必要
	B	借地等での住民対応が必要
	B	不法工作物等への対応条件が厳しい
③関係機関対応	B	JR、JH、NTT、電力、ガス、上下水道、有線放送、国道、町道等の管理者との協議
	B	国立公園、国有林、民有保安林が絡む現場で、協議のため関係機関と対応
	B	環境庁(自然公園法)、文化庁(文化財保護法)との調整
	B	港湾協議あり
④工程管理	B	契約当初より工期、工程条件が厳しい工事条件に対し対応
	B	外、内水面漁協からの制約を受け工程厳しい
	B	波浪、潮待ちによる工程への影響
	B	冬期間における施工のため工程管理上の制約
	B	緊急災害復旧工事における早期完成
	B	工事搬入路である一般国道の災害及び交通止めによる工程影響
	B	工法変更に伴う工程調整に困難を要した
	B	増工、新規工種発生による工程変更が生じた
	B	変更、一時中止で工程管理への影響に対応
	B	想定外の地中障害物への対応により工程管理苦慮
	B	標準断面契約で工期に制約のあるなか対応
	B	概略発注に伴う設計変更等、工程管理
	B	地質調査、検討、測量、設計が工事に含まれており、工程管理上の制約
	B	週休二日制モデル工事
	B	先行工事の遅れにより工期の延期及び施工順序の見直しが必要
	B	隣接工事との工程調整
	B	文化財発掘調査の為に日数を要し、工程管理対応
⑤品質管理	B	暑中及び寒中コンクリートの施工となる箇所があり養生、品質管理重要
	B	施工試験、配合試験の実施による品質確保の検証
	B	品質管理法の工夫必要
⑥安全管理	B	乱積であるが、厚積並の管理で施工する必要
	B	潜水作業等の危険作業
	B	潜水作業に伴い水深が浅いので波の影響を受けやすく安全管理が大変
	B	海上及び水中施工の為、安全管理重要
	B	降雨の中での工事、作業に対して安全管理が特に必要
	B	崩壊箇所のため、法面の挙動観察等厳しい管理が必要
	B	一部県道を堤防で締切、付替のため一般交通車両の安全に注意
	B	工事用道路での交通規制を伴う作業
	B	海水浴、第三者船舶との危険防止
	B	3工区が隣接しているため安全協議会を作り事故防止
	B	有害特定化学物質の除去作業における安全対策、特別産業廃棄物に準じた安全対策
⑦その他	A	災害、事故緊急復旧工事24時間体制
	B	災害応急復旧工事
	B	集中豪雨の復旧工事に迅速に対応
	B	台風後の応急的工事
	B	施工内容、ICカード試験フィールド
	B	リサイクルモデル工事の一般公開工事
B	建設CALSへの取り組み	
B	見学者対応に積極的に協力	

砂防・地滑り・治山 1

砂防ダム・堰堤

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	A	ダム高 15m以上
	B	ダム高 10m以上
	B	工事用道路 L=300m以上
②形状	A	特に複雑な複合施工(軽量盛土工+擁壁工+ブロック積工+水路工)
	A	特に複雑な複合施工(コンクリート+垂直壁+流木止+法面对策)
	A	特に複雑な複合施工(コンクリート+山留擁壁+鋼製ダム+水路)
	A	特に複雑な複合施工(コンクリート+側壁+橋梁+アンカー+法枠)
	A	重力式でダム軸がアーチ・アーチ式コンクリートダム
	B	複雑な複合施工(コンクリート+工事用道路、コンクリート+側壁+法枠)
	B	複雑な複合施工(コンクリート+側壁+アンカー+法枠)
	B	複雑な複合施工(コンクリート+取付護岸+水叩、コンクリート+側壁+護岸工)
③その他	B	鋼製流木止有り・鋼製ダム・スリット式ダム
	B	国立公園内の工事で植生復元可能な補強土壁を施工
2. 技術的特性		
①工法等	A	無人化施工技術
	A	特殊な基礎処理が必要な場合
	B	パイロット事業等(新技術)の実施
	B	ケーブルクレーン使用
	B	自然石(現場発生)利用の転石張工の護岸工
	B	改良鋼矢板ダブルウォール形式
	B	カーテン、コンクリートグラウトの施工
②その他	B	擬岩パネル及び転石積併用

流路工

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	A	計画高水流量 500m <sup>3</sup> /s以上
	A	表面排水路 L=200m程度以上
	A	最大勾配 50%程度以上
	B	計画高水流量 200m <sup>3</sup> /s以上
	B	表面排水路 L=100m程度以上
	B	急勾配
	B	半川締切
	B	護岸高 H=5m程度以上
	B	大型ブロック積み(H=5m程度以上)
	B	大規模な魚道設置
②形状	A	曲率 R=20m程度以下
	B	複合施工(水路+落差工+排水ホーリング)
	B	複合施工(コンクリート+アンカー+吹付法枠)
	B	複合施工(水路+落差工)
	B	転石積護岸により不規則な形状を創出
	B	曲線部の施工有り
	B	本体が階段式
2. 技術的特性		
①工法等	B	パイロット事業等(新技術)の実施
	B	自然石の使用
②その他	B	魚道工の構造について提案

水抜きボーリング

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	B	幅 30m以上かつ長さ 100m以上
②形状	B	複合施工(集水井+ホーリング)
2. 技術的特性		
	B	パイロット事業等(新技術)の実施

### 砂防・地滑り・治山 1

#### 擁壁工

項目	評価	事 例
1. 構造物条件		
①規模	A	擁壁高さ 8m以上
	B	擁壁高さ 6m以上
②形状	A	線形 R=20m程度以下
	B	不規則な形状(線形、高さ等)
③その他	B	既設構造物の補強
2. 技術的特性		
①工法等	B	ケーブルクレーンの採用
	B	パイロット事業等(新技術)の実施

#### 集水井

項目	評価	事 例
1. 構造物条件		
①規模	B	集水井深さ 20m以上
②形状	B	複合施工(集水井+ポーリング)
2. 技術的特性		
①工法等	B	パイロット事業等(新技術)の実施

#### 排水トンネル

項目	評価	事 例
1. 構造物条件		
①規模	A	施工延長 800m以上
	B	施工延長 600m以上
②形状	A	土被りが1D程度以下
	B	R=70m程度の曲線施工
2. 技術的特性		
①工法等	B	パイロット事業等(新技術)の実施

#### 杭打工

項目	評価	事 例
1. 構造物条件		
①規模	A	杭長さが 30m以上で 30本以上
	A	深礎工の設置(径 6m以上かつ深さ 20m以上)
	B	杭長さが 20m以上で 20本以上
	B	深礎工の設置(A以外)
2. 技術的特性		
①工法等	A	杭壁土留を逆巻工法で施工、杭の偏心量を 150mm以下に管理
	B	深礎工の採用
	B	パイロット事業等(新技術)の実施

#### アンカー工

項目	評価	事 例
1. 構造物条件		
①規模	A	アンカー長さが 30m以上で 30本以上
	B	アンカー長さが 20m以上で 15本以上
2. 技術的特性		
①工法等	B	パイロット事業等(新技術)の実施

## 砂防・地滑り・治山 1

維持管理

項 目	評 価	事 例
1. 構造物条件		
③その他	B	緊急性があるもの
2. 技術的特性		
①工法等	A	既設構造物基礎部に間詰めコンクリートを施工する必要があるもの
	B	パイロット事業等(新技術)の実施



## 砂防・地滑り・治山2

項 目	評価	事 例
<b>3. 自然条件</b>		
①湧水・地下水	A	河床より約40m以深まで掘削するために、止水対策必要
	B	掘削による湧水多量
	B	過去の土石流堆積地で湧水多い
	B	掘削時の湧水及び温泉源への配慮必要
	B	床掘掘削面の地層変化点からの湧水に苦慮
	B	床掘時の湧水量が多く、コンクリート打設完了まで常時ポンプ排水となった
	B	既設構造物基礎より多量の湧水があり、既設構造物に影響の恐れあり
	②軟弱地盤	A
B		転石層があり杭打ち施工が困難
B		不均質な基礎地盤
B		スレーキングの著しい軟岩
B		限界圧の低い軟岩
B		幅5m程度以上の大規模断層
B		破碎帯が基礎に分布する
B		ルジオン値50程度以上の高透水ゾーンが分布する
B		厚い砂礫層が分布する
B		土石流の危険がある渓流、地形急峻
B		土石流の危険がある渓流で降雨時に土砂流出有り
B		急峻な地形、一部で崩壊有り。支持地盤は岩盤で一部弱層有り
B		崖錘堆積物があり、崩れ易い地形での作業
③作業用道路・ヤード		B
	B	狭隘な河道内での作業
	B	河川内工事(出水により仮設道路流出あり)
	B	川幅が狭い箇所での半川施工
	B	狭い渓流での仮締切の切り回し及び施工ヤードの確保
	B	現道と施工場所高低差20m以上
	B	河川内の急峻な地形で作業スペース等の制約
	B	急峻な地形で作業スペースの制約を受け片押しによる河床道路作業
	B	高所作業、作業スペースの制約
	B	迂回路無し
	B	土砂運搬は林道使用で運搬距離が長距離となる
	B	狭隘な作業ヤード及び堆砂地内が工事用道路
	B	隣接工事が競合していたため、運搬路及び作業ヤードに制約を受けた
	B	溶岩原に仮設道路を新設
	B	工事用道路の盛土材が軟らかく硬化対策を実施
	④気象・海象	B
B		施工箇所が法面上部なので資材搬入路や足場を確保しなければならない
A		冬期は-20℃
A		雪崩の危険がある
A		土石流の危険がある渓流、地形急峻で土石流に対する安全管理等の対応で工事困難
B		降雨による出水の影響大、仮締切、水替に工夫
B		活火山よりの噴石及び土石流
B		土石流流下区間で、わずかな降雨で土砂流出
B		土石流の危険がある渓流。集中豪雨による河床洗掘を受ける
B		土石流の危険がある地区内での出水対応
B		出水対応、土石流対応
B		厳寒期でのコンクリート打設
B	冬季の施工があり、工程等に制約あり	
B	緊急工事の為、豪雪地域で通年施工	
B	冬期は-10℃にさがる	
B	厳寒期での芝付け作業	
⑤その他	A	火砕流、土石流の危険がある
	B	活火山よりの噴石、降灰
	B	地すべり地形
	B	一部山腹からの落石による影響
	B	巨石、転石多数有り
	B	掘削土中の整理及び仮置
	B	転石を含む右岸斜面
	B	地すべり末端部
	B	夜間施工
	B	天然記念物、貴重動植物への配慮
B	国の特別天然記念物オオサンショウウオの生息地	

砂防・地滑り・治山2

項目	評価	事例
⑤その他	B	標高が高く植樹の条件が厳しい。樹種も標高の高い場所で養育したものを使用
4. 社会条件		
①地中障害物	B	搬入路の一部に給湯管が埋設
	B	工事用道路に送水管(温泉)の埋設有り
②近接施工	B	連続する護岸工事有り
	B	多数の工事が近接施工
	B	仮設道路を使用する8件の工事があり
③騒音、振動	B	周辺住民に対する騒音振動に配慮
	B	工事用道路が住宅地の狭い村道を通る
	B	集落内を徐行運転する必要があった
	B	温泉源、送水管(温泉)への影響配慮
④水質汚濁	A	直下流で谷水を生活用水(飲料水含む)に利用している為、水質汚濁には特に配慮
	B	濁水等漁協への配慮が必要
	B	下流付近にやまめの養殖場があり、床堀、生コン打設等の施工時には配慮
	B	沢水を農業用水に利用しているため、濁水対策が必要
	B	下流に町の上水水源が有り、水質汚濁防止策を実施
	B	下流部の旅館、釣り客に配慮し、沈殿池を設置
	B	中和設備(クワウ材)を設置
	B	斜面崩壊により露頭した赤土地表からの濁水を濁水処理施設にて処理
⑤作業用道路・ヤード	B	交互通行の不可能なせまい公道を利用しての資材運搬
	B	運搬道路(町道)が狭く長いので待避所を設けたり、無線連絡をとりつつ地元車優先で対応
	B	生活観光道路としての通路を確保しての作業
	B	工事用道路が住宅地の狭い村道を通る
	B	土砂搬出のための大量のタンクトラックが公道を利用する
	B	現道を利用して狭隘なヤード内での作業
	B	土取場で土石採取の7社が競合
	B	溶岩原に仮設道路を新設
	B	迂回路無し
⑥現道作業	A	交通規制を伴う夜間作業
	B	公道上で交通整理員を24時間配置しての片側交互通行規制での工事
	B	資材搬入に際し現道等の片側通行規制
	B	工事区域内に市道等があり、作業中は交通止め作業時以外は復旧し共用(日々)
	B	現道(兼用道路)を交通止しての資材搬入
⑦その他	A	国立公園特別保護地区内
	B	コンクリート等の殻の再利用
	B	多量の焼却灰の処理
	B	多量の伐採材の処理
5. マネジメント特性		
①他工区調整	B	作業用道路が隣接工区と共用するため調整困難
	B	工事範囲が他工事の作業用道路となるため他工事と調整
	B	搬入路を複数工事で利用
	B	搬入土置きヤードが他工事と同一箇所。運搬台数の調整必要
	B	他工事への建設発生土の運搬調整
	B	土石流危険渓流による他工事との調整
	B	近隣工事施工者との調整必要
	B	床固を左右岸で隣接しての施工で工程等調整事項が多い
	B	他工事との仮排水路工等調整に苦慮
	B	災害復旧工事が錯綜しており、施工調整が難
	B	他工区と作業帯離隔に伴う工程調整
②住民対応	A	困難な住民対応が予想されたが住民へのコミュニケーション対応が良く、工事遂行
	B	沿道住民(漁業関係者)との対応を頻繁に実施
	B	湧水を利用した耕作者が多いため調整が困難
	B	周辺が水田地であり沈下等により用、排水の確保に配慮
	B	耕作地への取り付け道路及び集落内の採取土運搬で各種の対応
	B	地元へのビラや回覧、道路利用者への情報提供など地元調整を実施
	B	現場見学会、ご意見箱の設置など住民対応に積極的な取り組み必要
	B	住民への工事現場報告会を実施、沿道への月間工程表の配布及び直接対話
	B	市街地での沿線住民への対応
	B	井戸枯れ、排水処理及び振動騒音等の対応において地元調整
	B	地元から非常に厳しい要望のある中での工事、対応
	B	災害時における緊急工事に関する沿道、周辺住民への配慮
	B	振動騒音に対する内容確認と対応
	B	夜間作業での騒音振動対策(地元説明により夜間作業の理解をえる)

砂防・地滑り・治山2

項目	評価	事例
②住民対応	B	通行規制を伴う為、チラシ作成、立看板を作成し道路利用者に周知
	B	通学路に当たり、自治体、学校自治会などと協議
	B	民地出入り口調整、田圃への出入り口調整
	B	店舗が多く出入り口等の調整が非常に多い
	B	迂回路設定時における要望等への対応
	B	生活道路を利用して資機材搬入のための住民対応
	B	農道を利用して資機材搬入のための住民対応
	B	歩道切り回し及び出入りに関わる周辺住民対応
	B	通行止めに伴う自治会の承諾
	B	学識経験者及び自然の会などの意見調整
	B	旅館利用者、登山者等への配慮が必要
	B	リゾート施設内(ゴルフ場、スキー場、キャンプ場等)で作業時間等の調整
	B	隣接の小学校、神社及び樹木の取扱い調整
	B	温泉所有者との連絡調整有り
	B	用地買収等での住民対応が必要
	B	借地等での住民対応が必要
	B	店舗関係者との調整
	B	地元町内会、マンション自治会、深夜営業店との対応
	B	用水路付け替え工事で用水組合との協議
	B	多数の地権者との境界調整を伴う工事
	B	官民境界付近の工事であり、調整必要
B	水利組合との協議調整	
B	不法工作物等への対応条件が厳しい	
③関係機関対応	B	JR、JH、NTT、電力、ガス、上下水道、有線放送、国道、町道等の管理者との協議
	B	警察、公安委員会との調整
	B	国立公園、国有林、民有保安林が絡む現場で、協議のため関係機関と対応
	B	環境庁(自然公園法)、文化庁(文化財保護法)との調整
	B	林野庁、森林管理局との調整
	B	森林管理署等との調整
	B	教育委員会との調整
	B	消防署との協議
④工程管理	B	集中工事期間内での工事のため工期、工程に制約
	B	5月の連休前供用を図るため、工期を1ヶ月短縮
	B	契約当初より工期、工程条件が厳しい工事条件に対し対応
	B	外、内水面漁協からの制約を受け工程厳しい
	B	鮎釣り解禁を控え、工程短縮の要請
	B	7月末までの工期であるが田植期前までに概成
	B	用地問題及び変更への対応
	B	観光地であることから早期完成の要請
	B	猛禽類配慮等による工期の制約
	B	植樹、植栽期間が制限され工期制約
	B	土石流発生の危惧のため出水期までの早期完成
	B	冬期間における施工のため工程管理上の制約
	B	施工箇所が山間部で時期的にも気象状況に左右されやすい
	B	緊急災害復旧工事における早期完成
	B	工事搬入路である一般国道の災害及び交通止めによる工程影響
	B	工法変更に伴う工程調整に困難を要した
	B	増工、新規工種発生による工程変更が生じた
	B	変更、一時中止で工程管理への影響に対応
	B	想定外の地中障害物への工程管理苦慮
	B	地質変化等、条件変更に伴う工程の対応
	B	標準断面契約で工期に制約のあるなか対応
	B	概略発注に伴う設計変更等、工程管理
	B	地質調査、検討、測量、設計が工事に含まれており、工程管理上の制約
	B	週休二日制モデル工事
	B	先行工事の遅れにより工期の延期及び施工順序の見直しが必要
	B	他工事(機械工事、電気工事、上屋建築工事、県発注改修工事等)との工程調整(他工事への影響大)
	B	隣接工事との工程調整
B	用地買収進捗等の規制	
B	点在している工区の工程調整	
B	文化財発掘調査の為に日数を要し、工程管理対応	
⑤品質管理	B	暑中及び寒中コンクリートの施工となる箇所があり養生、品質管理重要
	B	標高が高く、急激な温度等の変化に対する品質管理が必要

砂防・地滑り・治山2

項目	評価	事例	
⑤品質管理	B	施工試験、配合試験の実施による品質確保の検証	
	B	品質管理法の工夫必要	
	B	中詰土の現場密度管理に十分な注意が必要	
	B	床固及び護岸表面の石張り施工品質管理	
⑥安全管理	A	土石流危険渓流、急峻で崖錐堆積物が多く、崩落の危険性大	
	B	土石流危険渓流、地形急峻	
	B	安全協議会を設置し、山体監視、地震計監視、サイレン等を共有設置	
	B	活火山の噴石及び小雨で発生する泥石流、土石流対策	
	B	切土高が高く、作業箇所が狭小であるため、上下作業にならない機械及び作業員の設置	
	B	高さ30mの法面で命綱による危険作業	
	B	切土高が高く地山の崩壊などの安全管理	
	B	狭所作業における重機挟まれに対する安全管理	
	B	緊急災害復旧工事での安全管理	
	B	交通量が多い現道上の夜間作業	
	B	坑内作業が主であり危険	
	B	降雨の中での工事、作業に対して安全管理が特に必要	
	B	崩壊箇所のため、法面の挙動観察等厳しい管理が必要	
	B	急勾配、急カーブ区間における車線切り回し施工、安全管理重要	
	B	現道切り回し施工における安全管理	
	B	他工事と上下作業になる事から連絡調整必要	
	B	複数の他工区が隣接しているため安全協議会を作り事故防止	
	B	有害特定化学物質の除去作業における安全対策、特別産業廃棄物に準じた安全対策	
	⑦その他	B	災害応急復旧工事
		B	集中豪雨の復旧工事に迅速に対応
B		台風後の応急的工事	
B		施工内容、ICカード試験フィールド	
B		リサイクルモデル工事の一般公開工事	
B		建設CALSへの取り組み	
B		地元住民の多自然型護岸に対する理解を深めるため「護岸作り(植樹)」イベントを開催	
B		見学者対応に積極的に協力	
B	温泉源の温度測定を実施		

道路・農道・林道1

山岳トンネル工法

項目	評価	事例
<b>1. 構造物条件</b>		
①規模	A	内空平均面積 100m <sup>2</sup> 以上
	A	片押し掘削延長 3,000m以上
	B	内空平均面積 80m <sup>2</sup> 以上
②形状	A	土被りが1D程度以下
	A	超扁平断掘削
	A	在来トンネルに近接施工し、眼鏡トンネルを施工
	B	斜杭
	B	立杭
③その他	B	R=70m程度の曲線施工
	A	海底又は河底
	B	既設トンネル覆工コンクリート裏面空洞対策工
<b>2. 技術的特性</b>		
①工法等	A	断層破砕帯で大量の湧水が発生し、対策が困難
	A	高い地熱、温泉、有毒ガス等がある地山で対策が困難
	A	膨張性が著しい地山で変状対策が困難
	B	小段層劣化帯の掘進にあたりFIT工法を採択
	B	地山を先行補強する長尺鋼管フォアパイル工法、パイプラー工法
	B	市街地等で火薬掘削ができなく、ロータリーヘッド使用も制限
	B	活線拡幅工
	B	出水対策工の施工
	B	側壁導杭、底設導杭の施工
	B	パイロット事業等(新技術)の実施
②その他	B	ファイバーコンクリートによる鉄筋の省略、工期短縮

トンネルシールド工法

項目	評価	事例
<b>1. 構造物条件</b>		
①規模	A	φ8m以上
	B	φ4m以上、φ2m未満
②形状	A	土被りが1D程度以下
	A	最大勾配 20%程度以上
	B	縦断勾配 5%程度以上
	B	トンネル平面曲率半径 $R/D \leq 1.3$
	B	眼鏡型、3型、矩形、拡幅等、変形断面の掘削
③その他	B	親子シールドによる掘削
	B	地中障害物対応型シールド掘削
<b>2. 技術的特性</b>		
①工法等	A	地中接合
	A	既設トンネルの拡幅(拡大)工法の提案
	B	地中拡幅
	B	長距離シールド施工 2,000m程度以上
	B	中折れシールド機によるカーブ施工
	B	パイロット事業等(新技術)の実施
②その他	B	セグメント運搬に自動搬送車を提案
	B	流動化材による埋め戻しの提案

道路・農道・林道1

トンネル開削工法

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	A	開削深さ(基礎面から地表までの平均高さ) 30m以上
	B	開削深さ(基礎面から地表までの平均高さ) 20m以上
②形状	A	円形立杭に角度をもって到達発進するシールド通過部の箱抜
	A	地下街及び地下駐車場
	B	線形 R=500m
	B	U型擁壁一部張出構造
	B	特殊断面部を有する
	B	分岐部施工のため複雑な構造
③その他	B	既設埋設部の試掘調査後、詳細設計作成
2. 技術的特性		
①工法等	A	既存構造物の動態観測しながらの大規模開削
	B	ティープウェル工法の適用
	B	パイロット事業等(新技術)の実施
	B	仮設(ソイルセメント壁、アンカー山留、泥水固化壁、逆巻工法、中間支持杭)
	B	円形立杭の確保の為、連壁を20角形で水平多軸機にて施工
	B	横断用水路を吊防護して躯体工程施工
	B	ダウンザホールハンマー工法等を併用した矢板施工
	B	逆巻工法の採用
	B	切梁施工で残置が必要な躯体工程施工
	B	知足配管によるコンクリート打設方法の提案
②その他	B	知足配管によるコンクリート打設方法の提案

トンネル沈埋工法

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	A	内空平均面積 300m <sup>2</sup> 以上
	B	内空平均面積 100m <sup>2</sup> 以上
	B	埋没長が 100m程度以上
②形状	B	平面曲線を有する
2. 技術的特性		
①工法等	B	パイロット事業等(新技術)の実施

共同溝シールド工法

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	A	φ8m以上
	B	φ4m以上、φ2m未満
②形状	A	土被りが1D程度以下
	A	最大勾配 20%程度以上
	B	縦断勾配 5%程度以上
	B	トンネル平面曲率半径 $R/D \leq 1.3$
	B	眼鏡型、3型、矩形、拡幅等、変形断面の掘削
	B	親子シールドによる掘削
③その他	B	地中障害物対応型シールド掘削
2. 技術的特性		
①工法等	A	地中接合
	A	既設トンネルの拡幅(拡大)工法の提案
	B	地中拡幅
	B	長距離シールド施工 2,000m程度以上
	B	中折れシールド機によるカーブ施工
	B	パイロット事業等(新技術)の実施
	B	セグメント運搬に自動搬送車を提案
②その他	B	流動化材による埋め戻しの提案

道路・農道・林道1

共同溝開削工法

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	A	開削深さ(基礎面から地表までの平均高さ) 30m以上
	B	開削深さ(基礎面から地表までの平均高さ) 20m以上
②形状	A	円形立杭に角度をもって到達発進するシールド通過部の箱抜
	A	地下街及び地下駐車場
	B	線形 R=500m
	B	U型擁壁一部張出構造
	B	特殊断面部を有する
	B	分岐部施工のため複雑な構造
③その他	B	既設埋設部の試掘調査後、詳細設計作成
2. 技術的特性		
①工法等	A	既存構造物の動態観測しながらの大規模開削
	B	ティープワール工法の適用
	B	パイロット事業等(新技術)の実施
	B	仮設(ソイルセメント壁、アンカー山留、泥水固化壁、逆巻工法、中間支持杭)
	B	円形立杭の確保の為、連壁を20角形で水平多軸機にて施工
	B	横断用水路を吊防護して躯体工施工
	B	ダウンザホールハンマー工法等を併用した矢板施工
	B	逆巻工法の採用
	B	切梁施工で残置が必要な躯体工施工
②その他	B	知足配管によるコンクリート打設方法の提案

共同溝推進工法

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	B	スパン長(刃口式元押し推進工法 40m、中押し推進 400m)程度以上
	B	スパン長(密閉型推進 600m)程度以上
	B	小口径推進工法である(管口径700mm程度以下)
③その他	B	転石等の障害物の存在
	B	既設埋設管等の存在
2. 技術的特性		
①工法等	B	カーブ推進(方向制御、姿勢制御)
	B	硬質塩化ビニール管等、新材料の採用
	B	施工困難な地盤条件(滞水性、崩壊性、砂礫地盤、岩盤等)に対応する工法
	B	長距離推進工法
	B	パイロット事業等(新技術)の実施
②その他	B	地中障害物対策に関する技術提案
	B	残土処理に関する技術提案

道路・農道・林道1

橋梁上部RC橋

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	B	最大支間長 50m以上
	B	マスコンクリート
	B	支保工高 20m程度以上
	B	橋脚 10径間以上
②形状	B	R=200m未満の曲線橋
	B	アーチ橋
	B	斜角が 75度程度未満
	B	RCホー桁
	B	RC立体ラーメン橋
③その他	B	既設RC桁の損傷度を調査、工法の決定、施工
	B	床版打換え
	B	増桁補強
2. 技術的特性		
①工法等	B	上部桁補強、床版補強
	B	パイロット事業等(新技術)の実施
②その他	B	支保工ベースの沈下対策及び床版コンクリート打設順序に関し提案
	B	桁下空間に制限があるため型枠支保工解体移動に特別対策の提案
	B	コンクリート補修に関し技術提案

橋梁上部PC橋

項目	評価	事例	
1. 構造物条件			
①規模	A	床版橋(最大支間長 70m以上)	
	A	ラーメン橋、アーチ橋、斜張橋、トラス橋、その他(最大支間長 150m以上)	
	A	PC斜ラーメン(最大支間長 50m以上)	
	B	床版橋(最大支間長 50m以上)	
	B	ラーメン橋、アーチ橋、斜張橋、トラス橋、その他(最大支間長 100m以上)	
②形状	A	非対称エクストラース橋	
	B	R=200m未満の曲線橋	
	B	変断面	
	B	斜角が 75度程度未満	
	B	不等径間割り	
	B	PCホー桁	
	B	多径間連続ラーメン箱桁	
B	横断勾配の折れ点、反曲点があるため横断勾配の変化が複雑		
③その他	B	既設PC桁の損傷度を調査、工法の決定、施工	
	B	橋脚補強に鋼板巻立て、炭素繊維巻立て等を実施	
	B	床版打換え	
B	増桁補強		
2. 技術的特性			
①工法等	B	片持架設工法	
	B	押出架設工法	
	B	移動支保工架設工法	
	B	プレキャストを工場で作成、良質な桁を製作	
	B	外ケーブルによる補強及び鋼板接着	
	B	コンクリートの耐久性向上に新材料を採用	
	B	河川を横断する支柱式支保工での現場施工	
	B	スレージングによるポストテンション工法	
	②その他	B	コンクリート補修に関し技術提案
		B	床版老朽化対策の提案(鋼板接着工法)
B		斜材工にプレファクターケーブル、横締めにアフターボンドを提案、採用しコスト縮減	



道路・農道・林道1

橋梁上部鋼橋

項目	評価	事例	
<b>1. 構造物条件</b>			
①規模	A	鋼桁橋、箱桁橋、ラーメン橋(最大支間長 100m以上)	
	A	トラス橋、アーチ橋、斜張橋(最大支間長 200m以上)	
	A	吊橋、その他(最大支間長 500m以上)	
	B	鋼桁橋、箱桁橋、ラーメン橋(最大支間長 70m以上)	
	B	トラス橋、アーチ橋、斜張橋(最大支間長 100m以上)	
	B	吊橋、その他(最大支間長 300m以上)	
②形状	A	斜張橋	
	B	R=200m未満の曲線橋	
	B	変断面	
	B	斜角が 75度程度未満	
	B	連続鋼箱桁、連続鋼桁	
	B	鋼ローゼン	
	B	鋼方杖ラーメン橋	
③その他	A	片側を交通開放しながら既設橋梁の補強、補修施工	
	B	床版打換え	
	B	増桁補強	
	B	既設橋の歩道床版取り壊し、増桁架設	
<b>2. 技術的特性</b>			
①工法等	A	河川上の桁架設を台船から直下吊りで施工	
	A	鋼重1,200t以上のクレーン+横取り工法の架設	
	A	カーブ橋の送り出し架設	
	B	パイロット事業等(新技術)の実施	
	B	耐候性鋼材による桁で、外面を安定錆促進処理(ウェザースタット)	
	B	主桁下フランジ補強工法	
	B	ケーブルエレクション斜吊り工法	
	B	ユニットキャリアによる桁運搬	
	B	鋼桁橋、箱桁橋(トラベラークレーン工法以外の仮設工法採用)	
	B	トラス橋、アーチ橋、ラーメン橋(ケーブルクレーン工法以外の仮設工法採用)	
	B	斜張橋、吊橋、その他(片持式工法以外の仮設工法採用)	
	②その他	B	4車化のために既設橋との一体化が必要、既設橋との間に横桁等を設置
		B	現道を通行させながらの沓の取替

橋梁上部床版工(鋼橋)

項目	評価	事例
<b>1. 構造物条件</b>		
①規模	B	橋長 300m以上の床版工
	B	最大支間長 50m以上の床版工
②形状	B	R=200m未満の曲線橋
	B	変断面
	B	斜角が 75度程度未満
	B	斜路式歩道橋
	B	3径間連続桁
	B	PC床版
	B	合成版
③その他	B	既設床版の撤去、補強、拡幅
<b>2. 技術的特性</b>		
①工法等	B	パイロット事業等(新技術)の実施
	B	上塗りまで工場塗装、塗装の保護対策
②その他	B	メタル防錆に関する技術提案

道路・農道・林道1

橋梁下部RC橋脚・橋台

項目	評価	事例
<b>1. 構造物条件</b>		
①規模	A	アーチゲ上からの高さ30m以上
	A	鋼管矢板80本
	A	柱長H=40mの橋脚、3基以上
	B	アーチゲ上からの高さ20m以上
	B	マスコンクリート
	B	杭長30m程度以上
	B	3径間以上の連続ラーメン橋
	B	橋脚、橋台5基以上
B	場所打杭φ=1200mm以上、かつ場所打杭50本以上	
②形状	B	二層のラーメン構造
	B	変断面のつづみ型橋脚
	B	箱式橋台
	B	RC橋脚と鋼製橋脚の2層式
③その他	B	鋼管セメントソイル杭等の新工法の採用
	A	既製構造物(水路トンネル)に近接し、土留工施工
	B	既設構造物の補強及び拡幅工事
	B	旧橋上部工(PC桁)撤去
	B	既設橋脚補強工事(コンクリート巻き立て工、鋼板巻き立て、炭素繊維巻き立て)
B	橋脚耐震補強工事	
<b>2. 技術的特性</b>		
①工法等	A	張り出し部にブラケット支保工
	A	鋼管井筒基礎
	A	ニューマチックケーソン
	B	パイロット事業等(新技術)の実施
	B	橋梁基礎にPCウェル工法
	B	仮設工の杭打ちにタンザールハンマー工法併用
	B	水中での仮締切
	B	海岸堤防内に締切矢板を施工し堤防の変位測定をしながら橋脚を施工
	B	矢板打設前にロックオーバーにより置換工実施
	B	高流動コンクリート
	B	荷重軽減工法(EPS)
	B	補強土壁工を施工
	B	鋼管合成杭を施工
	②その他	B
B		橋台付近に基礎杭があり引き抜き工法等の提案を求めた
B		杭先端処理(セメントミルク噴出攪拌方式による中掘り杭)に関する提案
B		沈下促進対策の提案
B		仮締め切り工法を提案(オールケーシング置き換え工法等)

橋梁下部鋼製橋脚・橋台

項目	評価	事例
<b>1. 構造物条件</b>		
①規模	B	橋脚100ton以上又は橋脚高10m以上
	B	橋梁部長さ30m以上
②形状	B	二層構造又は変断面
	B	下部工特殊形状、架設困難
<b>2. 技術的特性</b>		
①工法等	A	大型自走式移動台車による一括架設
	B	パイロット事業等(新技術)の実施
	B	大型移動支保工による架設
	B	ラーメン構造、梁を200tクレーンによる落込み工法
②その他	B	鉄の防錆に関する技術提案

道路・農道・林道1

橋梁下部合成構造橋脚・橋台

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	A	橋脚高 40m程度以上
	A	大口径深礎杭φ 5m程度以上
	B	橋脚 100ton以上
	B	橋脚高 10m以上
	B	橋梁部長さ 50m以上
②形状	B	鋼管コンクリート複合構造橋脚
2. 技術的特性		
①工法等	B	パイロット事業等(新技術)の実施

小規模橋梁 ※橋長30m以下で上部、下部を一体施工するPC及びRC橋梁

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	B	支間長 10m以上
	B	アーチ上からの高さ 5m以上
②形状	B	R=200m未満の曲線橋
	B	斜角が 75度程度未満
③その他	B	既設構造物補強、拡幅
2. 技術的特性		
①工法等	B	パイロット事業等(新技術)の実施
	B	仮設工の杭打ちにタンザールハンマー工法併用
	B	水中での仮締切
	B	矢板打設前にロックオーガーにより置換工実施
	B	補強土壁工を施工
	B	鋼管合成杭を施工
②その他	B	既設構造物への影響を与えない施工法や施工機械等について提案を求めた
	B	橋台付近に基礎杭が有り引き抜き工法等の提案を求めた
	B	仮締切工法の提案(オルケーシング置き換え工法等)

セメントコンクリート舗装

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	B	舗装面積 10,000m <sup>2</sup> 程度以上
②形状	B	縦断勾配 2%程度以上
2. 技術的特性		
①工法等	B	パイロット事業等(新技術)の実施
	B	2車線同時舗装
	B	各種特殊舗装工法
	B	凍結抑制舗装
	B	透水性コンクリート
	B	コンクリート薄層舗装
	B	マッシュ舗装
	B	トンネル内の転圧コンクリート舗装

道路・農道・林道1

アスファルト舗装

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	B	舗装面積 10,000m <sup>2</sup> 程度以上
②形状	B	縦断勾配 6%程度以上
	B	地形に合わせるなど形状の変化が多く複雑
	B	霧散水消雪パイプの施工等、煩雑な施工
	B	路面電車軌道の存在
	B	交通道路数 3ヶ所以上、交差点規模 300m <sup>2</sup> 以上
2. 技術的特性		
①工法等	B	パイロット事業等(新技術)の実施
	B	各種特殊舗装工法
	B	凍結抑制舗装
	B	常温舗装
	B	排水性舗装
	B	シクリフト工法
	B	褥層舗装
	B	ロードヒーティング
	B	半たわみ性舗装
	B	マチック舗装
②その他	B	不等沈下による舗装修繕工事で縦断計画の提案
	B	現況舗装構造の把握と修繕工法の提案を受注者に求めた

切土工

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	A	切土高平均 30m以上
	A	切土量 200,000m <sup>3</sup> 以上
	B	切土高平均 20m以上
	B	切土量 100,000m <sup>3</sup> 程度以上
②形状	B	高規格道路のPA拡幅部等、道路線形が平面、縦断的に複雑
	B	土工、橋梁下部工、擁壁工、函渠工等工種が多数有り
	B	片盛り施工でW=4m以下かつHが2段以上
③その他	B	転石を多数除去
2. 技術的特性		
①工法等	B	パイロット事業等(新技術)の実施
	B	大型掘削機械使用又は火薬併用による掘削
	B	法面処理工で吹付法枠+ロックボルトを施工
②その他	B	災害復旧対策について緊急対応を求めた
	B	工事用道路の設計施工方法の提案(急峻な地形での工事)

盛土工

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	A	盛土高平均 20m以上
	A	盛土量 150,000m <sup>3</sup> 以上
	B	盛土高平均 10m以上
	B	盛土量 50,000m <sup>3</sup> 以上
2. 技術的特性		
①工法等	B	パイロット事業等(新技術)の実施
	B	EPS、気泡セメント、気泡ソイルセメント等による軽量盛土
	B	移動式土壌改良機の使用
	B	盛土施工にあたり、高含水土砂を石灰にて混合施工
②その他	B	建設残土の再利用の提案
	B	軟弱地盤対策工法の試験盛土工事

道路・農道・林道1

斜面安定・法面工

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	A	現場吹付法控面積 5,000m <sup>2</sup> 程度以上
	A	グラウトアンカー併用法控で 1,000m <sup>2</sup> 以上
	B	法高が20m程度以上
	B	アンカー工 100本程度以上
	B	鉄筋挿入 200本程度以上
	B	現場吹付法控面積 2,000m <sup>2</sup> 以上
②形状	B	道路上高さ50m以上の場所での高所作業
③その他	A	崩壊性法面での土砂の撤去
	B	岩塊撤去等特殊な工事
	B	既設の老朽化したモルタル法面の撤去
2. 技術的特性		
①工法等	B	パイロット事業等(新技術)の実施
	B	制御発破(火薬)による法面岩塊撤去
	B	斜面上の岩塊の人力掘削等
	B	急峻な斜面への仮設工の設置
②その他	B	浮石除去、ローネット工、岩石破碎など受注者に提案を求めた

カルバート工

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	B	カルバート内空面積 25m <sup>2</sup> 程度以上かつ延長 30m程度以上
	B	カルバート延長 100m程度以上
②形状	B	カルバートボックスの線形が曲線
	B	側壁(中抜き構造)、頂版(床板+壁高欄構造)
	B	現道直下で斜めT字交差、地下道乗り入れの斜路との取り合い複雑
③その他	B	既設横断歩道橋の撤去工事を伴う
2. 技術的特性		
①工法等	A	ハイプルフ工法
	A	フロンテジャッキ工法
	B	パイロット事業等(新技術)の実施
	B	EPS、気泡セメント、気泡ソイルセメント等による軽量盛土
	B	プレキャストアーチカルバート工
②その他	B	大型のコンクリート2次製品を現地組立施工

擁壁工

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	A	擁壁面積 1,000m <sup>2</sup> 以上かつ最大高さ 10m以上
	B	擁壁面積 500m <sup>2</sup> 以上
	B	最大高さ 8m程度以上
②形状	B	土被りが1D程度と非常に薄い盛土下
	B	張出歩道含む擁壁工と深礎工の一体構造物で、高さ、構造の変化が著しい
	B	函渠擁壁一体構造物で形状複雑
③その他	B	急峻な箇所の現道を片持式擁壁等で拡幅
	B	岩盤接着、仮設防護工等急峻な地形条件下での施工
2. 技術的特性		
①工法等	B	パイロット事業等(新技術)の実施
	B	テールアルメ工法
	B	EPS、気泡セメント、気泡ソイルセメント等による軽量盛土
	B	落石監視装置設置、岩盤接着工、ローフ掛工、ロックネット工
	B	仮設法面の土留めのため鉄筋挿入による地山補強
	B	緊急災害復旧工事、復旧工法や工程等において技術提案
②その他	B	

道路・農道・林道1

維持管理

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	B	除草面積、20万m <sup>2</sup> 以上
③その他	B	支取替工、転石除去工等特殊な工事
2. 技術的特性		
①工法等	A	既設横断歩道橋の高圧ボルトの交換(特殊な締付け方法)
	B	パイロット事業等(新技術)の実施
	B	高剛性軽量排水管を使用
	B	支取替工＝仮受台により活線施工、転石除去工＝静的破砕工法
	B	既設コンクリート床版の増厚を施工
②その他	B	応急対策を基本とした工法提案
	B	補修断面及び縦断方向の調査検討を受注者に求めた

ブロック舗装


項目	評価	事例
1. 構造物条件		
②形状	B	透水平板を用いた舗装で、既設歩道に合わせるための現場加工が多い
2. 技術的特性		
①工法等	B	パイロット事業等(新技術)の実施

排水工

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	B	河道内埋設管φ1500程度以上
	B	サイホン、長さ30m以上、深さ5m程度以上
2. 技術的特性		
①工法等	B	パイロット事業等(新技術)の実施
	B	推進工法による管渠布設
②その他	B	排水を地下還元方式とするため、水路構造を検討

電線共同溝・CAB

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	A	延長1000m程度以上
	B	延長300m程度以上
②形状	B	既設構造物、占用物件等との調整のため断面変化が多い
	B	各特殊部間によって管路断面変化
③その他	B	掘端の石垣等について掘削時等対応が必要
2. 技術的特性		
①工法等	B	パイロット事業等(新技術)の実施
	B	既設電柱、民地、照明灯、信号機等の引き込み管が多数あり複雑
②その他	B	河川横断部の施工方法に関する検討及び提案
	B	各企業の占用物件との調査及び調整・立案
	B	マンホール蓋の対応に新工法提案

※  塗部は平成27年4月1日より削除

## 道路・農道・林道1

### 情報BOX

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	B	延長 2km以上
②形状	B	通信管路のトンネル監査路への設置
③その他	B	橋梁部の延長が300m程度以上
2. 技術的特性		
①工法等	B	パイロット事業等(新技術)の実施
	B	橋梁添架に技術必要
②その他	B	狭幅無歩道トンネルでの、情報BOX施工の提案、歩道狭幅部の施工提案等
	B	現況地下埋設物等の把握と管路埋設位置、橋梁添架等の検討提案

### シェッド

項目	評価	事例
2. 技術的特性		
①工法等	B	パイロット事業等(新技術)の実施
	B	高所作業を機械施工を行えるよう工夫

## 道路・農道・林道2

項 目	評価	事 例
3. 自然条件		
①湧水・地下水	B	既存の沢を分断するため井戸枯れ及び防災対策に配慮
	B	地下水が高く、湧水が多量に発生したが、施工段取にアイアを取り入れるなど苦心した。
	B	地下水位が高い、地表面下1.0m
	B	函渠工が半地下構造のため、地下水対策が必要
	B	海岸部ですぐ横に洞堀からの湧水あり
	B	BOX端から湧水
	B	法面の一部に湧水あり
	B	床掘時に近接河川より流入水有り
	B	河川の流入水多し
	B	河川内の工事のため湧水が多い
	B	積雪期であり、常に湧水が生じている
	B	盛土部に湧水があり、地下排水で対応
	B	切土部に湧水が発生し、対策工法により施工
	B	被圧水による掘下げ、安全施工(被圧観測)
	B	地下水位が高く止水薬注を実施
	B	河道からの湧水を大型土のうによる法面安定対策、水替工で対処
	B	工事用道路設置場所は湧水が多く、地下排水管、既設水路の暗渠排水管設置が必要
	B	周辺井戸の地下水低下により、仮設による水道を設置
	B	河床掘削での湧水、洪水対策
	B	水替えをしながらの施工
	B	地下水が高く簡易ウエルで処理
	B	湧水による岩盤崩落対策
②軟弱地盤	A	超軟弱地盤処理(有明粘土、ヘドロ等)
	B	軟弱地盤上での重機械施工のため対策が必要
	B	盤ブクの検討及び計測管理による施工
	B	N値10以下、軟弱層15m程度
	B	一帯は干拓地内であり盛土施工に注意を要する
	B	ゆるい砂層の上に泥土が堆積
	B	水田跡で表層に腐植土層が介在
	B	不良(泥土qc=2kg/cm <sup>2</sup> 以下)
	B	軟弱地盤箇所のため、下部工及びボックスの挙動を細かく監視しながらの施工
	B	周辺部への影響が懸念されるため掘削勾配変更
	B	モータリング施工、軟弱地盤上での盛土に際し、沈下観測しながらの施工
	B	転石層があり杭打ち施工が困難
	B	軟弱地盤地区であり沈下が激しい。計画高及び排水設計の見直し
	B	切土法面に及ぼす節理面対策
	B	盛土部の現況地盤に軟弱層があり地盤改良を追加施工
	B	軟弱地盤箇所ので緩速施工
	B	CBRが1.0以下で路床改良有り。施工時は鉄板を使用
	B	地山含水比が70%あり、設計CBRも1以下でバックしながらの盛土施工
	B	薬液注入工法による地盤改良を実施した
	B	径が1m以上の転石が多く基礎工(PCウエル)に苦慮
	B	軟弱地盤地区による地盤改良及び仮設物の変位監視
	B	軟弱地盤上での重機械施工のため対策が必要
③作業用道路・ヤード	A	急峻な地形条件(高低差30m、地山斜面勾配45度等)、かつ土運搬及び資材運搬は全て特装運搬車
	B	河川内の狭隘な空間での施工
	B	河川敷内での施工
	B	河川内作業で工事用搬入路などの制約大
	B	河川内に支保工の支柱を建柱
	B	河川内での工事、棧橋設置などで作業スペースに制約
	B	河川内で作業が台船からの水中作業
	B	河川内のため仮棧橋、築島にて作業
	B	ダムサイト下流の急傾斜地帯、ダム湖内作業 海中での工事でヤードの確保に制限有り
	B	池の中に仮棧橋を設置
	B	急峻な地形且つ狭隘な施工ヤード
	B	擁壁と斜面に囲まれた狭隘な作業場
	B	崩壊土上での作業となり作業スペースの確保が必要
	B	急峻山地のため、片押し施工
	B	現国道と急峻な山斜面の間での作業でありスペースの制約有り
	B	施工上部がスキー場、下部が現国道であり施工ヤードが狭小
	B	山岳部の作業道路(1車線)で急勾配で平面線形も悪い
	B	路面高約20mの傾斜地での施工



## 道路・農道・林道2

項 目	評価	事 例
③作業用道路・ヤード	B	急斜面での作業足場の設置及び施工
	B	急峻な地形で作業構台の製作
	B	急峻な地形で施工ヤードが少ない中、鉄塔設備及びケーブルエレクション設備を設置し施工
	B	最大勾配50°での抑止杭施行
	B	現道工事のため、車上プラントで施行。また重機の日々回送を実施
	B	高所における法面対策
	B	急峻かつ狭隘な作業ヤードでの露出岩撤去
	B	現道を規制しての基礎杭施工で機械のスペースが無く困難な作業
	B	急峻な地形上への支保工設置
	B	急峻な山地斜面に工事用道路を施工
	B	作業用道路の最大勾配が20%と急峻
	B	作業箇所狭小、工事用道路最大勾配30度
	B	十分な作業用道路が確保できないため、クローラックの使用、バックホーによる土砂盛り替え
	B	急峻な地形条件での工事用道路の構築、作業スペースの制約
	B	急峻な斜面上の工事で索道を使用
	B	急斜面人力運搬
	B	施工場所が斜面の70mより上にあり材料、機械の搬入にモレールにより搬入
	B	進入路が斜度約30度の急勾配で延長が長く、特装車でしか資材搬入ができない
	B	桁製作ヤードが狭く仮置き出来ない
	④気象・海象	A
B		出水による工事の影響が懸念
B		河川の増水による工事への影響が懸念
B		小雨でも出水の可能性有り
B		降水時の場合、工事現場内へ洪水流入の懸念有り
B		出水時対応に特に配慮
B		雨天のため、工事区間が長く盛土法面管理に苦労
B		出水時に河川付替工事の制約
B		大雨や台風による異常出水時に臨機の対応
B		暑中コンクリートの上、川風が特に強く、収縮クラックへの影響大
B		厳冬期の工事
B		降積雪期の施工
B		冬期施工で、日々除雪による施工が必要
B		日時場所を問わず緊急な凍結融氷、除雪作業が多数ある
B		豪雪地降積期間も作業
B		冬期間の施工で、工程等に制約有り
B		降雪の影響を受けるため、一部早期完成が望まれた
B		交通開放温度に苦慮
B		クレーン作業等に風の影響を受ける
B		強風、降灰、日照時間が短く、作業への影響
B	潮間作業	
B	海に面しているため波浪等の影響有り	
B	海上輸送のため、波浪による輸送の遅れが生じるなど工程に影響を受けた	
B	湖沼での作業、風、波浪の影響を受ける	
B	潮の干満の影響有り	
⑤その他	A	工事用道路改築で山斜面に転石が多く除去が困難
	A	トンネル坑口直上斜面での施工で特に落石に注意を要す
	A	酸欠、硫化水素に対する防護、対策
	A	活火山よりの噴石、降灰
	B	本川のため出水時の流量は多い
	B	急流河川内で水流の影響を受ける
	B	大雨によりトンネル坑口でゆるみ、法崩れ発生、早急な対応策の検討を求めた
	B	風化が著しく不安定な法面、浮岩多数有り
	B	起点側が地滑り地形
	B	岩盤崩落危険箇所での工事
	B	施工箇所が数カ所に分散
	B	基礎杭立て込み中にボーリングマシンが転石にかかり苦慮
	B	地山条件により逆巻き施工
	B	排水流域が工区内で分水嶺となっており、工事中及び完成後の排水系統に配慮を要す
	B	自然法面で凹凸が激しい
	B	岩盤がオーバーハングしている
B	法面が起伏に富み施工困難	
B	オーバーハングした法面の転石処理を実施	
B	天然記念物、貴重動植物への配慮	

## 道路・農道・林道2

項 目	評価	事 例	
⑤その他	B	周辺に希少ワシカ類が生息	
	B	貴重な水生植物アサガが周辺に生息	
4. 社会条件			
①地中障害物	A	不発弾調査、処理の実施	
	A	占用物件(ガス管、NTT、水道、電力)の吊り防護及び日々の計測	
	B	不発弾の調査を実施	
	B	埋設物調査の実施	
	B	ガス管、NTT、水道、下水道の埋設物有り、移設に苦慮	
	B	水道、NTT管等が近くに埋設されておりそれを確認しながらの施工	
	B	埋設されているJR信号ケーブル	
	B	施工箇所に地下埋設物(水道管等)があり、施工時には保護を行い処理	
	B	占用物件、横断構造物、事前の調査と対応した工法が重要	
	B	地下駐車場有り	
	B	既設水道送水管を通水させながらのサイフォンBOXの施工	
	B	コンクリート殻等あり	
	B	路盤に鉢滓があり掘削に苦慮	
	B	矢板施工中に流木と干渉	
	②近接施工	B	路面電車の近接物有り
		B	JR近接施工
		B	工事対象の複数の橋梁下に営業鉄道線、供用中道路
B		法面工において新幹線高架下の作業	
B		高速自動車供用区間の直下工事	
B		工事区間内に高速道のインターあり	
B		現道脇で電柱、架空線の移設が伴う工事であった	
B		斜面上部に高圧線鉄塔があり、法面対策工に慎重を要した	
B		(送電、通信)架空線越しの落石防止作業	
B		住宅近接(人家密集)	
B		民家などの建築物連担地区での側溝工事	
B		病院に隣接した工事	
B		会社、住宅が近接、工事施工中数回の調査	
B		他工事と競合する部分の多い工事	
B		一部区間で他工事と重複	
B		橋と橋の間に構造物を作る作業、重機等の作業に苦心	
③騒音、振動		B	周辺住民に対する騒音、振動の配慮
	B	DID区域内の施工	
	B	マンション近接	
	B	病院に隣接した工事で極力、騒音振動を出さないように配慮	
	B	ホテル近接	
	B	料理旅館に近接	
	B	養鶏場有り	
	B	周辺精密機械工場隣接	
	B	住宅商業地の中での工事	
	B	騒音振動対策のため特殊工法を採用の必要	
④水質汚濁	B	低騒音、低振動機種での施工	
	B	夜間工事のため、特に注意が必要	
	B	夜間工事が主であるため、低騒音機械を多用し、作業用照明の投射角度等に気を配った	
	B	内水面漁協から濁水処理について注文あり	
	B	外水面漁協から海苔への影響注文(濁水、コンクリートのあく対策)	
	B	シラス漁時期であり濁水処理が困難	
	B	ノリ及びシラス漁への配慮が必要	
	B	工事区域はシジミの漁業	
	B	アオリ漁場のため濁水防止フェンス設置	
	B	河川内工事であり鮎等に対して配慮	
B	下流に浄水場があり濁水防止対策に配慮が必要		
B	施工区域周辺に多数井戸があるため事前及び事後調査を行った		
B	河床掘削による井戸枯れのため仮設上水道設置		
B	下流にため池があり、濁水対策が必要だった		
B	公共下水の水質基準を守るため水質管理を実施		
B	蛍の生息する川の水質保全に配慮し濁水処理		
B	付近に海水浴場有り		
B	地盤改良(GDM)施工に伴う周辺地下水への影響		
B	改良材(セメント系固化材)による河川の水質汚濁の配慮		
B	薬剤を使用した止水工法のため排水の水質管理が必要		

## 道路・農道・林道2

項 目	評価	事 例
④水質汚濁	B	出水時の盛土工事に濁水対策に配慮
	B	水質汚濁対策として、河川の付替えを実施
	B	場所打杭の施工でPH調整の濁水処理を行った
	B	シルトフェンス設置
	B	水質汚濁、防塵処理を兼ねた洗車設備を設置(排水流末に地元漁協、天然記念物湿地植物群生地有り)
⑤作業用道路・ヤード	B	生活道路を車両通行止めしての工事で資材搬入に際し車両制約
	B	生活道路を利用しての工事用資機材搬入
	B	通学路など生活道路の一時通行止
	B	堤防天端は県道と兼用、交通量も多く工事施行に制約有り
	B	民地と出入り口供用
	B	幹線道路を遮断し進入路を確保
	B	資材置き場等に民地借地が必要
	B	家屋近接のため資機材搬入等の工事用道路、作業スペースの制約
	B	現道を利用して狭隘なヤード内での作業
	B	中央分離帯内の狭隘なヤード内での作業
	B	路面覆工下で作業スペースの制約
	B	JR橋梁下で作業スペースの制約
	B	JR踏切付近の作業スペースの制約
	B	高圧線下の仮締切矢板作業あり
	B	水管橋が上空にあり
	B	橋梁下での工事で作業スペースの制約
	B	橋梁上の工事で作業スペースの制約
	B	交差点内での施工
	B	トンネル内の作業であり、作業ヤードの確保が困難
	B	同一掘削範囲内で4社の近接施工、作業スペースの制約
	B	他工区との共同作業スペースのため制約あり
	B	他工事と出入り口供用
	B	他工事区間の中での施工
	B	ルートがゴルフ場内を通過するため対策工及び協議が必要
	B	搬入路が無く工事用道路を借地で対応
	B	農道を工事用道路として利用
	B	耕地(私有)を借地し拡幅及び仮橋等で対応
	B	作業ヤードが狭く民地を借り上げた
	B	土留工の設置に当たり施工順序を考慮したヤードの確保が必要
	B	資機材搬入が大型車進入禁止部分しかなく、9時以降の制約で許可をうけ施工
B	掘削機等の日々回送が必要	
⑥現道作業	A	交通量の多い現道上で、交通規制を伴う夜間作業
	A	交通量の極めて多い現道上で、交通規制しながらの作業(日交通量3万台/日以上)
	A	自動車専用道路における24時間規制作業
	A	全て夜間(一部DID内及び市街地部)の片側通行規制
	A	現道上の緊急の対応。24時間交通規制を伴う作業を実施
	B	多数の切り回し
	B	公道上での大規模な交通の切り回し
	B	定期バスの路線確保と一般交通の安全確保でのルート切替
	B	主要地方道が横断しており迂回路(2回切替)を設置して対応
	B	交通量の多い現道上で、交通規制しながらの作業(日交通量1万台/日以上)
	B	自動車専用道路における交通規制作業
	B	交通規制を伴うDID地区での現道作業
	B	交通規制を伴う現道上の夜間作業
	B	公道上で交通整理員を24時間配置しての片側交互通行規制での工事
	B	工事区域内に市道があり、作業中は交通止め、作業時以外は復旧し共用(日々)
	B	急カーブ、トンネル隣接区間での交通規制
	B	トンネル内での交通規制を伴う作業
	B	トンネル内での現道交通を確保しながらの作業
	B	全面通行止めによる架設
	B	施工延長が長く、日々、交通規制箇所を移動しながらの作業が必要
B	山間部の現道、見通しの悪い中、整理員の配置等苦慮しながら交通規制	
B	施工延長5.0kmの現道作業、昼間片交規制	
⑦その他	B	路床改良時の粉体の近接商店への飛散防止対策
	B	削孔時の粉塵飛散防止
	B	工区内が林檎畑であり防塵対策に苦慮
	B	家屋が隣接しているため地盤改良材の飛散に十分注意を要した
	B	地盤改良及び支持杭セメントミル、掘削ドリルでの散配防護(シート、囲い等)

## 道路・農道・林道2

項 目	評価	事 例
⑦その他	B	産業廃棄物(コンクリート片等)の再利用実施
	B	産廃混入土からの産廃分離、及び、高含水比土の改良(埋め戻し材料化作業)
	B	汚泥などの処理を実施
	B	家屋、田畑への土砂流出に対して適切な対策が必要
	B	PCB含塗膜に除去作業
	B	産業廃棄物処理に時間を要し苦慮
5. マネジメント特性		
①他工区調整	B	作業用道路が隣接工区と共用するため調整困難
	B	工事範囲が他工事の作業用道路となるため他工事と調整
	B	搬入路を複数工区で利用
	B	搬入土仮置きヤードが他工事と同一箇所。運搬台数の調整必要
	B	十数社の残土を受け入れ調整
	B	他工事(残土搬入業者)との調整が必要
	B	他工事に土を搬出するために工程を調整
	B	盛土工区との残土調整
	B	JH工区工事との土砂搬出調整
	B	情報BOXの掘削残土を盛り土に利用、複数の業者と協議、調整
	B	災害復旧工事が錯綜しており、施工調整が難
	B	他工区と作業帯離隔に伴う工程調整
	B	工事区間内に他工事が発注されており調整が必要
	B	橋梁上部、床版工事等との併行作業で共用で、共用目標に合わせての工程調整
	B	工期が短く橋梁架設工事と平行作業、工程調整
	B	標識、照明工事等5社と工区が重複し調整
	B	下水道管布設、防護柵、標識、河川維持、隣接光ファイバー、ケーブル通線工事との調整
	B	床版工、地下BOX、道路照明、既共用歩道整備、植栽工事と多数の工程調整必要
	B	情報BOX、交差点改良工事との調整
	B	改良工事との調整
	B	治山事業との調整
	B	JR委託工事等との重複工事
	B	JR架設工事等との調整
	B	道路公団の他工事同時施工による調整
	B	自治体工事との工程調整困難
	B	県発注の樋門工事等との調整
	B	他機関の隣接工事との工程調整(ガス工事)
②住民対応	A	困難な住民対応が予想されたが住民へのコミュニケーション対応が良く、工事遂行
	B	沿道住民(漁業関係者)との対応を頻繁に実施
	B	流末の海苔養殖業者との調整が困難
	B	湧水を利用した耕作者が多いため調整が困難
	B	周辺が水田地であり沈下等による用、排水の確保に配慮
	B	耕作地への取り付け道路及び集落内の採取土運搬で各種の対応
	B	地元へのビラや回覧、道路利用者への情報提供など地元調整を実施
	B	現場見学会、ご意見箱の設置など住民対応に積極的な取り組み必要
	B	住民への工事現場報告会を実施、沿道への月間工程表の配布及び直接対話
	B	市街地での沿線住民への対応
	B	井戸枯れ、排水処理及び振動騒音等の対応において地元調整
	B	地元から非常に厳しい要望のある中での工事、対応
	B	災害時における緊急工事に関する沿道、周辺住民への配慮
	B	振動騒音に対する内容確認と対応
	B	夜間作業での騒音振動対策(地元説明により夜間作業の理解をえる)
	B	通行規制を伴う為、チラシ作成、立看板を作成し道路利用者に周知
	B	通学路に当たり、自治体、学校自治会などと協議
	B	民地出入り口調整、田圃への出入り口調整
	B	店舗が多く出入り口等の調整が非常に多い
	B	迂回路設定時における要望等への対応
	B	人家連担部の歩道部施工
	B	生活道路を利用して資機材搬入のための住民対応
	B	農道を利用して資機材搬入のための住民対応
	B	歩道切り直し及び出入りに関わる周辺住民対応
	B	通行止めに伴う自治会の承諾
	B	学識経験者及び自然の会などの意見調整
	B	会社施設(工場、事業所)との調整
	B	水利組合等との協議調整
	B	店舗関係者との調整

## 道路・農道・林道2

項 目	評価	事 例
②住民対応	B	当該施工箇所がゴルフ場として利用されているためゴルフ場との調整
	B	隣接の小学校、神社及び樹木の取扱い調整
	B	病院隣接施工による配慮
	B	用地買収等での住民対応が必要
	B	借地等での住民対応が必要
	B	不法工作物等への対応条件が厳しい
	B	地元町内会、マンション自治会、深夜営業店との対応
	B	多数の地権者との境界調整を伴う工事
	B	官民境界付近の工事であり、調整必要
	③関係機関対応	B
B		警察、公安委員会との調整
B		国立公園、国有林、民有保安林が絡む現場で、協議のため関係機関と対応
B		環境庁(自然公園法)、文化庁(文化財保護法)との調整
B		林野庁、森林管理局との調整
B		森林管理署等との調整
B		教育委員会との調整
B		消防署との協議
B		路面電車、バス、歩行者等が集中し関係機関との綿密な打ち合わせが必要
B		港湾協議有り
④工程管理	B	自衛隊演習場内の工事のため協議
	B	集中工事期間内での工事のため工期、工程に制約
	B	5月の連休前供用を図るため、工期を1ヶ月短縮要請
	B	国策等の工程に合わせる昼夜間等の連続施工の実施
	B	契約当初より工期、工程条件が厳しい工事条件に対し対応
	B	外、内水面漁協からの制約を受け工程厳しい
	B	鮎釣り解禁を控え、工程短縮の要請
	B	7月末までの工期であるが田植期前までに概成要請
	B	用地問題及び変更への対応
	B	観光地であることから早期完成の要請
	B	早期交通開放のため夜間工事を含めた工程管理
	B	猛禽類配慮等による工期の制約
	B	出水期までの早期完成
	B	出水対応による工程管理
	B	冬期間における施工のため工程管理上の制約
	B	施工箇所が山間部で時期的にも気象状況に左右されやすい
	B	緊急災害復旧工事における早期完成
	B	工事搬入路である一般国道の災害及び交通止めによる工程影響
	B	工法変更に伴う工程調整に困難を要した
	B	増工、新規工種発生による工程変更が生じた
	B	変更、一時中止で工程管理への影響に対応
	B	想定外の地中障害物への工程管理苦慮
	B	地質変化等、条件変更に伴う工程の対応
	B	道路計画、排水計画変更に伴う調整
	B	標準断面契約で工期に制約のあるなか対応
	B	概略発注に伴う設計変更等、工程管理
	B	地質調査、検討、測量、設計が工事に含まれており、工程管理上の制約
	B	週休二日制モデル工事
	B	先行工事の遅れにより工期の延期及び施工順序の見直しが必要
	B	他工事(機械工事、電気工事、上屋建築工事、県発注改修工事等)との工程調整(他工事への影響大)
B	隣接工事との工程調整	
B	用地買収進捗等の規制	
B	点在している工区の工程調整	
B	文化財発掘調査の為に日数を要し、工程管理対応	
⑤品質管理	B	暑中及び寒中コンクリートの施工となる箇所があり養生、品質管理重要
	B	施工試験、配合試験の実施による品質確保の検証
	B	品質管理法の工夫必要
	B	マシンの掘削精度の確保、セグメント組立管理
	B	排水性舗装の温度、転圧管理が重要
	B	生石灰を混合した盛土材のため日々の施工管理頻雑
	B	他工事からの搬入建設副産物(粘性土、砂質土)および購入土(砂質土)につき、各品質管理必要
	B	流動化コンクリート品質確保に苦慮
	B	張り出し架設に伴う、高い精度の品質管理必要
	B	軽量盛土、テールアルミ等に厳しい品質の要求

## 道路・農道・林道2

項 目	評価	事 例
⑤品質管理	B	モルタル橋であり出来形の規格値が厳しく、高い精度を要求
⑥安全管理	A	自動車専用道路における昼夜間連続作業に対する安全確保
	A	強風化層斜面での作業で安全管理に特に配慮が必要
	B	切土高が高く、作業箇所が狭小であるため、上下作業にならない機械及び作業員の設置
	B	高さ30mの法面で命綱による危険作業
	B	切土高が高く地山の崩壊などの安全管理
	B	狭所作業における重機挟まれに対する安全管理
	B	緊急災害復旧工事での安全管理
	B	交通量が多い現道上での夜間作業の安全対策
	B	潜水作業の危険作業
	B	ニューマチックケーソン工法等、圧気工法における作業員の安全、健康管理
	B	降雨の中での工事、作業に対して安全管理が特に必要
	B	崩壊箇所のため、法面の挙動観察等厳しい管理が必要
	B	急勾配、急カーブ区間における車線切り回し施工、安全管理重要
	B	現道切り回し施工における安全管理
	B	3工区が隣接しているため安全協議会を作り事故防止必要
	B	有害特定化学物質の除去作業における安全対策、特別産業廃棄物に準じた安全対策
	⑦その他	A
B		災害応急復旧工事
B		集中豪雨の復旧工事に迅速に対応
B		台風後の応急的工事
B		施工内容、ICカード試験フィールド
B		リサイクルモデル工事の一般公開工事
B		建設CALSへの取り組み
B	地元住民の多自然型護岸に対する理解を深めるため「護岸作り(植樹)」イベントを開催	
B	見学者対応に積極的に協力	

ほ場整備・農地造成1

区画整理

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	A	施工面積 20ha程度以上
	B	施工面積 15ha程度以上
②形状	B	施工範囲の形状が不規則で施工難
2. 技術的特性		
①工法等	B	ほ場の高低差が大きい(50cm以上)
	B	基盤が軟弱で降雨の影響を受けやすい中で施工
	B	大区画ほ場(60アール以上)で施工
	B	パイロット事業等(新技術)の実施

暗渠排水


項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	A	施工面積 20ha程度以上
	B	施工面積 15ha程度以上
2. 技術的特性		
①工法等	B	基盤が軟弱で降雨の影響を受けやすい中で施工
	B	パイロット事業等(新技術)の実施

客土

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	A	施工面積 20ha程度以上
	B	施工面積 15ha程度以上
2. 技術的特性		
①工法等	B	ほ場の高低差が大きい(50cm以上)
	B	基盤が軟弱で降雨の影響を受けやすい中で施工
	B	大区画ほ場(60アール以上)で施工
	B	パイロット事業等(新技術)の実施

改良山成畑

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	A	施工面積 15ha程度以上
	A	扱ひ土量が 40,000m <sup>3</sup> 程度以上
	B	施工面積 10ha程度以上
	B	扱ひ土量が 30,000m <sup>3</sup> 程度以上
②形状	B	造成地の形状が不規則で施工難
2. 技術的特性		
①工法等	B	1ha未満の狭い造成範囲の施工
	B	10ha以上の広い造成範囲の施工で土砂流出に配慮した施工
	B	パイロット事業等(新技術)の実施

※  塗部は平成27年4月1日より削除

ほ場整備・農地造成1

階段畑

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	A	施工面積 15ha程度以上
	A	掘り土量が 40,000m <sup>3</sup> 程度以上
	B	施工面積 10ha程度以上
	B	掘り土量が 30,000m <sup>3</sup> 程度以上
②形状	B	造成地の形状が不規則で施工難
2. 技術的特性		
①工法等	B	現況急峻で表土扱い等に苦慮
	B	10ha以上の広い造成範囲の施工で土砂流出に配慮した施工
	B	パイロット事業等(新技術)の実施

土壌処理等

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	A	施工面積 15ha程度以上
	B	施工面積 10ha程度以上
②形状	B	施工地の形状が不規則で効率悪
2. 技術的特性		
①工法等	B	石礫の比率が30%以上と高い
	B	パイロット事業等(新技術)の実施



## ほ場整備・農地造成2

項 目	評価	事 例
3. 自然条件		
①湧水・地下水	B	地下水が計画より高く、湧水が多かったため、造成時の施工困難
	B	地下水位が高く排水設備を設けて作業
②軟弱地盤	B	軟弱地盤層があり、造成時の施工困難
④気象・海象	B	降雨で均平作業が影響され時間を要した
	B	降雨により土砂の流出防止対策に苦慮
⑤その他	B	天然記念物、貴重動植物への配慮
4. 社会条件		
①地中障害物	B	ガス管、NTT、水道、下水道の埋設物有り、移設に苦慮
	B	岩、転石があり、掘削、均平に苦慮
②近接施工	B	供用中道路との近接施工
	B	施工箇所上空に電力架線があり注意を要す
	B	住宅等建築物と近接施工
③騒音、振動	B	工事が錯綜し調整を要する他業者との近接施工
	B	周辺住民に対する騒音、振動の配慮（低振動、低騒音）
	B	騒音振動対策のため特殊工法を採用の必要
	B	振動による工事時間制限あり
④水質汚濁	B	下流漁協から濁水、コンクリートのあく対策の注文
⑤作業用道路・ヤード	B	造成区域内、現道路側での工事、作業スペースの制限有り
	B	隣接工事が多く、作業用道路の使用規制が多い
⑥現道作業	B	資材搬入に際し、片側通行規制
⑦その他	B	コンクリート等の殻を再利用
	B	工区内の伐採材の処理に苦慮
5. マネジメント特性		
①他工区調整	B	作業用道路が隣接工区と供用するため調整困難
	B	工事範囲が他工事の作業用道路となるため他工事と調整必要
	B	搬入路を複数工事で利用
	B	近隣工事施工者との調整必要
②住民対応	A	困難な住民対応が予想されたが住民へのコミュニケーション対応が良く、工事遂行
	B	下流漁業組合との調整
	B	近接住民に、工程などを事前、随時に説明
	B	地域住民との施工時間の調整
	B	近接家屋からの排水施設調整
	B	農道及び生活道路を利用して資機材搬入のための住民対応
	B	学識経験者及び自然の会などの意見調整
	B	会社施設(工場、事業所)との調整
B	水利組合等との協議調整	
③関係機関対応	B	JR、JH、NTT、電力、ガス、上下水道、有線放送、国道、市町道等の管理者との協議
	B	国立公園、国有林、民有保安林が絡む現場で、協議のため関係機関と対応
	B	環境省(自然公園法)、文化庁(文化財保護法)との調整
	B	林野庁、森林管理署等との調整
④工程管理	B	契約当初より工期、工程条件が厳しい工事条件に対し対応
	B	冬期間における施工のため工程管理上の制約
	B	工法変更に伴う工程調整に困難を要した
	B	増工、新規工種発生による工程変更が生じた
	B	変更、一時中止で工程管理への影響に対応
	B	想定外の地中障害物への工程管理苦慮
	B	隣接工事との工程調整
B	文化財発掘調査の為に日数を要し、工程管理対応	
⑤品質管理	B	暑中及び寒中コンクリートの施工となる箇所があり養生、品質管理重要
	B	降雨の中での工事、作業に対して安全管理が特に必要
	B	崩壊箇所があり、法面の挙動観測等厳しい管理が必要
	B	一部県道、市町道沿いの工事のため一般交通車両の安全に注意
B	複数の他工区が隣接しているため安全協議会を作り事故防止必要	

### 水路工・畑かん施設1

#### 開水路

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	B	水路断面積 現場打ちで 20m <sup>2</sup> 以上
	B	水路壁高 5m程度以上
②形状	B	水路線形R=50m程度以下の現場打ち
	B	全体の水路線形が30%以上が曲線施工(現場打ち、2次製品とも)
	B	2断面又は一部張り出し構造の現場打ち水路
③その他	B	転石等の障害物の存在
	B	既設埋設物等の存在
2. 技術的特性		
①工法等	B	自然石の使用
	B	地盤改良工に、高度、特殊技術で対応
	B	家屋などへの影響から土留工を無振動工法打設し埋殺した
	B	パイロット事業等(新技術)の実施

#### 暗渠工(函渠工)

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	B	水路断面積 現場打ちで 20m <sup>2</sup> 以上
	B	水路内高 5m程度以上
②形状	B	水路線形R=50m程度以下の現場打ち
	B	全体の水路線形が30%以上が曲線施工(現場打ち、2次製品とも)
	B	2断面又は一部張り出し構造の現場打ち水路
③その他	B	転石等の障害物の存在
	B	既設埋設物等の存在
2. 技術的特性		
①工法等	A	台船等による水上施工
	B	円形断面による断面
	B	地盤改良工に、高度、特殊技術で対応
	B	家屋などへの影響から土留工を無振動工法打設し埋殺した
	B	パイロット事業等(新技術)の実施

#### 管水路RC管、VP管

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	B	施工延長 VPφ1500mm以上、RCφ2000mm以上で延長 200m以上
②形状	B	水路線形の曲管比率が 30mに1本程度
	B	最大勾配15° 程度以上
③その他	B	転石等の障害物の存在
2. 技術的特性		
①工法等	B	簡易土留工法等で搬入口を設け横吊り布設で施工
	B	ジオグリッド工法等により浅埋設
	B	地盤改良工に高度、特殊技術で対応
	B	パイロット事業等(新技術)の実施

### 水路工・畑かん施設1

管水路DCIP管、FRPM管、SP管

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	B	DCIP管φ1000mm以上で施工延長1,000m以上
	B	FRPM管φ1500mm以上で施工延長400m以上
	B	SP管φ2000mm以上で施工延長200m以上
②形状	B	水路線形の曲管比率が30mに1本程度
	B	最大勾配15°程度以上
③その他	B	転石等の障害物の存在
2. 技術的特性		
①工法等	B	簡易土留工法等で搬入口を設け横吊り布設で施工
	B	シオグリット工法等により浅埋設
	B	地盤改良工に高度、特殊技術で対応
	B	パイロット事業等(新技術)の実施

コルゲート管、その他

項目	評価	事例
2. 技術的特性		
①工法等	B	簡易土留工法等で搬入口を設け横吊り布設で施工
	B	シオグリット工法等により浅埋設
	B	地盤改良工に高度、特殊技術で対応
	B	パイロット事業等(新技術)の実施

サイフォン工

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	A	掘削深さが10m以上
	B	掘削深さが5m以上
	B	口径2,000mm以上
②形状	B	逆サイホン構造
③その他	B	河川の掘削
2. 技術的特性		
①工法等	B	パイロット事業等(新技術)の実施

水路橋大規模RC構造(橋長30m以上)

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	B	最大支間長50m以上
	B	マスコンクリート
	B	支保工高20m程度以上
	B	橋脚10径間以上
②形状	B	R=200m未満の曲線橋
	B	アーチ橋
	B	斜角が75度程度未満
	B	RCホー桁
	B	RC立体ラーメン橋
③その他	B	既設RC桁の損傷度を調査、工法の決定、施工
	B	床版打換え
	B	増桁補強
2. 技術的特性		
①工法等	B	上部桁補強、床版補強
	B	パイロット事業等(新技術)の実施
②その他	B	支保工ベースの沈下対策及び床版コンクリート打設順序に関し提案
	B	桁下空間に制限があるため型枠支保工解体移動に特別対策の提案
	B	コンクリート補修に関し技術提案

### 水路工・畑かん施設1

水路橋大規模PC構造(橋長30m以上)

項目	評価	事例
<b>1. 構造物条件</b>		
①規模	A	床版長(最大支間長 70m以上)
	A	ラーメン橋、アーチ橋、斜張橋、トラス橋、その他(最大支間長 150m以上)
	A	PC斜交アーチ(最大支間長 50m以上)
	B	床版長(最大支間長 50m以上)
	B	ラーメン橋、アーチ橋、斜張橋、トラス橋、その他(最大支間長 100m以上)
②形状	A	非対称エクストラース橋
	B	R=200m未満の曲線橋
	B	変断面
	B	斜角が 75度程度未満
	B	不等径間割り
	B	PCホロー桁
	B	多径間連続ラーメン箱桁
③その他	B	横断勾配の折れ点、反曲点があるため横断勾配の変化が複雑
	B	既設PC桁の損傷度を調査、工法の決定、施工
	B	橋脚補強に鋼板巻立て、炭素繊維巻立て等を実施
	B	床版打換え
	B	増桁補強
<b>2. 技術的特性</b>		
①工法等	B	パイロット事業等(新技術)の実施
	B	片持架設工法
	B	押出架設工法
	B	移動支保工架設工法
	B	プレキャストを工場で作製、良質な桁を製作
	B	外ケーブルによる補強及び鋼板接着
	B	コンクリートの耐久性向上に新材料を採用
	B	河川を横断する支柱式支保工での現場施工
	B	ステーキングによるホスティング工法
	②その他	B
B		床版老朽化対策の提案(鋼板接着工法)
B		斜材工にプレファブケーブル、横締めにあふターボンドを提案・採用、コスト縮減

水路橋小規模

項目	評価	事例
<b>1. 構造物条件</b>		
①規模	A	橋台高さ 7m以上
	A	断面積 10m <sup>2</sup> 以上かつ橋長 20m以上
	B	橋台高さ 5m以上
	B	断面積 5m <sup>2</sup> 以上かつ橋長 10m以上
②形状	B	景観等に配慮した形状
③その他	B	転石等の障害物の存在
<b>2. 技術的特性</b>		
①工法等	A	特殊基礎工(ケーソン、井筒、鋼管杭)
	A	仮設工にガンザホールハンマー工法を採用
	B	地盤改良工に特殊技術で対応
	B	水中での仮締切
	B	家屋等への影響から土留工を無振動工法打設し埋殺し施工
	B	パイロット事業等(新技術)の実施

### 水路工・畑かん施設1

#### 水管橋大規模

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	A	最大支間長 60m以上
	A	アーチ上からの高さ 10m以上、柱長 20mの橋脚
	B	最大支間長 50m以上
	B	アーチ上からの高さ 7m以上、柱長 15mの橋脚
②形状	B	R=200m未満の曲線橋
	B	変断面
	B	斜角が 75度程度未満
	B	連続橋、ラーメン橋、ランガー橋

#### 水管橋小規模

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	A	橋台高さ 7m以上
	A	口径 1,500mm以上かつ橋長 30m以上
	B	橋台高さ 5m以上
	B	口径 1,000mm以上かつ橋長 20m以上
②形状	A	ハーフビーム形式以外の水管橋
	B	管理用歩廊がある
③その他	B	転石等の障害物の存在
2. 技術的特性		
①工法等	A	特殊基礎工(ケーソン、井筒、鋼管杭)
	A	仮設工にタンガホルンマー工法を採用
	B	地盤改良工に特殊技術で対応
	B	水中での仮締切
	B	家屋等への影響から土留工を無振動工法打設し埋殺し施工
	B	パイロット事業等(新技術)の実施

#### 揚水機場(加圧)

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	B	揚水流量 0.3m <sup>3</sup> /s以上
②形状	B	景観等に配慮し構造が複雑
③その他	B	既設構造物の補強
2. 技術的特性		
①工法等	B	基礎地盤の改良等
	B	パイロット事業等(新技術)の実施

#### 末端パイプライン

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	B	施工延長 2,000m程度以上
②形状	B	線形の曲線比率で曲管が 30mに1本程度以上
	B	付帯施設(空気弁等)が多い
③その他	B	転石等の障害物の存在
2. 技術的特性		
①工法等	A	台船等による水上施工
	B	パイロット事業等(新技術)の実施

### 水路工・畑かん施設1

#### 散水施設

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	B	施工面積 15ha以上
②形状	B	施工範囲の形状が不規則で複雑
2. 技術的特性		
①工法等	B	パイロット事業等(新技術)の実施

#### 調整水槽PCタンク

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	B	容量 7,000m <sup>3</sup> 程度以上
	B	水槽高さ 15m以上
②形状	B	地形等から形状が複雑
③その他	B	転石等の障害物の存在
	B	既設水槽の補強
2. 技術的特性		
①工法等	B	高さ10m以上又は直径30m以上の現場打ち施工
	B	基礎地盤の改良等
	B	パイロット事業等(新技術)の実施

#### 調整水槽RCタンク

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	B	容量 1,500m <sup>3</sup> 程度以上
	B	水槽高さ 5m以上
②形状	B	地形等から形状が複雑
③その他	B	転石等の障害物の存在
	B	既設水槽の補強
2. 技術的特性		
①工法等	B	構造が複雑な現場打ち施工
	B	基礎地盤の改良等
	B	パイロット事業等(新技術)の実施

## 水路工・畑かん施設2

項目	評価	事例	
3. 自然条件			
①湧水・地下水	B	地下水位が高く掘削時の止水重要	
	B	湧水あり。掘削時及び法面処理時対応	
	B	水替工による周辺の地下水位低下により地盤沈下、井戸枯等の恐れあり	
	B	湧水によりオープン工法を土留工法に変更	
	B	湧水対策として止水工を実施	
	B	地下水が高くウエルポイント施工	
	B	湧水が多く作業に制約	
	B	仮締切施行内における多量の浸透水の水替えが必要	
	B	地下水位が高く床掘時の法面保護に苦慮	
	②軟弱地盤	A	超軟弱地盤(有明粘土、ヘドロ等)
		B	支持層の変化が複雑で対応工法に工夫を要す
		B	不良個所所在
		B	軟弱層20～25m
		B	厚い粘性土層である
		B	軟弱地盤上での盛土工事
B		モニタリング施工、軟弱地盤上での盛土に際し、沈下観測しながらの施工	
B		転石層があり杭打ち施工が困難	
B		固結工(薬液注入)実施	
B		基礎地盤が軟弱で置き換え施工実施	
B		不等沈下防止のため深層混合処理の実施	
B		軟弱支持層の地盤改良に困難	
B		作業基盤用の表層改良実施	
B		砂質土での法勾配確保に置換土処理実施	
B		ブロック据付箇所が軟弱のためトンネルずりを利用し置き換え施工	
B	築堤時すべり破壊に対応する軟弱地盤固化工法に高度な技術を要す		
B	施工箇所が圧密により地盤沈下を生じるため、プレロードを実施		
③作業用道路・ヤード	B	河川内工事のため搬入路に制限多し(高水敷が狭い)	
	B	河川内に工事用道路(仮橋)の必要性が生じた	
	B	河川内の施工で作業スペースに制約	
	B	河川内工事で堤防天端を一部交通規制	
	B	急峻な地形条件のもとでの施工	
	B	岩盤のため仮締切に制約有り、作業ヤード狭い	
	B	一方向からしか作業が出来ない状況	
	B	作業ヤードが狭く、大規模な仮設(構台工)が必要	
	B	埋め戻し土の仮置きスペースが狭い	
	B	水替及び地盤改良時のヤード狭小	
	B	狭隘な堤防小段等での施工	
	B	高水敷が狭く作業ヤードを十分確保できない状況	
	B	道路と河川にはさまれた狭い施工ヤードの確保	
	B	採取土運搬に軟弱高水敷を地盤改良して使用	
	B	工事用道路、作業ヤードに地形的制約有り	
B	工事用地が限られておりヤード及び進入路とも厳しい条件		
④気象・海象	A	緊急災害復旧工事であり、雨及び出水など条件の悪い中で実施	
	B	冬期における積雪、低温の状況下で施工を行う必要(積雪1m程度以上、気温-5℃程度以下)	
	B	豪雨時の対応を適切に予測、対策	
	B	出水期(梅雨)の工事であり、治水上安全でかつ流出しない仮設が必要	
	B	出水期間の工事であり仮設等の一時撤去等の制約あり	
	B	高水敷高までの仮締切のため中小洪水で越水の恐れ有り	
	B	天候及び河川水位状況を監視しながらの作業	
	B	出水により仮締切堤の流出	
	B	梅雨時期をはさみ現場の保守管理に困難を要す	
	B	冬季の雪対策	
	B	融雪出水により本川水位が計画仮締切高を越えた	
	B	強風のため施工中は場内での作業全般に注意を要した	
	B	感潮区間での作業(潮待ち、仮締切り等)	
	B	河口部及び海岸に面しているため波浪の影響を受けやすい	
	⑤その他	A	水位の急激な上昇への迅速な対応(洗堀防止対策)
B		堤防開削を伴う工事、河川水位等自然条件に配慮しながら工事実施	
B		地滑り及び出水の影響がある	
B		施工区域の一部が何らかの影響で水中作業となる	
B		河川内施工により仮締切等の設置が難	
B	流速が1m/s以上の急流		

## 水路工・畑かん施設2

項 目	評価	事 例
⑤その他	B	活火山より噴石、降灰
	B	夜間施工
	B	天然記念物、貴重動植物への配慮
	B	周辺に存在するカワセミの営巣地に配慮した施工
	B	ヨシ原等自然植物への配慮
4. 社会条件		
①地中障害物	A	不発弾調査、処理の実施
	B	不発弾の調査を実施
	B	ガス管、NTT、水道、下水道の埋設物有り、移設に苦慮
	B	水道、NTT管等が近くに埋設されておりそれを確認しながらの施工
	B	上水道の移設を含む工事
	B	河川横断施工で既設護岸に矢板が施工されておりその下を横断させる施工
	B	既設構造物の基礎の状況が不明であり開削後の確認となり早急な施工条件の変更対応
	B	転石、岩、埋設物等により矢板位置の変更
	B	転石、岩等がありロックオーガーによる掘削後矢板等の施工
	B	多量のコンクリート殻あり
②近接施工	B	鉄道営業線に近接した施工から厳しい規制の中ででの施工
	B	JR鉄橋の直下の施工で重機の制限
	B	供用中道路との近接工事(地方主要道又は日交通量3万台程度以上)
	B	供用中の道路敷地内での作業
	B	施工箇所上空に高圧架線があり施工に影響を及ぼす
	B	住宅等に近接した施工(人家密集、建築物連担地区)
	B	病院に隣接した工事(騒音、振動の配慮等)
	B	工事が錯綜し調整を要する他業者との近接施工(進入路の供用、工程調整等)
	B	他の公共工事等との近接施工
	B	施工済みの主要施設(機場、水槽等)への連結施工
B	工事用道路等の設置条件が厳しく、施工ヤードの制約	
③騒音、振動	A	着工前に事業損失調査及び騒音振動調査を実施し慎重に施工
	B	周辺住民への配慮から振動測定及び聞き取り調査等必要
	B	病院に隣接した工事で極力、騒音振動を出さないように配慮
	B	騒音振動対策のため特殊工法を採用(地盤改良、矢板打設、杭打ち等)
	B	騒音、振動による工事時間制限有り
④水質汚濁	B	濁水等漁協への配慮が必要
	B	養殖場(川、海)への配慮が必要(濁水、コンクリートのあく対策)
	B	河川内工事で、鮎等に対しての配慮必要
	B	下流に止水水源等があり水質汚濁防止対策に配慮が必要
	B	施工区域周辺に多数井戸があるため事前及び事後調査を実施
	B	公共下水の水質基準を守るため水質管理を実施
	B	下流河川等に対して、水質汚濁防止対策を実施
	B	浚渫及び盛土に関して濁水に配慮し特殊な濁水設備を実施
B	絶滅危惧種である「チヌジノリ」の生息地であるため汚濁に注意	
⑤作業用道路・ヤード	B	生活道路を車両通行止めしての工事で資材搬入に際し車両制限
	B	生活道路を利用しての工事用資機材搬入
	B	通学路など生活道路の一時通行止
	B	一般交通を確保しながら隣接する水路等の工事を施工
	B	進入路及び工事用道路が民地出入口と供用
	B	市町村道の横断で仮回し道路を確保対して施工
	B	現道を利用して狭隘なヤード内での作業
	B	橋梁下で作業スペースの制約
	B	一般者がある施設等に行くのに、工事用地を通過するため対策工及び協議が必要
	B	住宅地出入り及び耕作のために仮橋等で対応
B	作業ヤードが狭く自主的に民地を借り上げた	
⑥現道作業	A	交通規制を伴う夜間作業
	B	公道上で交通整理員を24時間配置しての片側交互通行規制での工事
	B	資材搬入に際し現道等の片側通行規制
	B	工事区域内に市道等があり、作業中は交通止め、作業時以外は復旧し供用(日々)
	B	主要地方道を横断するため仮回し道路設置して対応
⑦その他	A	泥水式シールド掘削土砂の2次処理土の再利用(従来は産業廃棄物として処理)
	B	コンクリート等の殻の再利用
	B	焼却灰の処理に配慮
	B	工区内の雑木伐採の処理に苦慮
	B	旧施設撤去に伴う廃棄物が大量に発生と処理



## 水路工・畑かん施設2

項 目	評価	事 例	
5. マネジメント特性			
①他工区調整	B	作業用道路が隣接工区と共用するため調整困難	
	B	工事範囲が他工事の作業用道路となるため他工事と調整	
	B	搬入路を複数工区で利用	
	B	搬入土仮置きヤードが他工事と同一箇所、運搬台数の調整必要	
	B	他工事への建設発生土の運搬調整	
	B	他工事から発生する建設発生土を利用するので工程調整必要	
	B	近隣の工事施工者との工程調整必要	
	B	同一現場内で土木工事、機械設備工事等を施工するため高度な調整必要	
	B	他工事との仮排水路工等調整に苦慮	
	B	JR委託工事等との重複工事	
	B	他工区と作業帯離隔に伴う工程調整	
	②住民対応	A	困難な住民対応が予想されたが住民へのコミュニケーション対応が良く、工事遂行
		B	沿道住民(漁業関係者)との対応を頻繁に実施
		B	水路等施工に際し水田所有者等との協議、調整
		B	隣地の耕作者への対応
		B	農業水利組合との取水設備等の協議、調整
		B	振動対応として事前、随時にコミュニケーションをはかりつつ実施
B		近隣住民に工程を事前、随意に説明	
B		休日施工など近隣住民に対し、その都度周知するなど特別な配慮	
B		多自然型護岸座談会を開催し、委員による現地指導を受けながら施工	
B		地域住民との施工時間の調整	
B		住宅近接、事業損失調査等自主的に実施	
B		近接家屋からの排水施設調整	
B		近隣住民から環境対策の徹底の要望に対処	
B		通行規制を伴う為、チラシ作成、立看板を作成し道路利用者に周知	
B		通学路、スクールゾーンでの安全、地元自治体、学校自治会などと協議、調整	
B		民家出入り口調整、耕地等への出入り口調整	
B		迂回路設定時における要望などへの対応	
B		農道及び生活道路を利用して資機材搬入のための住民対応	
B		歩道切り直し及び出入りに関わる周辺住民対応	
B		通行止めに伴う各自治会の承諾	
B		学識経験者及び自然の会などの意見調整	
B		会社施設(工場、事業所)との調整	
B		リゾート施設内(ゴルフ場、スキー場、キャンプ場)で作業時間等の調整	
B		隣接の小学校、神社及び樹木の取扱い調整	
B		店舗関係者との調整	
B		用地買収、借地等での住民対応が必要	
B		地元町内会、マンション自治会、深夜営業店等との対応	
B	多数の地権者との境界調整を伴う工事		
B	官民境界付近の工事であり、調整必要		
B	水利組合との調整		
③関係機関対応	B	JR、JH、NTT、電力、ガス、上下水道、有線放送、国道、市町道等の管理者との協議	
	B	警察、公安委員会との調整	
	B	国立公園、国有林、民有保安林が絡む現場で、協議のため関係機関と対応	
	B	環境省(自然公園法)、文化庁(文化財保護法)との調整	
	B	林野庁、森林管理局、森林管理署等との調整	
	B	教育委員会との調整	
④工程管理	B	消防署との協議	
	B	契約当初より工期、工程条件が厳しい工事条件に対処	
	B	イベント会場等であり、イベント等の行程に合わせて施工を行う必要	
	B	外、内水面漁協からの制約を受け工程厳しい	
	B	鮎釣り解禁を控え、工程短縮の要請	
	B	7月末までの工期であるが田植期前までに概成	
	B	農業用水取水時期までに水路を完成する必要	
	B	用地問題及び変更への対応	
	B	観光地であることから早期完成の要請	
	B	植樹、植栽期間が制限され工期制約	
	B	出水期までの早期完成	
	B	出水対応による工程管理	
	B	冬期間における施工のため工程管理上の制約	
	B	施工箇所が山間部等で時期的にも気象状況に左右されやすい	
B	緊急災害復旧工事における早期完成		

## 水路工・畑かん施設2

項 目	評価	事 例
④工程管理	B	工事搬入路である一般国道の災害及び交通止めによる工程影響
	B	工法変更に伴う工程調整に困難を要した
	B	増工、新規工種発生による工程変更が生じた
	B	変更、一時中止で工程管理への影響に対応
	B	想定外の地中障害物への工程管理苦慮
	B	地質変化等、条件変更に伴う工程の対応
	B	標準断面契約で工期に制約のあるなか対応
	B	概略発注に伴う設計変更等、工程管理
	B	地質調査、検討、測量、設計が工事に含まれており、工程管理上の制約
	B	週休二日制モデル工事
	B	先行工事の遅れにより工期の延期及び施工順序の見直しが必要
	B	他工事(機械工事、電気工事、上屋建築工事、県発注改修工事等)との工程調整(他工事への影響大)
	B	隣接工事との工程調整
	B	用地買収進捗率等による規制
	B	点在している工区の工程調整
	B	文化財発掘調査の為に日数を要し、工程管理対応
	⑤品質管理	B
B		標高が高く、急激な温度等の変化に対する品質管理が必要
B		施工試験、配合試験の実施による品質確保の検証
B		品質管理法の工夫必要
B		基礎工及び盛土工の現場密度管理に十分な注意が必要
B		床固及び護岸表面の石張り施工品質管理
⑥安全管理	B	地盤改良材の品質管理
	B	急峻な地形での作業
	B	高さ30mの法面で命綱による危険作業
	B	切土高が高く地山の崩壊などの安全管理
	B	狭所作業における重機挟まれに対する安全管理
	B	緊急災害復旧工事での安全管理
	B	交通量が多い現道上での夜間作業の安全管理
	B	坑内作業が主であり危険
	B	基盤面が水面下のため潜水作業
	B	雨の中での工事、作業に対して安全管理が特に必要
	B	崩壊箇所のため、法面の挙動観察等厳しい管理が必要
	B	県道、市町道内施工のため一般交通車両の安全に注意
	B	現道切り直し施工における安全管理
	B	他工事と上下作業等になる事から連絡調整必要
	B	複数の他工区が隣接しているため安全協議会を作り事故防止
B	有害特定化学物質の除去作業における安全対策、特別産業廃棄物に準じた安全対策	
⑦その他	B	災害応急復旧工事
	B	集中豪雨の復旧工事に迅速に対応
	B	台風後の応急的工事
	B	施工内容、ICカード試験フィールド
	B	リサイクルモデル工事の一般公開工事
	B	建設CALSへの取り組み
B	地元住民の多自然型護岸に対する理解を深めるため「護岸作り(植樹)」イベントを開催	
B	見学者対応に積極的に協力	

ため池1

谷池

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	A	堤体高さ 15m以上
	B	堤体高さ 10m以上
2. 技術的特性		
①工法等	B	材料運搬、計量、混練、品質管理に関し、特殊、高度技術
	B	ばらつきが大きい盛立材料、従来不良とされた盛立材料の活用
	B	アスファルト等の土質以外の遮水壁を採用
	B	遮水グラウチングの品質制御、遮水効果計測技術に関し、特殊、高度技術
	B	堤内構造物にプレキャスト部材の活用
B	パイロット事業等(新技術)の実施	

皿池

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	A	池容量 100,000m <sup>3</sup> 以上
	B	池容量 50,000m <sup>3</sup> 以上
2. 技術的特性		
①工法等	B	材料運搬、計量、混練、品質管理に関し、特殊、高度技術
	B	ばらつきが大きい盛立材料、従来不良とされた盛立材料の活用
	B	アスファルト等の土質以外の遮水壁を採用
	B	遮水グラウチングの品質制御、遮水効果計測技術に関し、特殊、高度技術
	B	堤内構造物にプレキャスト部材の活用
B	パイロット事業等(新技術)の実施	

盛土(築堤)


項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	A	築堤高 10m以上
	A	築堤土量 20,000m <sup>3</sup> 以上
	B	築堤高 5m以上
	B	築堤土量 10,000m <sup>3</sup> 以上
2. 技術的特性		
①工法等	B	材料運搬、計量、混練、品質管理に関し、特殊、高度技術
	B	ばらつきが大きい盛立材料、従来不良とされた盛立材料の活用

取水施設

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	B	取水量が 1.0m <sup>3</sup> /s以上の斜縫、縦縫構造で多孔の取水施設
②形状	B	地形、景観等から構造が複雑
③その他	B	既設構造物の補強

洪水吐

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	B	洪水量 10m <sup>3</sup> /s程度以上
②形状	B	地形、景観等から構造が複雑
③その他	B	既設構造物の補強

※  塗部は平成27年4月1日より削除

ため池1

泥土浚渫

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	B	水深 5m以上
	B	浚渫量 20,000m <sup>3</sup> 以上
③その他	B	ヘドロ等の浚渫、仮置き、水切りの処理要
	B	橋梁下部工、護岸基礎根入れ、矢板護岸、異形ブロック周辺
2. 技術的特性		
①工法等	B	パイロット事業等(新技術)の実施
	B	中継ぎポンプ利用による長距離圧送(3km程度以上)
	B	浚渫ロボット
	B	浚渫土の分級、再利用
②その他	B	浚渫土のリサイクル技術提案
	B	排砂池の濁水処理施設を設置

## ため池2

項目	評価	事例
<b>3. 自然条件</b>		
①湧水・地下水	B	掘削による湧水多量
	B	過去の土石流堆積地で湧水多い
	B	床掘削削面の地層変化点からの湧水に苦慮
	B	掘削中湧水量が多く、施工時ポンプ排水を実施
②軟弱地盤	B	床掘削時の湧水量が多く、コンクリート打設完了まで常時ポンプ排水を実施
	A	地盤の支持力不足により、構造変更を余儀なくされた
	A	土石流の危険がある溪流、地形急峻で安全管理等の対応で困難
	B	不均質な基礎地盤
	B	スレーキングの著しい軟岩
	B	限界圧の低い軟岩
	B	幅5m程度以上の大規模断層、破碎帯が基礎に分布する
	B	ルゾン値50程度以上の高透水ゾーンが分布する
	B	厚い砂礫層が分布する
	B	土石流の危険がある溪流で降雨時に土砂流出有り
	B	急峻な地形、一部で崩壊有り。支持地盤は岩盤で一部弱層有り
	B	崖錘堆積物があり、崩れ易い地形での作業
③作業用道路・ヤード	B	湖岸の急峻な法面で施工区間も20～30mと短く作業スペース等の制約
	B	施工箇所の大部分が、ため池周辺の急勾配の斜面
	B	法面が急峻で掘削しながら整形
	B	仮置きする場所がない
④気象・海象	B	貯水池上の取水塔内での作業
	A	冬期は-20℃
	A	土石流の危険がある溪流、地形急峻で土石流に対する安全管理等の対応で工事困難
	B	降雨による出水の影響大、仮締切、水替に工夫
	B	活火山よりの噴石及び土石流
	B	土石流流下区間で、わずかな降雨で土砂流出
	B	土石流の危険がある溪流。集中豪雨による河床洗掘を受ける
	B	土石流の危険がある地区内での出水対応
	B	出水対応、土石流対応
	B	工期内で出水によるため池水位変動の中で工事を完了した
	B	出水によるため池水位の変動により、作業期間に制約がある
	B	厳寒期でのコンクリート打設
B	冬季の施工があり、工程等に制約あり	
B	緊急工事の為、豪雪地域で通年施工	
B	冬期は-10℃にさがる	
⑤その他	B	夜間施工
	B	天然記念物、貴重動植物への配慮
<b>4. 社会条件</b>		
①地中障害物	B	搬入路の一部に給湯管が埋設
	B	工事用道路に送水管(温泉)の埋設有り
②近接施工	B	連続する護岸工事有り
	B	複数の工事が近接施工
③騒音、振動	B	仮設道路を使用する複数の別件の工事があり
	B	工事用道路が住宅地の狭い村道を通る
	B	集落内を徐行運転する必要があった
	B	温泉源、送水管(温泉)への影響配慮
④水質汚濁	B	周辺住民に対する騒音振動に配慮
	B	濁水等漁協への配慮が必要
	B	下流付近にやまめの養殖場があり、床堀、生コン打設等の施工時には配慮
	B	沢水を農業用水に利用しているため、濁水対策が必要
	B	下流に上水水源が有り、水質汚濁防止策を実施
	B	下流部の旅館、釣り客に配慮し、沈殿池を設置
⑤作業用道路・ヤード	B	中和設備(グラウト材)を設置
	B	一般道路(1車線)を利用した土砂運搬
	B	交互通行の不可能な狭い町道を利用した資材運搬
	B	運搬道路(町道)が狭く長いので待避所を設けたり、無線連絡をとりつつ地元車優先で対応
	B	生活観光道路としての通路を確保しての作業
	B	工事用道路が住宅地の狭い村道を通る
	B	土砂搬出のための大量のダンプトラックが公道を利用する
	B	現道を利用して狭隘なヤード内での作業
	B	土取場で土石採取の複数の会社が競合
B	溶岩原に仮設道路を新設	

## ため池2

項目	評価	事例
⑤作業用道路・ヤード	B	迂回路無し
⑥現道作業	A	交通規制を伴う夜間作業
	B	公道上で交通整理員を24時間配置しての片側交互通行規制での工事
	B	資材搬入に際し片側通行規制
	B	工事区域内に市道等があり、作業中は交通止め作業時以外は復旧し供用(日々)
	B	現道(兼用道路)を交通止めしての資材運搬
⑦その他	A	国立公園特別保護地区内
	B	コンクリート等の殻の再利用
	B	多量の焼却灰の処理
	B	多量の伐採材の処理
5. マネジメント特性		
①他工区調整	B	作業用道路が隣接工区と供用するため調整困難
	B	工事範囲が他工事の作業用道路となるため他工事と調整
	B	搬入路を複数工事で利用
	B	搬入土仮置きヤードが他工事と同一箇所。運搬台数の調整必要
	B	他工事への建設発生土の運搬調整
	B	土石流危険渓流による他工事との調整
	B	近隣工事施工者との調整必要
	B	床固を左右岸で隣接しての施工で行程等調整事項が多い
	B	他工事との仮排水路等調整に苦慮
	B	災害復旧工事が錯綜しており、施工調整が難
	B	他工区と作業帯離隔に伴う工程調整
②住民対応	A	困難な住民対応が予想されたが住民へのコミュニケーション対応が良く、工事遂行
	B	沿道住民(漁業関係者)との対応を頻繁に実施
	B	湧水を利用した耕作者が多いため調整が困難
	B	周辺が水田地であり沈下等により用、排水の確保に配慮
	B	耕作地への取り付け道路及び集落内の採取土運搬で各種の対応
	B	地元へのビラや回覧、道路利用者への情報提供など地元調整を実施
	B	現場見学会、ご意見箱の設置など住民対応に積極的な取り組み必要
	B	住民への工事現場報告会を実施、沿道への月間工程表の配布及び直接対話
	B	市街地での沿線住民への対応
	B	井戸枯れ、排水処理及び振動騒音等の対応において地元調整
	B	地元から非常に厳しい要望のある中での工事、対応
	B	災害時における緊急工事に関する沿道、周辺住民への配慮
	B	振動騒音に対する内容確認と対応
	B	夜間作業での騒音振動対策(地元説明により夜間作業の理解をえる)
	B	通行規制を伴う為、チラシ作成、立看板を作成し道路利用者に周知
	B	通学路に当たり、自治体、学校自治会などと協議
	B	民地出入り口調整、田圃への出入り口調整
	B	店舗が多く出入り口等の調整が非常に多い
	B	迂回路設定時における要望等への対応
	B	農道及び生活道路を利用して資機材搬入のための住民対応
	B	歩道切り直し及び出入りに関わる周辺住民対応
	B	通行止めに伴う自治会の承諾
	B	学識経験者及び自然の会などの意見調整
	B	旅館利用者、登山者などへの配慮が必要
	B	リゾート施設内(ゴルフ場、スキー場、キャンプ場等)で作業時間等の調整
	B	隣接の小学校、神社及び樹木の取扱い調整
	B	温泉所有者との連絡調整有り
	B	用地買収、借地等での住民対応が必要
	B	地元町内会、マンション自治会、深夜営業店との対応
	B	多数の地権者との境界調整を伴う工事
	B	官民境界付近の工事であり、調整必要
	B	水利組合との協議調整
③関係機関対応	B	JR、JH、NTT、電力、ガス、上下水道、有線放送、国道、市町道等の管理者との協議
	B	警察、公安委員会との調整
	B	国立公園、国有林、民有保安林が絡む現場で、協議のため関係機関と対応
	B	環境省(自然公園法)、文化庁(文化財保護法)との調整
	B	林野庁、森林管理局、森林管理署等との調整
	B	教育委員会との調整
	B	消防署との協議
④工程管理	B	集中工事期間内での工事のため工期、工程に制約
	B	5月の連休前供用を図るため、工期を短縮

## ため池2

項 目	評価	事 例	
④工程管理	B	契約当初より工期、工程条件が厳しい工事条件に対処	
	B	外、内水面漁協からの制約を受け工程厳しい	
	B	鮎釣り解禁を控え、工程短縮の要請	
	B	7月末までの工期であるが田植期前までに概成	
	B	用地問題及び変更への対応	
	B	観光地であることから早期完成の要請	
	B	猛禽類配慮等による工期の制約	
	B	植樹、植栽期間が制限され工期制約	
	B	土石流発生の危惧のため出水期までの早期完成	
	B	冬期間における施工のため工程管理上の制約	
	B	施工箇所が山間部で時期的にも気象状況に左右されやすい	
	B	緊急災害復旧工事における早期完成	
	B	工事搬入路である一般国道の災害及び交通止めによる工程影響	
	B	工法変更に伴う工程調整に困難を要した	
	B	増工、新規工種発生による工程変更が生じた	
	B	変更、一時中止で工程管理への影響に対応	
	B	想定外の地中障害物への工程管理苦慮	
	B	地質変化等、条件変更に伴う工程の対応	
	B	標準断面契約で工期に制約のあるなか対応	
	B	概略発注に伴う設計変更等、工程管理	
	B	地質調査、検討、測量、設計が工事に含まれており、工程管理上の制約	
	B	週休二日制モデル工事	
	B	先行工事の遅れにより工期の延期及び施工順序の見直しが必要	
	B	他工事(機械工事、電気工事、上屋建築工事、県発注改修工事等)との工程調整(他工事への影響大)	
	B	隣接工事との工程調整	
	B	用地買収進捗等の規制	
	B	点在している工区の工程調整	
	B	文化財発掘調査の為に日数を要し、工程管理対応	
	⑤品質管理	B	暑中及び寒中コンクリートの施工となる箇所があり養生、品質管理重要
		B	標高が高く、急激な温度等の変化に対する品質管理が必要
B		施工試験、配合試験の実施による品質確保の検証	
B		品質管理法の工夫必要	
B		中詰土の現場密度管理に十分な注意が必要	
B		床固及び護岸表面の石張り施工品質管理	
B		仮排水トンネル閉塞工のグラウトの品質管理、濁水処理水の放流濁度管理実施	
⑥安全管理	A	土石流危険渓流、急峻で崖錘堆積物が多く、崩落の危険性大	
	B	土石流危険渓流、地形急峻	
	B	安全協議会を設置し、山体監視、地震計監視、サイレン等を共有設置	
	B	活火山の噴石及び小雨で発生する泥流、土石流対策	
	B	切土高が高く、作業箇所が狭小であるため、上下作業にならない機械及び作業員の設置	
	B	高さ30mの法面で命綱による危険作業	
	B	切土高が高く地山の崩壊などの安全管理	
	B	狭所作業における重機挟まれに対する安全管理	
	B	緊急災害復旧工事での安全管理	
	B	交通量が多い現道上での夜間作業の安全管理	
	B	坑内作業が主であり危険	
	B	降雨の中での工事、作業に対して安全管理が特に必要	
	B	崩壊箇所のため、法面の挙動観察等厳しい管理が必要	
	B	急勾配、急カーブ区間における車線切り回し施工、安全管理重要	
	B	現道切り回し施工における安全管理	
	B	他工事と上下作業になる事から連絡調整必要	
	B	複数の他工区が隣接しているため安全協議会を作り事故防止	
B	有害特定化学物質の除去作業における安全対策、特別産業廃棄物に準じた安全対策		
⑦その他	B	災害応急復旧工事	
	B	集中豪雨の復旧工事に迅速に対応	
	B	台風後の応急的工事	
	B	施工内容、ICカード試験フィールド	
	B	リサイクルモデル工事の一般公開工事	
	B	建設CALSへの取り組み	
	B	地元住民の多自然型護岸に対する理解を深めるため「護岸作り(植樹)」イベントを開催	
B	見学者対応に積極的に協力		
B	温泉源の温度測定を実施		

## 建築工事1

### 建築(倉庫、車庫等)

項目	評価	事例
1. 建物条件		
①規模	A	満建物の延べ面積 10,000㎡以上
	B	建物の延べ面積 3,000㎡以上10,000㎡未満
	C	建物の延べ面積 3,000㎡未
②構造	A	SRC造、S造(ビルト材の2方向ラーメン、大スパンの型鋼の2方向ラーメン)
	B	RC造、S造(型鋼の2方向ラーメン、大スパンの1方向ラーメン)
	C	CB造等簡易、S造(1方向ラーメン)
③形状	A	形状が複雑
	B	形状がやや複雑
	C	形状が複雑ではない
④その他	A	特に困難で高度な技術を要する構造補強または特殊工事
	B	評価A、C以外
	C	通常の技術で対応可能な構造補強または特殊工事
2. 技術特性		
①工法等	A	総階数9階以上又は建物高さ31m以上
	A	特殊仕様(特殊仕上げ、特殊杭工法、免震構造、一部PRC構造等)
	B	評価A、C以外
	C	総階数が2階以下
②その他	A	総プロ、パイロット事業対象工事で難しいものあり
	A	既存部分との競合度合いが複雑
	B	総プロ、パイロット事業対象工事のうち比較的簡単なもの
	B	既存部分との競合度合いがやや複雑
	C	評価A、Bに該当しない
	C	単独施工、既存部分との競合が無い

### 建築(庁舎、研修施設)

項目	評価	事例
1. 建物条件		
①規模	A	満建物の延べ面積 10,000㎡以上
	B	建物の延べ面積 3,000㎡以上10,000㎡未満
	C	建物の延べ面積 3,000㎡未
②構造	A	SRC造、S造(ビルト材の2方向ラーメン、大スパンの型鋼の2方向ラーメン)
	B	RC造、S造(型鋼の2方向ラーメン、大スパンの1方向ラーメン)
	C	CB造等簡易、S造(1方向ラーメン)
③形状	A	形状が複雑
	B	形状がやや複雑
	C	形状が複雑ではない
④その他	A	特に困難で高度な技術を要する構造補強または特殊工事
	B	評価A、C以外
	C	通常の技術で対応可能な構造補強または特殊工事
2. 技術特性		
①工法等	A	総階数9階以上又は建物高さ31m以上
	A	特殊仕様(特殊仕上げ、特殊杭工法、免震構造、一部PRC構造等)
	B	評価A、C以外
	C	総階数が2階以下
②その他	A	総プロ、パイロット事業対象工事で難しいものあり
	A	既存部分との競合度合いが複雑
	B	総プロ、パイロット事業対象工事のうち比較的簡単なもの
	B	既存部分との競合度合いがやや複雑
	C	評価A、Bに該当しない
	C	単独施工、既存部分との競合が無い



## 建築工事1

建築(美術館、研究施設等)

項目	評価	事 例
1. 建物条件		
①規模	A	満建物の延べ面積 10,000㎡以上
	B	建物の延べ面積 3,000㎡以上10,000㎡未満
	C	建物の延べ面積 3,000㎡未
②構造	A	SRC造、S造(ビルト材の2方向ラーメン、大スパンの型鋼の2方向ラーメン)
	B	RC造、S造(型鋼の2方向ラーメン、大スパンの1方向ラーメン)
	C	CB造等簡易、S造(1方向ラーメン)
③形状	A	形状が複雑
	B	形状がやや複雑
	C	形状が複雑ではない
④その他	A	特に困難で高度な技術を要する構造補強または特殊工事
	B	評価A、C以外
	C	通常の技術で対応可能な構造補強または特殊工事
2. 技術特性		
①工法等	A	総階数9階以上又は建物高さ31m以上
	A	特殊仕様(特殊仕上げ、特殊杭工法、免震構造、一部PRC構造等)
	B	評価A、C以外
	C	総階数が2階以下
②その他	A	総プロ、パイロット事業対象工事で難しいものあり
	A	既存部分との競合度合いが複雑
	B	総プロ、パイロット事業対象工事のうち比較的簡単なもの
	B	既存部分との競合度合いがやや複雑
	C	評価A、Bに該当しない
C	単独施工、既存部分との競合が無い	

## 建築工事2

項 目	評価	事 例
3. 自然条件		
①支持地盤	A	地下2階以上
	A	地下1階で深度10m以上または軟弱地盤
	B	地下1階
②土留・止水	B	地下無しで軟弱地盤
	C	特に困難でない
	A	湧水の発生が多く、掘削作業時の影響が大きい
③気象・海象	B	湧水の発生があるが、掘削作業時の影響が小さい
	C	湧水の発生がほとんど無く、掘削作業時の影響が無い
	A	施工制約が厳しい
④その他	B	施工制約がある
	C	特になし
	A	条件が厳しい・改修の場合で綿密な調査が必要
4. 社会条件		
①仮設条件	B	条件があるが対応容易・改修の場合で調査が必要であるが、対応容易
	C	特になし
	A	仮設条件の制約が厳しい
②地中障害物	B	仮設条件に制約があるが、対処は比較的容易
	C	特になし
	A	対処困難な障害物がある
③近接施工	B	障害物はあるが、対処は比較的容易
	C	特になし
	A	対処困難な近接物がある
④騒音、振動	B	近接物はあるが、対処は比較的容易
	C	特になし
	A	対処が困難で、特に慎重な対応が必要
⑤水質汚濁	B	騒音振動等に対する配慮が必要だが対処は比較的容易
	C	特になし
	A	対処が困難で、特に慎重な対応が必要
⑥その他	B	水質汚濁に対する配慮が必要だが対処は比較的容易
	C	特になし
	A	対処が困難で、特に慎重な対応が必要
5. マネジメント特性		
①他工区調整	B	該当するものがあるが、対処は比較的容易
	C	特になし
	A	特に困難な調整を要する他工区(近接工区)の請負者が複数ある
②住民対応	B	調整を要する他工区(近接工区)の請負者がある
	C	調整を要する他工区(近接工区)の請負者なし
	A	特に慎重な対応が求められる
③関係機関対応	B	一般的な対応が必要
	C	特に必要なし
	A	特に慎重な調整が必要
④工程管理	B	一般的な対応が必要
	C	特に必要なし
	A	特に困難な調整を要する他工区(近接工区)の請負者が複数ある
⑤品質管理	B	調整を要する他工区(近接工区)の請負者がある
	C	調整を要する他工区(近接工区)の請負者なし
	A	工期・工程が特に厳しい
⑥安全管理	B	執務しながらの改修工事で特に制約が多い
	C	標準的な工期・工程
	A	やや厳しい品質管理が必要
⑦その他	B	執務しながらの改修工事で制約が多い
	C	標準的な品質管理
	A	外来者の多い施設で、工事範囲が外来者・通行人等の動線と近接
⑧その他	B	外来者の多い施設だが、外来者・通行人等との明解な動線分離が可能
	C	特になし
	A	被災時の応急復旧工事
⑨その他	B	アスベスト等の処理が必要
	C	特になし
	A	PCB・SF6ガス・フロンガス等の処理が必要

## 建築工事(電気)1

### 電気(倉庫、車庫等)

項目	評価	事例
1. 設備システム		
①システム種別	A	照明制御(主要執務室の昼光利用照度制御)
	B	主要執務室のタイムスケジュール点滅制御
	C	照明制御なし
②システム規模	A	火災報知設備の受信機がR型
	B	火災報知設備の受信機がP型10回線以上かつ自動閉鎖設備と連動あり
	C	評価B未満
③その他	A	一般事務庁舎の延べ面積10,000㎡以上に相当
	B	一般事務庁舎の延べ面積3,000㎡以上10,000㎡未満に相当
	C	一般事務庁舎の延べ面積3,000㎡未満に相当
2. 技術特性	A	既存システムを使用しながら一部の既存を再利用するグレードアップ改修工事
	B	評価A、Cに該当しない
	C	既存撤去後に同程度のシステムを新設(システム完全停止が可能)
①工法等	A	総階数9階以上又は建物高さ31m以上
	A	免震構造または設備に影響の大きい耐震改修工事
	B	評価A、Cに該当しない
②その他	C	総階数が2階以下
	A	総プロ、パイロット事業対象工事で難しいものあり
	A	既存システムと複雑に競合する
③その他	B	総プロ、パイロット事業対象工事のうち比較的簡単なもの
	B	既存システムとやや複雑に競合する
	C	評価A、Bに該当しない
	C	単独施工、既存部分との分離可能

### 電気(庁舎、研修施設)

項目	評価	事例
1. 設備システム		
①システム種別	A	照明制御(主要執務室の昼光利用照度制御)
	B	主要執務室のタイムスケジュール点滅制御
	C	照明制御なし
②システム規模	A	火災報知設備の受信機がR型
	B	火災報知設備の受信機がP型10回線以上かつ自動閉鎖設備と連動あり
	C	評価B未満
③その他	A	一般事務庁舎の延べ面積10,000㎡以上に相当
	B	一般事務庁舎の延べ面積3,000㎡以上10,000㎡未満に相当
	C	一般事務庁舎の延べ面積3,000㎡未満に相当
2. 技術特性	A	既存システムを使用しながら一部の既存を再利用するグレードアップ改修工事
	B	評価A、Cに該当しない
	C	既存撤去後に同程度のシステムを新設(システム完全停止が可能)
①工法等	A	総階数9階以上又は建物高さ31m以上
	A	免震構造または設備に影響の大きい耐震改修工事
	B	評価A、Cに該当しない
②その他	C	総階数が2階以下
	A	総プロ、パイロット事業対象工事で難しいものあり
	A	既存システムと複雑に競合する
③その他	B	総プロ、パイロット事業対象工事のうち比較的簡単なもの
	B	既存システムとやや複雑に競合する
	C	評価A、Bに該当しない
	C	単独施工、既存部分との分離可能

## 建築工事(電気)1

電気(美術館、研究施設等)

項目	評価	事 例
1. 設備システム		
①システム種別	A	照明制御(主要執務室の昼光利用照度制御)
	B	主要執務室のタイムスケジュール点滅制御
	C	照明制御なし
	A	火災報知設備の受信機がR型
	B	火災報知設備の受信機がP型10回線以上かつ自動閉鎖設備と連動あり
	C	評価B未満
②システム規模	A	一般事務庁舎の延べ面積10,000㎡以上に相当
	B	一般事務庁舎の延べ面積3,000㎡以上10,000㎡未満に相当
	C	一般事務庁舎の延べ面積3,000㎡未満に相当
③その他	A	既存システムを使用しながら一部の既存を再利用するグレードアップ改修工事
	B	評価A、Cに該当しない
	C	既存撤去後に同程度のシステムを新設(システム完全停止が可能)
2. 技術特性		
①工法等	A	総階数9階以上又は建物高さ31m以上
	A	免震構造または設備に影響の大きい耐震改修工事
	B	評価A、Cに該当しない
	C	総階数が2階以下
②その他	A	総プロ、パイロット事業対象工事で難しいものあり
	A	既存システムと複雑に競合する
	B	総プロ、パイロット事業対象工事のうち比較的簡単なもの
	B	既存システムとやや複雑に競合する
	C	評価A、Bに該当しない
C	単独施工、既存部分との分離可能	

## 建築工事(電気)2

項目	評価	事 例
<b>3. 設備システム複合条件</b>		
①システム間複合度	A	通信関係の工事種目が8以上で、連携する工事種目が4以上又は光ファイバーを使用するLAN設備がある
	B	評価A、C以外又はメタルワイヤーLAN備がある
	C	設通信関係の工事種目が5以下で、連携する工事種目及びLAN設備なし
②システム複雑度	A	受変電設備容量1,000kVAを超える高圧閉鎖型配電盤、常用発電(コージェネを含む)、スポットネットワーク受電、特別高圧受電、その他特に複雑なシステムがある
	B	受変電設備容量が1,000kVA以下のキューピクル型配電盤であり、かつ非常用自家発電設備、UPS、太陽光発電等のいずれかがある
	C	特になし
③その他	A	RI取り扱い施設、電磁シールドルーム、バイオハザード、クリーンルーム、恒温恒湿室等あり特殊映像設備等あり・その他施工が難しい設備がある
	B	実験設備、特殊照明設備、特殊音響設備、特殊映像設備等あり・その他特に施工が難しい設備がある
	C	特になし
<b>4. 社会条件</b>		
①仮設条件	A	仮設条件の制約が厳しい
	B	仮設条件に制約があるが、対処は比較的容易
	C	特になし
②地中障害物	A	対処困難な障害物がある
	B	障害物はあるが、対処は比較的容易
	C	特になし
③近接施工	A	対処困難な近接物がある
	B	近接物はあるが、対処は比較的容易
	C	特になし
④騒音・振動	A	対処が困難で、特に慎重な対応が必要
	B	騒音振動等に対する配慮が必要だが対処は比較的容易
	C	特になし
⑤水質汚濁	A	対処が困難で、特に慎重な対応が必要
	B	水質汚濁に対する配慮が必要だが対処は比較的容易
	C	特になし
⑥その他	A	対処が困難で、特に慎重な対応が必要
	B	該当するものがあるが、対処は比較的容易
	C	特になし
<b>5. マネジメント特性</b>		
①他工区調整	A	特に困難な調整を要する他工事(近接工区)の請負者が複数ある
	B	調整を要する他工事(近接工区)の請負者がある
	C	調整を要する他工事(近接工区)の請負者なし
②住民対応	A	特に慎重な対応が求められる
	B	一般的な対応が必要
	C	特に必要なし
③関係機関対応	A	特に慎重な調整が必要
	B	一般的な対応が必要
	C	特に必要なし
④工程管理	A	工期・工程が特に厳しい
	B	執務しながらの改修工事で特に制約が多い
	C	標準的な工期・工程
⑤品質管理	A	特に厳しい品質管理が必要
	B	やや厳しい品質管理が必要
	C	標準的な品質管理
⑥安全管理	A	外来者の多い施設で、工事範囲が外来者・通行人等の動線と近接
	B	外来者の多い施設だが、外来者・通行人等との明解な動線分離が可能
	C	特になし
⑦その他	A	被災時の応急復旧工事
	B	アスベスト等の処理が必要
	C	特になし

## 建築工事(機械)1

機械(倉庫、車庫等)

項目	評価	事例
1. 設備システム		
①システム種別	A	変風量・変流量方式空調
	B	ファンコイルユニット・ダクト併用方式空調
	C	定風量単一ダクト方式空調システムのレベル
②システム規模	A	高置タンク給水方式+減圧弁装置またはポンプ直送方式給水
	B	高置タンク給水方式
	C	直結給水方式
②システム規模	A	一般事務庁舎の延べ面積10,000㎡以上に相当
	B	一般事務庁舎の延べ面積3,000㎡以上10,000㎡未満に相当
	C	一般事務庁舎の延べ面積3,000㎡未満に相当
②その他	A	既存システムを使用しながら一部の既存を再利用するグレードアップ改修工事
	B	評価A、Cに該当しない
	C	既存撤去後に同程度のシステムを新設(システム完全停止が可能)
2. 技術特性		
①工法等	A	総階数9階以上又は建物高さ31m以上
	A	免震構造または設備に影響の大きい耐震改修工事
	B	評価A、Cに該当しない
②その他	C	総階数が2階以下
	A	総プロ、パイロット事業対象工事で難しいものあり
	A	既存システムと複雑に競合する
②その他	B	総プロ、パイロット事業対象工事のうち比較的簡単なもの
	B	既存システムとやや複雑に競合する
	C	評価A、Bに該当しない
	C	単独施工、既存部分との分離可能

機械(庁舎、研修施設)

項目	評価	事例
1. 設備システム		
①システム種別	A	変風量・変流量方式空調
	B	ファンコイルユニット・ダクト併用方式空調
	C	定風量単一ダクト方式空調システムのレベル
②システム規模	A	高置タンク給水方式+減圧弁装置またはポンプ直送方式給水
	B	高置タンク給水方式
	C	直結給水方式
②システム規模	A	一般事務庁舎の延べ面積10,000㎡以上に相当
	B	一般事務庁舎の延べ面積3,000㎡以上10,000㎡未満に相当
	C	一般事務庁舎の延べ面積3,000㎡未満に相当
②その他	A	既存システムを使用しながら一部の既存を再利用するグレードアップ改修工事
	B	評価A、Cに該当しない
	C	既存撤去後に同程度のシステムを新設(システム完全停止が可能)
2. 技術的特性		
①工法等	A	総階数9階以上又は建物高さ31m以上
	A	免震構造または設備に影響の大きい耐震改修工事
	B	評価A、Cに該当しない
②その他	C	総階数が2階以下
	A	総プロ、パイロット事業対象工事で難しいものあり
	A	既存システムと複雑に競合する
②その他	B	総プロ、パイロット事業対象工事のうち比較的簡単なもの
	B	既存システムとやや複雑に競合する
	C	評価A、Bに該当しない
	C	単独施工、既存部分との分離可能

機械(美術館、研究施設等)

項目	評価	事例
1. 設備システム		
①システム種別	A	変风量・変流量方式空調
	B	ファンコイルユニット・ダクト併用方式空調
	C	定风量単一ダクト方式空調システムのレベル
	A	高置タンク給水方式+減圧弁装置またはポンプ直送方式給水
	B	高置タンク給水方式
	C	直結給水方式
②システム規模	A	一般事務庁舎の延べ面積10,000㎡以上に相当
	B	一般事務庁舎の延べ面積3,000㎡以上10,000㎡未満に相当
	C	一般事務庁舎の延べ面積3,000㎡未満に相当
②その他	A	既存システムを使用しながら一部の既存を再利用するグレードアップ改修工事
	B	評価A, Cに該当しない
	C	既存撤去後に同程度のシステムを新設(システム完全停止が可能)
2. 技術的特性		
①工法等	A	総階数9階以上又は建物高さ31m以上
	A	免震構造または設備に影響の大きい耐震改修工事
	B	評価A, Cに該当しない
	C	総階数が2階以下
②その他	A	総プロ、パイロット事業対象工事で難しいものあり
	A	既存システムと複雑に競合する
	B	総プロ、パイロット事業対象工事のうち比較的簡単なもの
	B	既存システムとやや複雑に競合する
	C	評価A, Bに該当しない
	C	単独施工、既存部分との分離可能

## 建築工事(機械)2

項 目	評価	事 例
<b>3. 設備システム複合条件</b>		
①システム間複合度	A	排煙設備、自動制御、特殊空調、中央機械室有り、中央監視室有り 上記の項目のうち該当が4項目以上
	B	排煙設備、自動制御、特殊空調、中央機械室有り、中央監視室有り 上記の項目のうち該当が3項目以上
	C	排煙設備、自動制御、特殊空調、中央機械室有り、中央監視室有り 上記の項目のうち該当が2項目以上
②システム複雑度	A	節水装置、トイレユニット、一般消火、特殊消火、節水装置、厨房、雨水処理、連結送水等 上記項目のうち該当が3項目以上
	B	節水装置、トイレユニット、一般消火、特殊消火、節水装置、厨房、雨水処理、連結送水等 上記項目のうち該当が2項目以上
	C	節水装置、トイレユニット、一般消火、特殊消火、節水装置、厨房、雨水処理、連結送水等 上記項目のうち該当が1項目以上
③その他	A	RI取り扱い施設、電磁シールドルーム、バイオハザード、クリーンルーム、恒温恒湿室等あり特殊映像設備等あり・その他施工が難しい設備がある
	B	実験設備、特殊照明設備、特殊音響設備、特殊映像設備等あり・その他特に施工が難しい設備がある
	C	特になし
<b>4. 社会条件</b>		
①仮設条件	A	仮設条件の制約が厳しい
	B	仮設条件に制約があるが、対処は比較的容易
	C	特になし
②地中障害物	A	対処困難な障害物がある
	B	障害物はあるが、対処は比較的容易
	C	特になし
③近接施工	A	対処困難な近接物がある
	B	近接物はあるが、対処は比較的容易
	C	特になし
④騒音、振動	A	対処が困難で、特に慎重な対応が必要
	B	騒音振動等に対する配慮が必要だが対処は比較的容易
	C	特になし
⑤水質汚濁	A	対処が困難で、特に慎重な対応が必要
	B	水質汚濁に対する配慮が必要だが対処は比較的容易
	C	特になし
⑥その他	A	対処が困難で、特に慎重な対応が必要
	B	該当するものがあるが、対処は比較的容易
	C	特になし
<b>5. マネジメント特性</b>		
①他工区調整	A	特に困難な調整を要する他工事(近接工区)の請負者が複数ある
	B	調整を要する他工事(近接工区)の請負者がある
	C	調整を要する他工事(近接工区)の請負者なし
②住民対応	A	特に慎重な対応が求められる
	B	一般的な対応が必要
	C	特に必要なし
③関係機関対応	A	特に慎重な調整が必要
	B	一般的な対応が必要
	C	特に必要なし
④工程管理	A	工期・工程が特に厳しい
	A	執務しながらの改修工事で特に制約が多い
	B	工期・工程がやや厳しい
⑤品質管理	B	執務しながらの改修工事で制約が多い
	C	標準的な工期・工程
	A	特に厳しい品質管理が必要
⑥安全管理	B	やや厳しい品質管理が必要
	C	標準的な品質管理
	A	外来者の多い施設で、工事範囲が外来者・通行人等の動線と近接
⑦その他	B	外来者の多い施設だが、外来者・通行人等との明解な動線分離が可能
	C	特になし
	A	被災時の応急復旧工事
	A	アスベスト等の処理が必要
	B	PCB・SF6ガス・フロンガス等の処理が必要
	C	特になし



## 施設機械1

### 水路用ゲート

項目	評価	事例
1. 設備条件		
①設備種別	A	ゲート形式(シエル構造ゲート)
	B	ゲート形式(プレートゲーター構造ローラーゲート、起伏ゲート)
②設備規模	A	扉体面積(プレートゲーター構造ローラーゲート=200m <sup>2</sup> /門以上)
	A	最大径間長(シエル構造ゲート=30m以上)
	B	扉体面積(プレートゲーター構造ローラーゲート=50~200m <sup>2</sup> 未満/門)
	B	最大径間長(シエル構造ゲート=15~30m未満以上)
③その他	A	既設設備を運用しながら一部の機器を更新
	B	評価A、Cに該当しないもの(C:既設設備撤去後に同程度の設備を設置)
2. 技術的特性		
①施工技術	A	新技術、新素材等の採用を特に考慮している
	B	新技術、新素材等の採用を比較的考慮している
②その他	A	設備等のコスト縮減等に関する非常に効果的な技術提案があった
	B	設備等のコスト縮減等に関する効果的な技術提案があった

### 堰ゲート

項目	評価	事例
1. 設備条件		
①設備種別	A	ゲート形式(シエル構造ゲート)
	B	ゲート形式(プレートゲーター構造ローラーゲート、起伏ゲート)
②設備規模	A	扉体面積(プレートゲーター構造ローラーゲート=200m <sup>2</sup> /門以上)
	A	最大径間長(シエル構造ゲート=30m以上)
	B	扉体面積(プレートゲーター構造ローラーゲート=50~200m <sup>2</sup> 未満/門)
	B	最大径間長(シエル構造ゲート=15~30m未満以上)
③その他	A	既設設備を運用しながら一部の機器を更新
	B	評価A、Cに該当しないもの(C:既設設備撤去後に同程度の設備を設置)
2. 技術的特性		
①施工技術	A	新技術、新素材等の採用を特に考慮している
	B	新技術、新素材等の採用を比較的考慮している
②その他	A	設備等のコスト縮減等に関する非常に効果的な技術提案があった
	B	設備等のコスト縮減等に関する効果的な技術提案があった

### ゴム引布製起伏ゲート

項目	評価	事例
1. 設備条件		
①設備種別	A	ゲート形式(多段式ゴム堰ゲート)
	B	ゲート形式(2段ゴム堰ゲート)
②設備規模	A	扉体面積 100m <sup>2</sup> /門以上
	B	扉体面積 50~100m <sup>2</sup> 未満/門
③その他	A	既設設備を運用しながら一部の機器を更新
	B	評価A、Cに該当しないもの(C:既設設備撤去後に同程度の設備を設置)
2. 技術的特性		
①施工技術	A	新技術、新素材等の採用を特に考慮している
	B	新技術、新素材等の採用を比較的考慮している
②その他	A	設備等のコスト縮減等に関する非常に効果的な技術提案があった
	B	設備等のコスト縮減等に関する効果的な技術提案があった

## 施設機械1

### ダム放流ゲート

項目	評価	事例
1. 設備条件		
①設備種別	A	ゲート形式(四方水密ローラゲート、アジアルゲート、ホロージェットバルブ、フィクストコンバルブ、ジェットフローゲート)
	B	ゲート形式(三方水密ローラゲート、スライドゲート、スルースバルブ)
②設備規模	A	設計水深(ダム放流設備、制水設備、放流管、小容量放流設備用ゲートバルブ)=80m以上)
	B	設計水深(ダム放流設備、制水設備、放流管、小容量放流設備用ゲートバルブ)=25~80m未満)
③その他	A	既設設備を運用しながら一部の機器を更新
	B	評価A、Cに該当しないもの(C:既設設備撤去後に同程度の設備を設置)
2. 技術的特性		
①施工技術	A	新技術、新素材等の採用を特に考慮している
	B	新技術、新素材等の採用を比較的考慮している
②その他	A	設備等のコスト縮減等に関する非常に効果的な技術提案があった
	B	設備等のコスト縮減等に関する効果的な技術提案があった

### ダム取水ゲート

項目	評価	事例
1. 設備条件		
①設備種別	A	ゲート形式(円形(半円)多段ゲート)
	B	ゲート形式(直線多段ゲート)
②設備規模	A	段数 4段以上
	B	段数 3段
③その他	A	既設設備を運用しながら一部の機器を更新
	B	評価A、Cに該当しないもの(C:既設設備撤去後に同程度の設備を設置)
2. 技術的特性		
①施工技術	A	新技術、新素材等の採用を特に考慮している
	B	新技術、新素材等の採用を比較的考慮している
②その他	A	設備等のコスト縮減等に関する非常に効果的な技術提案があった
	B	設備等のコスト縮減等に関する効果的な技術提案があった

### ポンプ設備

項目	評価	事例
1. 設備条件		
①設備種別	A	形式(横軸斜流ポンプ、立軸斜流ポンプ、立軸渦巻ポンプ、横軸渦巻ポンプ)
	B	形式(横軸軸流ポンプ、立軸軸流ポンプ)
②設備規模	A	口径 2000mm以上
	A	構造 高流速ポンプ
	A	台数 5台以上
	A	全揚程 140m以上
	B	口径 1000~2000mm未満
	B	構造 可動翼ポンプ
	B	台数 3~4台以上
	B	全揚程 50~140m以上
③その他	A	既設設備を運用しながら一部の機器を更新
	B	評価A、Cに該当しないもの(C:既設設備撤去後に同程度の設備を設置)
2. 技術的特性		
①施工技術	A	新技術、新素材等の採用を特に考慮している
	B	新技術、新素材等の採用を比較的考慮している
②その他	A	設備等のコスト縮減等に関する非常に効果的な技術提案があった
	B	設備等のコスト縮減等に関する効果的な技術提案があった

## 施設機械1

### 除塵設備

項目	評価	事例
1. 設備条件		
①設備種別	A	形式(ネット式)
	B	形式(レーキ移動式)
②設備規模	A	台数 5台以上
	A	面積(ネット式=25m <sup>2</sup> 以上、レーキ式=40m <sup>2</sup> 以上)
	B	台数 3~4台
	B	面積(ネット式=12~25m <sup>2</sup> 未満、レーキ式=20~40m <sup>2</sup> 未満)
③その他	A	既設設備を運用しながら一部の機器を更新
	B	評価A, Cに該当しないもの(C: 既設設備撤去後に同程度の設備を設置)
2. 技術的特性		
①施工技術	A	新技術、新素材等の採用を特に考慮している
	B	新技術、新素材等の採用を比較的考慮している
②その他	A	設備等のコスト縮減等に関する非常に効果的な技術提案があった
	B	設備等のコスト縮減等に関する効果的な技術提案があった

## 施設機械2

項 目	評価	事 例
<b>3. 設備設置条件</b>		
①設備環境	A	気象条件が悪く、特に慎重な対応が必要
	A	現場条件が悪く、特に慎重な対応が必要
	B	気象条件は悪いが、対応は比較的容易
	B	現場条件は悪いが、対応は比較的容易
②土木構造物	A	土木構造物が複雑で、特に慎重な対応が必要
	B	土木構造物が複雑ではあるが、対応は比較的容易
③その他	A	その他の特殊要因等があり、特に慎重な対応が必要
	B	その他の特殊要因等があるが、対応は比較的容易
<b>4. 社会条件</b>		
①地中障害物	A	対応困難な障害物がある
	B	障害物があるが対応が比較的容易
②近接施工	A	関連工事等との困難な調整が必要
	B	関連工事等と調整は必要であるが、対応が比較的容易
③騒音、振動	A	騒音、振動に対する配慮が必要であるが、対応は困難
	B	騒音、振動に対する配慮が必要であるが、対応は比較的容易
④水質汚濁	A	水質汚濁に対する配慮が必要であるが、対応は困難
	B	水質汚濁に対する配慮が必要であるが、対応は比較的容易
⑤作業用道路・ヤード	A	作業道路、ヤードの制約が厳しい
	B	作業道路、ヤードの制約があるが、対応は比較的容易
⑥現道作業	A	対応が困難で特に慎重な対応が必要
	B	一般的な対応が必要
⑦その他	A	騒音、振動、水質汚濁以外の環境対策、廃棄物処理
	B	PCB、SF6ガス、フロンガス等の処理が必要
<b>5. マネジメント特性</b>		
①他工区調整	A	特に困難な調整を要する他工事(近接工区)の請負者が複数ある
	B	調整を要する他工事(近接工区)の請負者がある
②住民対応	A	特に慎重な対応が必要
	B	一般的な対応が必要
③関係機関対応	A	特に慎重な対応が必要
	B	一般的な対応が必要
④工程管理	A	工期、工程が特に厳しい
	B	工期、工程がやや厳しい
⑤品質管理	A	特に厳しい品質管理が必要
	B	やや厳しい品質管理が必要
⑥安全管理	A	特に危険な作業
	B	やや危険な作業
⑦その他	A	被災時に応急復旧工事で対応が困難
	B	被災時に応急復旧工事で一般的な対応が必要

## 電気・通信・受変電設備1

電気設備(河川本川・堤防)  
 電気設備(樋門・樋管、用排水機、堰)  
 電気設備(海岸一般)  
 電気設備(砂防一般)  
 電気設備(堤体本体)  
 電気設備(ダム周辺)  
 電気設備(道路付帯施設)  
 電気設備(トンネル)  
 電気設備(橋梁、共同溝)

項目	評価	事例
<b>1. 設備条件</b>		
①設備種別	A	高圧配電
	A	昇圧設備あり
	B	低圧配電
	B	電源補償設備あり
	C	低圧配電単独引き込み
②設備規模	A	道路照明: 灯数50灯以上
	A	トンネル: 延長500m以上
	A	配電線路: 宜長1000m以上
	A	共同溝: 延長500m以上
	A	地下駐: 床面積1000m <sup>2</sup> 以上
	A	水処理: 容量300kVA以上
	A	道路ヒーティング: 容量100kVA
	B	20 ≤ 灯数 < 50灯
	B	75 ≤ 延長 < 500m
	B	500 ≤ 宜長 < 1000m
	B	200 ≤ 延長 < 500m
	B	500 ≤ 床面積 < 1000m <sup>2</sup>
	B	100 ≤ 容量 < 300kVA
	B	50 ≤ 容量 < 100kVA
	C	灯数20灯未満
	C	延長75m未満
	C	宜長500m未満
	C	延長200m未満
	C	床面積500m <sup>2</sup> 未満
	C	容量100kVA未満
	C	容量50kVA未満
③その他	A	既設設備を運用しながら一部の機器を更新
	B	評価A, Cに該当しないもの
	C	既設設備撤去後に同程度の機器を設置
<b>2. 設備技術特性</b>		
①設備仕様	A	設備のランニングコスト低減を特に考慮している
	A	監視制御設備による制御
	B	設備のランニングコスト低減を比較的考慮している
	B	自動点滅装置による制御
	C	特になし
	C	点滅スイッチによる制御
②施工方法	A	新規の工法、使用材料等を採用し、特に慎重な対応が必要
	B	新規の工法、使用材料等を採用しているが、対処は比較的容易
	C	特になし
③その他	A	ヒューマンインタフェースの考慮により、設備の操作性が非常によい
	B	ヒューマンインタフェースの考慮により、設備の操作性が比較的よい
	C	特になし

## 電気・通信・受変電設備1

通信設備(河川本川・堤防)  
 通信設備(樋門・樋管、用排水機、堰)  
 通信設備(海岸一般)  
 通信設備(砂防一般)  
 通信設備(堤体本体)  
 通信設備(ダム周辺)  
 通信設備(道路付帯施設)  
 通信設備(トンネル)  
 通信設備(橋梁、共同溝)

項目	評価	事例
<b>1. 設備条件</b>		
①設備種別	A	衛生通信設備(可搬型を除く)
	A	各種情報通信(処理)設備(データ処理配信機能あり)
	A	シリンダー鉄塔
	B	多重通信設備、ヘリ画像受信設備、K-COSMOS、有線通信設備、電話交換設備
	B	各種情報通信(処理)設備(データ処理機能あり)
	B	パイプトラス鉄塔
	C	その他の一般的な通信設備
	C	各種情報通信(処理)設備(データ送受機能あり)
	C	評価A,Bに該当しない鉄塔
②設備規模	A	鉄塔:高さ50m以上
	A	反射板:面積50m <sup>2</sup> 以上
	A	光ケーブル:接続10個所以上
	A	CCTV:画像処理系及び伝送系を含む
	B	30≦高さ<50m
	B	30≦面積<50m <sup>2</sup>
	B	1個所≦接続<10個所
	B	伝送系を含む
	C	高さ30m未満
	C	面積30m <sup>2</sup> 未満
	C	接続10個所なし
	C	CCTVのみ
③その他	A	既設設備を運用しながら一部の機器を更新
	B	評価A, Cに該当しないもの
	C	既設設備撤去後に同程度の機器を設置
<b>2. 設備技術特性</b>		
①設備仕様	A	設備のランニングコスト低減を特に考慮している
	A	監視制御設備による制御
	B	設備のランニングコスト低減を比較的考慮している
	B	自動点滅装置による制御
	C	特になし
	C	点滅スイッチによる制御
②施工方法	A	新規の工法、使用材料等を採用し、特に慎重な対応が必要
	B	新規の工法、使用材料等を採用しているが、対処は比較的容易
	C	特になし
③その他	A	ヒューマンインタフェースの考慮により、設備の操作性が非常によい
	B	ヒューマンインタフェースの考慮により、設備の操作性が比較的よい
	C	特になし

## 電気・通信・受変電設備1

受変電設備(河川本川・堤防)

受変電設備(樋門・樋管、用排水機、堰)

受変電設備(海岸一般)

受変電設備(砂防一般)

受変電設備(堤体本体)

受変電設備(ダム周辺)

受変電設備(道路付帯施設)

受変電設備(トンネル)

受変電設備(橋梁、共同溝)

項目	評価	事例
1. 設備条件		
①設備種別	A	特別高圧設備
	B	高圧設備
	C	低圧設備
②設備規模	A	高圧受変電:容量1000kW以上
	A	特高受変電:容量5000kW以上
	A	発電:容量500kW以上
	B	500≦容量<1000kW
	B	3000≦容量<5000kW
	B	100≦容量<500kW
	C	容量500kW未満
	C	容量3000kW未満
	C	容量100kW未満
③その他	A	既設設備を運用しながら一部の機器を更新
	B	評価A, Cに該当しないもの
	C	既設設備撤去後に同程度の機器を設置
2. 設備技術特性		
①設備仕様	A	設備のランニングコスト低減を特に考慮している
	A	監視制御設備による制御
	B	設備のランニングコスト低減を比較的考慮している
	B	自動点滅装置による制御
	C	特になし
	C	点滅スイッチによる制御
②施工方法	A	新規の工法、使用材料等を採用し、特に慎重な対応が必要
	B	新規の工法、使用材料等を採用しているが、対処は比較的容易
	C	特になし
③その他	A	ヒューマンインタフェースの考慮により、設備の操作性が非常によい
	B	ヒューマンインタフェースの考慮により、設備の操作性が比較的よい
	C	特になし

## 電気・通信・受変電設備2

項目	評価	事例
<b>3. 設備設置条件</b>		
①設備環境	A	冬季において積雪や凍結に特に慎重な対応が必要
	A	共同溝の深度があり作業困難
	B	積雪や凍結はあるが対処は比較的容易
	C	一般的な設置環境
②設置構造物	A	道路、トンネル線形が厳しいなど特に慎重な対応が必要
	B	道路、トンネル線形が厳しいが対処は比較的容易
	C	特になし
③その他	A	共同溝にガス洞道があり特に細心の配慮が必要
	B	共同溝にガス洞道があり一般的な配慮が必要
	C	特になし
<b>4. 社会条件</b>		
①地中障害物	A	対処困難な障害物がある
	B	障害物があるが対処が比較的容易
	C	一般的な設置環境
②近接施工	A	対処困難な近接物がある
	B	近接物があるが、対処が比較的容易
	C	特になし
③騒音、振動	A	対処が困難で特に慎重な対応が必要
	B	騒音、振動に対する配慮が必要であるが、対処は比較的容易
	C	特になし
④水質汚濁	A	水質汚濁に対する配慮が必要であるが、対処が困難で特に慎重な対応が必要
	B	水質汚濁に対する配慮が必要であるが、対処は比較的容易
	C	特になし
⑤作業用道路・ヤード	A	作業道路、ヤードの制約が厳しい
	B	作業道路、ヤードの制約があるが、対処は比較的容易
	C	特になし
⑥現道作業	A	対処が困難で特に慎重な対応が必要
	B	一般的な対応が必要
	C	特になし
⑦その他	A	対処が困難で特に慎重な対応が必要
	B	PCB、SF6ガス、フロンガス等の処理が必要
	C	特になし
<b>5. マネジメント特性</b>		
①他工区調整	A	特に困難な調整を要する他工事(近接工区)の請負者が複数ある
	B	調整を要する他工事(近接工区)の請負者がある
	C	特になし
②住民対応	A	特に慎重な対応が必要
	B	一般的な対応が必要
	C	特になし
③関係機関対応	A	特に慎重な対応が必要
	B	一般的な対応が必要
	C	特になし
④工程管理	A	工期、工程が特に厳しい
	B	工期、工程がやや厳しい
	C	標準的な工期、工程
⑤品質管理	A	特に厳しい品質管理が必要
	B	やや厳しい品質管理が必要
	C	標準的な品質管理
⑥安全管理	A	特に危険な作業
	B	やや危険な作業
	C	標準的な作業
⑦その他	A	被災時に応急復旧工事で対処が困難
	B	被災時に応急復旧工事で一般的な対応が必要
	C	特になし



## ダム1

### 重力式ダム

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	A	ダム高 150m以上
	B	ダム高 100m以上
2. 技術的特性		
①工法等	B	材料運搬・計量・混練・品質管理等に関し、特殊・高度技術
	B	マスコンの熟ひび割れ制御、プレクリーン等
	B	ダム用コンクリート骨材製作の歩留まり率の向上、廃棄岩の有効活用
	B	遮水グラウチングの品質制御・遮水効果計測技術に関し、特殊・高度技術
	B	ダム用高流動コンクリート
	B	CSG工法
	B	堤内構造物にプレキャスト部材の活用
	B	地山ーダム堤体連成系の安定性に関し、高度な解析技術
	B	パイロット事業等(新技術)の実施

### アーチ式ダム

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	A	ダム高 100m以上
	B	ダム高 50m以上
2. 技術的特性		
①工法等	B	材料運搬・計量・混練・品質管理等に関し、特殊・高度技術
	B	マスコンの熟ひび割れ制御、プレクリーン等
	B	ダム用コンクリート骨材製作の歩留まり率の向上、廃棄岩の有効活用
	B	遮水グラウチングの品質制御・遮水効果計測技術に関し、特殊・高度技術
	B	ダム用高流動コンクリート
	B	堤内構造物にプレキャスト部材の活用
	B	地山ーダム堤体連成系の安定性に関し、高度な解析技術
	B	パイロット事業等(新技術)の実施

### ロックフィルダム

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	A	ダム高 150m以上
	B	ダム高 100m以上
2. 技術的特性		
①工法等	B	材料運搬・計量・混練・品質管理等に関し、特殊・高度技術
	B	バラツキが大きい盛立材料、従来不良とされた盛立材料の活用
	B	アスファルト等の土質以外の遮水壁を採用
	B	GPS利用の転圧管理
	B	遮水グラウチングの品質制御・遮水効果計測技術に関し、特殊・高度技術
	B	堤内構造物にプレキャスト部材の活用
	B	地山ーダム堤体連成系の安定性に関し、高度な解析技術
	B	パイロット事業等(新技術)の実施

ダム1

アースダム

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	A	ダム高 30m以上
	B	ダム高 20m以上
2. 技術的特性		
①工法等	B	材料運搬・計量・混練・品質管理等に関し、特殊・高度技術
	B	バラツキが大きい盛立材料、従来不良とされた盛立材料の活用
	B	GPS利用の転圧管理
	B	遮水グラウチングの品質制御・遮水効果計測技術に関し、特殊・高度技術
	B	堤内構造物にプレキャスト部材の活用
	B	地山ーダム堤体連成系の安定性に関し、高度な解析技術
	B	パイロット事業等(新技術)の実施

表面遮水壁フィルダム

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	A	ダム高 70m以上
	B	ダム高 50m以上
2. 技術的特性		
①工法等	B	材料運搬・計量・混練・品質管理等に関し、特殊・高度技術
	B	アスファルト等の土質以外の遮水壁を採用
	B	バラツキが大きい盛立材料、従来不良とされた盛立材料の活用
	B	GPS利用の転圧管理
	B	遮水グラウチングの品質制御・遮水効果計測技術に関し、特殊・高度技術
	B	堤内構造物にプレキャスト部材の活用
	B	地山ーダム堤体連成系の安定性に関し、高度な解析技術
B	パイロット事業等(新技術)の実施	

複合ダム

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
①規模	A	ダム高 70m以上
	B	ダム高 50m以上
2. 技術的特性		
①工法等	B	マスコンの熟ひび割れ制御、プレクリーン等
	B	アスファルト等の土質以外の遮水壁を採用
	B	バラツキが大きい盛立材料、従来不良とされた盛立材料の活用
	B	GPS利用の転圧管理
	B	ダム用高流動コンクリート
	B	CSG工法
	B	遮水グラウチングの品質制御・遮水効果計測技術に関し、特殊・高度技術
	B	堤内構造物にプレキャスト部材の活用
B	パイロット事業等(新技術)の実施	

ダム維持管理

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
③その他	B	コンクリートダム堤体部における作業構台の撤去工事
2. 技術的特性		
①工法等	B	パイロット事業等(新技術)の実施
②その他	B	ダム湖に漂流する流木の集積及び拾い上げ方法など技術提案
	B	ダム湖の浚渫土砂処理・有効利用に関する技術提案
	B	ダム湖水質改善等に関する技術提案

## ダム2

項 目	評価	事 例
<b>3. 自然条件</b>		
①湧水・地下水	B	掘削による湧水多量
	B	過去の土石流堆積地で湧水多い
	B	床掘掘削面の地層変化点からの湧水に苦慮
	B	掘削中湧水量が多く、施工時ポンプ排水を実施
②軟弱地盤	B	床掘時の湧水量が多く、コンクリート打設完了まで常時ポンプ排水を実施
	A	地盤の支持力不足により、構造変更を余儀なくされた
	A	土石流の危険がある溪流、地形急峻で安全管理等の対応で工事困難
	B	不均質な基礎地盤
	B	スレーキングの著しい軟岩
	B	限界圧の低い軟岩
	B	幅5m程度以上の大規模断層、破碎帯が基礎に分布する
	B	ルゾン値50程度以上の高透水ゾーンが分布する
	B	厚い砂礫層が分布する
	B	土石流の危険がある溪流で降雨時に土砂流出有り
	B	急峻な地形、一部で崩壊有り。支持地盤は岩盤で一部弱層有り
	B	崖錘堆積物があり、崩れ易い地形での作業
③作業用道路・ヤード	B	湖岸の急峻な法面で施工区間も20～30mと短く作業スペース等の制約
	B	施工箇所の大部分が、ダム湖周辺の急勾配の斜面
	B	法面が急峻で掘削しながら整形
	B	仮置きする場所がない
④気象	B	貯水池上の取水塔内での作業
	A	冬期は-20℃
	A	土石流の危険がある溪流、地形急峻で安全管理等の対応で工事困難
	B	降雨による出水の影響大、仮締切、水替に工夫
	B	活火山よりの噴石及び土石流
	B	土石流流下区間で、わずかな降雨で土砂流出
	B	土石流の危険がある溪流。集中豪雨による河床洗掘を受ける
	B	土石流の危険がある地区内での出水対応
	B	出水対応、土石流対応
	B	工期内で出水によるダム水位変動の中で工事を完了した
	B	出水によるダム水位の変動により、作業期間に制約がある
	B	厳寒期でのコンクリート打設
	B	冬季の施工があり、工程等に制約あり
B	緊急工事の為、豪雪地域で通年施工	
B	冬期は-10℃にさがる	
⑤その他	B	夜間施工
	B	天然記念物、貴重動植物への配慮
<b>4. 社会条件</b>		
①地中障害物	B	搬入路の一部に給湯管が埋設
	B	工事用道路に送水管(温泉)の埋設有り
②近接施工	B	連続する護岸工事有り
	B	複数の工事が近接施工
③騒音、振動	B	仮設道路を使用する複数の別件の工事があり
	B	工事用道路が住宅地の狭い村道を通る
	B	集落内を徐行運転する必要があった
	B	温泉源、送水管(温泉)への影響配慮
④水質汚濁	B	周辺住民に対する騒音振動に配慮
	B	濁水等漁協への配慮が必要
	B	下流付近にやまめの養殖場があり、床掘、生コン打設等の施工時には配慮
	B	沢水を農業用水に利用しているため、濁水対策が必要
	B	下流に上水水源が有り、水質汚濁防止策を実施
	B	下流部の旅館、釣り客に配慮し、沈殿池を設置
⑤作業用道路・ヤード	B	中和設備(グラウト材)を設置
	B	一般道路(1車線)を利用した土砂運搬
	B	交互通行の不可能な狭い町道を利用した資材運搬
	B	運搬道路(町道)が狭く長いので待避所を設けたり、無線連絡をとりつつ地元車優先で対応
	B	生活観光道路としての通路を確保しての作業
	B	工事用道路が住宅地の狭い村道を通る
	B	土砂搬出のための大量のダンプトラックが公道を利用する
	B	現道を利用して狭隘なヤード内での作業
	B	土取場で土石採取の複数の会社が競合
	B	溶岩原に仮設道路を新設

## ダム2

項目	評価	事例
⑤作業用道路・ヤード	B	迂回路無し
⑥現道作業	A	交通規制を伴う夜間作業
	B	公道上で交通整理員を24時間配置しての片側交互通行規制での工事
	B	資材搬入に際し片側通行規制
	B	工事区域内に市道等があり、作業中は交通止め作業時以外は復旧し供用(日々)
	B	現道(兼用道路)を交通止めしての資材運搬
⑦その他	A	国立公園特別保護地区内
	B	コンクリート等のガラの再利用
	B	多量の焼却灰の処理
	B	多量の伐採材の処理
5. マネジメント特性		
①他工区調整	B	作業用道路が隣接工区と供用するため調整困難
	B	工事範囲が他工事の作業用道路となるため、他工事と調整
	B	搬入路を複数工事で利用
	B	搬入土仮置きヤードが他工事と同一箇所。運搬台数の調整必要
	B	他工事への建設発生土の運搬調整
	B	土石流危険渓流による他工事との調整
	B	近隣工事施工者との調整必要
	B	床固を左右岸で隣接しての施工で行程等調整事項が多い
	B	他工事との仮排水路等調整に苦慮
	B	災害復旧工事が錯綜しており、施工調整が難
	B	他工区と作業帯離隔に伴う工程調整
②住民対応	A	困難な住民対応が予想されたが住民へのコミュニケーション対応が良く、工事遂行
	B	沿道住民(漁業関係者)との対応を頻繁に実施
	B	湧水を利用した耕作者が多いため調整が困難
	B	周辺が水田地であり沈下等により用、排水の確保に配慮
	B	耕作地への取り付け道路及び集落内の採取土運搬で各種の対応
	B	地元へのビラや回覧、道路利用者への情報提供など地元調整を実施
	B	現場見学会、ご意見箱の設置など住民対応に積極的な取り組み必要
	B	住民への工事現場報告会を実施、沿道への月間工程表の配布及び直接対話
	B	市街地での沿線住民への対応
	B	井戸枯れ、排水処理及び振動騒音等の対応において地元調整
	B	地元から非常に厳しい要望のある中での工事、対応
	B	災害時における緊急工事に関する沿道、周辺住民への配慮
	B	振動騒音に対する内容確認と対応
	B	夜間作業での騒音振動対策(地元説明により夜間作業の理解をえる)
	B	通行規制を伴う為、チラシ作成、立看板を作成し道路利用者に周知
	B	通学路に当たり、自治体、学校自治会などと協議
	B	民地出入り口調整、田圃への出入り口調整
	B	店舗が多く出入り口等の調整が非常に多い
	B	迂回路設定時における要望等への対応
	B	生活道路を利用して資機材搬入のための住民対応
	B	農道を利用して資機材搬入のための住民対応
	B	歩道切り回し及び出入りに関わる周辺住民対応
	B	通行止めに伴う自治会の承諾
	B	学識経験者及び自然の会などの意見調整
	B	旅館利用者、登山者などへの配慮が必要
	B	リゾート施設内(ゴルフ場、スキー場、キャンプ場等)で作業時間等の調整
	B	隣接の小学校、神社及び樹木の取扱い調整
	B	温泉所有者との連絡調整有り
	B	用地買収等での住民対応が必要
	B	借地等での住民対応が必要
	B	店舗関係者との調整
	B	地元町内会、マンション自治会、深夜営業店との対応
	B	用水路付け替え工事で用水組合との協議
	B	多数の地権者との境界調整を伴う工事
	B	官民境界付近の工事であり、調整必要
	B	水利組合との協議調整
③関係機関対応	B	JR、JH、NTT、電力、ガス、上下水道、有線放送、国道、市町道等の管理者との協議
	B	警察、公安委員会との調整
	B	国立公園、国有林、民有保安林が絡む現場で、協議のため関係機関と対応
	B	環境省(自然公園法)、文化庁(文化財保護法)との調整
	B	林野庁、森林管理局との調整

## ダム2

項 目	評価	事 例
③関係機関対応	B	森林管理署等との調整
	B	教育委員会との調整
	B	消防署との協議
④工程管理	B	集中工事期間内での工事のため工期、工程に制約
	B	5月の連休前供用を図るため、工期を1ヶ月短縮要請
	B	契約当初より工期、工程条件が厳しい工事条件に対処
	B	外、内水面漁協からの制約を受け工程厳しい
	B	鮎釣り解禁を控え、工程短縮の要請
	B	7月末までの工期であるが田植期前までに概成
	B	用地問題及び変更への対応
	B	観光地であることから早期完成の要請
	B	猛禽類配慮等による工期の制約
	B	植樹、植栽期間が制限され工期制約
	B	土石流発生の危惧のため出水期までの早期完成
	B	冬期間における施工のため工程管理上の制約
	B	施工箇所が山間部で時期的にも気象状況に左右されやすい
	B	緊急災害復旧工事における早期完成
	B	工事搬入路である一般国道の災害及び交通止めによる工程影響
	B	工法変更に伴う工程調整に困難を要した
	B	増工、新規工種発生による工程変更が生じた
	B	変更、一時中止で工程管理への影響に対応
	B	想定外の地中障害物への対応により工程管理苦慮
	B	地質変化等、条件変更に伴う工程の対応
	B	標準断面契約で工期に制約のあるなか対応
	B	概略発注に伴う設計変更等、工程管理
	B	地質調査、検討、測量、設計が工事に含まれており、工程管理上の制約
	B	週休二日制モデル工事
	B	先行工事の遅れにより工期の延期及び施工順序の見直しが必要
	B	他工事(機械工事、電気工事、上屋建築工事、県発注改修工事等)との工程調整(他工事への影響大)
	B	隣接工事との工程調整
	B	用地買収進捗等の規制
	B	点在している工区の工程調整
	B	文化財発掘調査の為に日数を要し、工程管理対応
⑤品質管理	B	暑中及び寒中コンクリートの施工となる箇所があり養生、品質管理重要
	B	標高が高く、急激な温度等の変化に対する品質管理が必要
	B	施工試験、配合試験の実施による品質確保の検証
	B	品質管理法の工夫必要
	B	中詰土の現場密度管理に十分な注意が必要
	B	床固及び護岸表面の石張り施工品質管理
⑥安全管理	B	仮排水トンネル閉塞工のグラウトの品質管理、濁水処理水の放流濁度管理実施
	A	土石流危険渓流、急峻で崖錘堆積物が多く、崩落の危険性大
	B	土石流危険渓流、地形急峻
	B	安全協議会を設置し、山体監視、地震計監視、サイレン等を共有設置
	B	活火山の噴石及び小雨で発生する泥流、土石流対策
	B	切土高が高く、作業箇所が狭小であるため、上下作業にならない機械及び作業員の設置
	B	高さ30mの法面で命綱による危険作業
	B	切土高が高く地山の崩壊などの安全管理
	B	狭所作業における重機挟まれに対する安全管理
	B	緊急災害復旧工事での安全管理
	B	交通量が多い現道上での夜間作業の安全管理
	B	坑内作業が主であり危険
	B	降雨の中での工事、作業に対して安全管理が特に必要
	B	崩壊箇所のため、法面の挙動観察等厳しい管理が必要
	B	急勾配、急カーブ区間における車線切り回し施工、安全管理重要
	B	現道切り回し施工における安全管理
	B	他工事と上下作業になる事から連絡調整必要
	B	複数の他工区が隣接しているため安全協議会を作り事故防止
	B	有害特定化学物質の除去作業における安全対策、特別産業廃棄物に準じた安全対策
	⑦その他	B
B		集中豪雨の復旧工事に迅速に対応
B		台風後の応急的工事
B		施工内容、ICカード試験フィールド
	B	リサイクルモデル工事の一般公開工事

## ダム2

項 目	評価	事 例
⑦その他	B	建設CALSへの取り組み
	B	地元住民の多自然型護岸に対する理解を深めるため「護岸作り(植樹)」イベントを開催
	B	見学者対応に積極的に協力
	B	温泉源の温度測定を実施

## 公園1

### 基盤整備

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
③その他	B	石造りアーチ橋の移設
2. 技術的特性		
①工法等	B	パイロット事業等(新技術)の実施

### 植栽

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
②形状	B	石積みの積み方が複雑(農家風に積み方を再現)
2. 技術的特性		
①工法等	B	パイロット事業等(新技術)の実施

### 施設整備

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
②形状	B	全延長50mの間で勾配の変化点が7箇所ある人口グレンデの設置
②形状	B	自然の渓谷を再現、形状複雑
2. 技術的特性		
①工法等	B	パイロット事業等(新技術)の実施
	B	人工生態礁(イカダ状植生浮島)
	B	流域産の自然石・間伐材を使用し、景観に配慮した施工
	B	針葉樹の皮を混合した木質系常温舗装の採用
	B	園路整備でゴムチップを使った透水性弾性舗装を採用
	B	擬岩パネル工法

### グラウンドコート整備

項目	評価	事例
2. 技術的特性		
①工法等	B	パイロット事業等(新技術)の実施

### 自然育成

項目	評価	事例
2. 技術的特性		
①工法等	B	パイロット事業等(新技術)の実施

### 維持管理

項目	評価	事例
1. 構造物条件		
③その他	B	植栽箇所において土壌改良をした客土を実施
2. 技術的特性		
①工法等	B	パイロット事業等(新技術)の実施

## 公園2

項目	評価	事例
3. 自然条件		
④気象・海象	B	天候の影響により植栽後の管理に時間を費やした
	B	雨で現場への土砂の流出が多い
	B	擬岩工事がメインで、雨に影響されやすい
	B	高水敷で、現場が浸水
⑤その他	B	天然記念物、貴重動植物への配慮
	B	現場は、貴重種のこあじさいの営巣地となる
4. 社会条件		
①地中障害物	B	不発弾の調査を実施
	B	埋設物調査の実施
	B	ガス管、NTT、水道、下水道の埋設物有り、移設に苦慮
	B	水道、NTT管等が近くに埋設されておりそれを確認しながらの施工
	B	施工箇所に地下埋設物(水道管等)があり、施工時には保護を行い処理
	B	占用物件、横断構造物等、事前の調査と対応した工法が重要
	B	コンクリート殻等あり
	B	路盤に鉢滓があり掘削に苦慮
	B	矢板施工中に流木と干渉
②近接施工	B	路面電車の近接物有り
	B	JR近接施工
	B	現道脇で電柱、架空線の移設が伴う工事であった
	B	斜面上部に高圧線鉄塔があり、法面対策工に慎重を要した
	B	(送電、通信)架空線越しの落石防止作業
	B	住宅近接(人家密集)
	B	民家などの建築物連担地区での側溝工事
	B	病院に隣接した工事
	B	会社、住宅が近接、工事施工中数回の調査
	B	他工事と競合する部分の多い工事
	B	一部区間で他工事と重複
③騒音、振動	B	開園区域内の工事、騒音対策が必要
	B	周辺住民に対する騒音、振動の配慮
	B	DID区域内の施工
⑤作業用道路・ヤード	B	開園区域内・現道路側での工事、作業スペースに制限あり
	B	隣接工事が多く、作業用道路の使用規制が多い
⑥現道作業	B	交通量の多い現道作業のため交通規制を伴う
⑦その他	B	工区内の伐採材の処理に苦慮
5. マネジメント特性		
①他工期調整	B	作業用道路が隣接工区と共用するため調整困難
	B	工事範囲が他工事の作業用道路となるため他工事と調整
	B	搬入路を複数工事で利用
	B	搬入土仮置きヤードが他工事と同一箇所。運搬台数の調整必要
	B	他工事との工程調整の必要有り
	B	他工事との重複現場であり、他工事との調整が必要
②住民対応	B	漁業組合との調整
	B	市街地での沿線住民への対応
	B	井戸枯れ、排水処理及び振動騒音等の対応において地元調整
	B	振動騒音に対する内容確認と対応
	B	供用中の公園であるため、来園者に配慮が必要
	B	会社施設(工場、事業所)との調整
	B	隣接の小学校、神社及び樹木の取扱い調整
	B	用地買収等での住民対応が必要
	B	地元町内会、マンション自治会、深夜営業店との対応
	B	水利組合等との協議調整
	B	多数の地権者との境界調整を伴う工事
	B	官民境界付近の工事であり、調整必要
③関係機関対応	B	JR、JH、NTT、電力、ガス、上下水道、有線放送、国道、町道等の管理者との協議
	B	遺構保存するため文化財課との調整が必要
	B	関係行政機関との調整(自治体、水防団、自衛隊、警察等)
	B	警察、公安委員会との調整
	B	国立公園、国有林、民有保安林が絡む現場で、協議のため関係機関と対応
	B	環境庁(自然公園法)、文化庁(文化財保護法)との調整
	B	林野庁との調整
	B	森林管理署等との調整
	B	教育委員会との調整
	B	消防署との協議
④工程管理	B	開園区域内での工事であり早期供用の要請
	B	冬期間における施工のため工程管理上の制約
	B	工法変更に伴う工程調整に困難を要した
	B	増工、新規工種発生による工程変更が生じた
	B	変更、一時中止で工程管理への影響に対応
	B	想定外の地中障害物等への対応により工程管理苦慮
	B	多自然型工法のため変更に際しての困難発生
	B	隣接工事との工程調整



## 公園2

項 目	評価	事 例
④工程管理	B	文化財発掘調査の為に日数を要し、工程管理対応
	B	複雑に入り組んだ各種遊具の追加に対し工程管理対応
⑤品質管理	B	暑中及び寒中コンクリートの施工となる箇所があり養生・品質管理重要
	B	夏場の植栽工事のため枯れ死しないように管理を頻繁に実施
	B	多自然工法のため品質管理を細かく行う必要
⑥安全管理	A	自動車専用道路における昼夜間連続作業に対する安全確保
	A	強風化層斜面での作業で安全管理に特に配慮が必要
	B	夜間の移動作業時、交通規制が複雑
	B	降雨の中での工事、作業に対して安全管理が特に必要
	B	崩壊箇所のため、法面の挙動観察等厳しい管理が必要
	B	開園区域内の工事であり、来園者に対する安全確保が重要
	B	供用中の公園が隣接しており、安全管理重要
⑦その他	B	施工内容、ICカード試験フィールド
	B	リサイクルモデル工事の一般公開工事
	B	建設CALSへの取り組み

問い合わせ先  
〒840-8570 佐賀県佐賀市城内1-1-59  
佐賀県県土整備部 入札・検査センター  
TEL 0952-25-7470 (直通)  
FAX 0952-25-7479  
e-mail:nyusatsu-kensa@pref.saga.lg.jp